

321

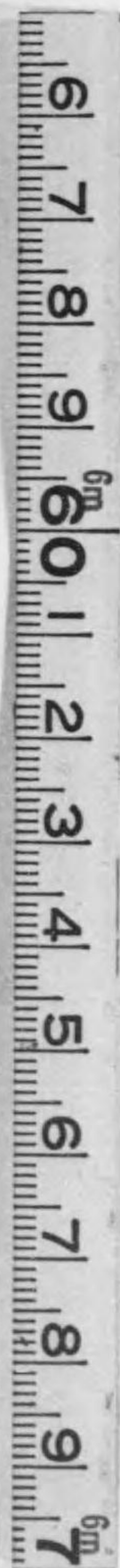
149

大正七年五月

第三回海外派遣官報告集

(第一)

農商務省商工局



始



321-149



凡例

本書ハ時局ニ際シ海外貿易事情調査ノ爲メ大正六年度ニ於テ  
臨時産業調査局ヨリ諸外國ヘ簡派セラレタル諸員ノ報告書  
支那、露西亞、英領海峽殖民地、濠洲、北米合衆國、英領加奈陀、英國  
面ニ關スルモノヲ収録セルモノナリ

片寄贈本

大正 7 6 6  
寄贈



其 圖

Vertical text in seal script, likely a library or collection stamp, partially obscured by the seal above.



目 次

第三回海外派遣官報告集第一

一、露 西 亞

臨時産業調査局 囑 託 布川孫市

- 第一、極東露領浦港及哈市の商況……………一頁
- 第二、極東に於ける露支日三國人の狀態……………九
- 第三、極東の貨幣市場と物價騰貴……………一六
- 第四、西比利亞の鑛業……………二五
- 第五、浦港の商況不振……………三五

一、濠 洲

臨時産業調査局 事務官 高橋武美

- 第一、濠洲最近の市況及航路……………三七
- 第二、一九一六年に於ける濠洲貿易の大觀……………四一
- 第三、濠洲に於ける鉛及亞鉛の精鍊業……………六六

目 次

一、英領海峽殖民地

臨時産業調査局 囑 託 松尾音治郎

第一、馬來半島方面に於て囑目すべき新工業……………六九

一、北米合衆國

臨時産業調査局 事務官 大濱喜一郎

第一、北米シャツル近況……………七四

第二、米國鐵道の輸送制限に關して……………七五

第三、聯合國の船舶聯合……………七六

第四、米國金輸出禁止事情及棉花市況……………八〇

第五、米國船舶院の活動と同國造船力……………八二

第六、米國船舶院の活動……………八三

第七、聯合國の船舶聯合(再び)……………八四

第八、米國造船材料及勞働者並海員供給……………八五

第九、米國に於ける輸入禁止……………八七

第十、同(再び)……………九五

第十一、米國の輸出制限に關して……………一〇〇

第十二、聯合國の船舶聯合(三度び)……………一〇二

第十三、米國に於ける軍需品製造會社の勃興……………一〇三

第十四、米國に於ける輸入禁止(三度び)……………一〇五

第十五、米國の來年度豫算……………一〇六

第十六、米國に於ける輸入禁止(四度び)……………一〇八

第十七、不必要品の製造制限に關する米國の政策……………一一〇

第十八、米國政府の鐵道統一政策……………一一二

第十九、露國に於ける米人鐵道請負業の繼續……………一一七

第二十、北米合衆國に於ける南米羊毛の需要増加……………一一八

一、支那

臨時産業調査局 技師 吉岡直富

第一、河野商會旅順機業場の現況……………一二二

第二、滿洲に於ける輸入綿布概況……………一二六

第三、奉天の織物業……………一三四

第四、營口の機業……………一三七

第五、青島概観……………一四〇

第六、山東省の絹紬……………一四七

第七、山東省の經營……………一五五

第八、山東省の綿織物……………一五七

第九、支那直隸に於ける綿紡織業……………一六一

一、英領加奈陀  
臨時産業調査局 技師 三輪 震 一

第一、加奈陀機械工業概観……………一八三

一、英 國  
臨時産業調査局 技師 吉田 信 一

第一、歐洲化學工業一端……………一八六

一、露 西 亞

臨時産業調査局囑託 布 川 孫 市

第一、極東露領浦港及哈市の商況

(大正六年十月十、十二日付報告要旨)

一、浦鹽斯徳の商況

當市は「アラコウエヌチエンスク」市と共に比較的物資豊かにして、未だ日常必需品に缺乏するが如きことなし。有名なる「チウリン」及「グンスト」兩百貨店の如き、既に貨物の缺乏を訴ふること久しと雖、千客萬來朝夕尙ほ雜沓しつゝあり。輸入禁止の爲物資の不足なるは事實なりとするも、見越輸入に由る在庫品少なからざれば、尙ほ一二ヶ月は依然たるべきか、十一月末より年末に至らば恐慌を起すべき虞あり。

本邦人の經營する主要商店も、未だ見越輸入品残存するを以て、今後一二ヶ月の間は現状を維持し得べきも、漸次品薄と爲るを免れざるべし。而して一方に於ては露貨の下落甚しきを以て、從來贏ち得たる利益も之を邦貨に換算すれば少額を算するに過ぎざるに至れり。

邦人にして當市に在住する者は現今約三千人なり。



## 二、輸入禁止

露國が輸入禁止令を極東に迄及ぼせるは、本邦商人に取りて不利益なるのみならず、極東露人の爲にも不利益なるべし。蓋し汽車便に依りて製品を歐露より極東に輸送するは、運賃の爲非常の高價となりて購買するに困難なるを以て、近距離なる對岸の日本市場に之を求むるを有利とすればなり。當局に於ても此の理を覺り、沿海州に對しては除外例を認むることとなりたれば、遠からず實行せらるるに至るべし。

## 三、爲替禁止

現下の場合、在留民の苦痛とする所は、輸入禁止よりも寧ろ爲替禁止にあり。露貨は五百留以上國外に携帯するを許さず、其携帯の有無を檢閲すること亦嚴重にして、之を發見するときは全額を沒收するのみならず、尙刑罰を科しつゝあり。當地松田銀行部は在留民唯一の爲替銀行として從來便宜を與へたりしが、今日は露國法律の下に一般露國銀行と同一の規定に従はざるべからざることゝなれるが爲特殊の便宜を得ること能はざるに至れり。

## 四、露貨の下落

(イ) 露貨下落の原因

露貨下落の原因に就ては開戦後の漸落と、爲替禁止令發布後の暴落とに分ちて觀察するを便とす。

第一開戦後に於て漸落せる原因は、兌換停止、紙幣増發、輸出入貿易の不平均等に歸せざるべからず。第二爲替禁止令發布後の暴落の原因は、全く禁止令の影響に外ならず。蓋し禁止令發布前即六月二十五日の長春相場二百三十五留は、發布後急轉して八月三十日は四百留に達したればなり。禁止令發布前に於て當地松田銀行部に於て取引したる左表を見れば、倫敦相場と浦鹽相場との間に大なる開きなりしを知るに足るべし。

日	附	倫敦相場	松田銀行部相場
五月二日		一七一、七五	一九四、〇〇
同 九日		一七〇、七五	一八八、〇〇
同 十一日		一七一、七五	一八七、〇〇
同 十六日		一八二、五〇	一八七、〇〇
同 十八日		一八二、五〇	一九一、〇〇
同 廿二日		一八五、〇〇	一九五、〇〇
同 廿五日		一八八、七五	一九八、〇〇

即五月中に於ける狀況は、常に浦鹽相場は倫敦相場よりも大體有利なるものありしなり。蓋し浦鹽及哈爾濱に於ては、倫敦よりの入電により相場を立てたるものなるに、同地よりの電報は四五日乃至

一週間を要するが爲に、倫敦相場が常に暴騰を繼續せる場合には、浦鹽、哈爾賓の相場常に有利にして之に反する場合は不利を見るものとす。哈爾賓及浦鹽に於ては、其地に於ける賣買關係を常に平均せしむるに苦心すと雖現今の如き貿易關係に於ては賣買を平均せしむること困難にして、露貨の手持となるべく、此の剩餘の分は倫敦市場に處分せらるゝ要あり。斯かる場合に於ては哈爾賓及浦鹽の相場は非常の不利となる事情あり。是れ倫敦電報の遲着するが故に其間に於ける同地露貨相場の變動を覺悟せざるべからざると、倫敦相場を計算し之に多少の危険料を加算して相場を建てざるべからざるとの事情あればなり。若通信便利にして本日倫敦に發せし電報が明朝返電を得らるゝものとせば、倫敦相場と哈爾賓及浦鹽の相場とは、恐らく一留以内の開きを保つに過ぎざるべし。

加ふるに極東露領に於ける貿易關係は非常なる輸入超過にして、其の收受したる露貨は之を外國貨と交換せざるべからざるに、爲替禁止令發布後は從來の如く倫敦相場にて處分し得ざるに至れるを以て、勢ひ投機を好む支那人の賣買盛なる長春に於て賣却するの止むなきに至れり。茲に於てか長春市場は露貨の賣手多きを致し、露貨は日に下落し四百留餘の換算率を唱ふるに至れるものとす。

#### (ロ) 露貨下落の影響

露貨下落の爲在留邦人の如き大なる困難に陥りつゝあり。特に商人は爲替禁止令發布以前の契約にかゝる賣却代金の取引上其損失を蒙ること尠からず。而も露貨を日本貨又は外國貨に交換するの必要

あるを以て、是等の人々は長春に於ける露貨相場を標準となしつゝある哈爾賓の外國銀行又は長春市場に於て賣却するの外途なきものとす。日本商人は五月二日に於て百圓の原價品を百九十四留に賣却して損失なかりしもの今日は四百乃至五百留に賣却せざるべからざるに至れり。而して今春に於て百圓に付六十留に換算し得たるもの、今や五百留以上に換算せざるべからざるを以て、其損失尠少にあらざるなり。出稼職工が一圓換一留の際に於て五百留を銀行に預金したるもの、今日は日本貨に換算すれば、百圓内外に過ぎず。而して旅行者が歸朝に際し交換せんとするも、日本貨缺乏の爲め、普通相場より更に割増せざれば何人も應ぜざる状態にあり。

#### 五、哈爾賓の狀況

(本項以下十月十八日付報告要旨)

浦鹽斯德は敦賀港と相對し沿、黒兩州に本邦品を輸入する好地位に在りと雖、同港より輸出するものは哈爾賓方面の積み残りの品の外未だ輸出すべき品種に乏しく、特に刻下は輸出禁止品多きを以て鑛物の如きも到底輸出するに由なしと雖、戦後に於ては片貿易を矯正するの要あるべし。羊毛は内蒙古よりすべく、極東露領は未だ有望と認め難し、乳產品亦然り、肥料として北滿の豆粕は依然有望なるべく、燐寸用木材亦豊富なり。是等は浦鹽を經本邦各地に輸出し得るものとす。

哈爾賓は北滿市場の中心にして、大連經由の輸出入共に熾なり。北滿の大豆小麥は坐ながらにして

此地に於て買収し得べく、又黒龍江沿岸地方には松花江を通じて運輸せらるゝを以て、本邦の對北滿及歐露貿易の中繼地として、最も有望の地たるは言を俟たざる所なり。市場の大小より見れば遙に浦鹽に勝れり。

茲に驚くべきは哈爾濱と隣接せる傳家甸の發達にして、一昨年迄は微々たる寒村に過ぎざりしが、昨年來俄かに勃興せることなり。傳家甸は純粹支那町にして松花江沿岸に建設せられ、舊家屋は強制的に破壊し、已に宏壯なる洋館に改築したるもの及現に改築中に屬するもの多く、其商業の殷賑なる發展の急激なる將た活氣横溢して事々物々生氣あるは東清、南滿沿線中其匹儔を絶するの概あり。黒龍沿岸の穀類は茲に集散せられ、哈爾濱市或は之に壓せらるるに至るやも計るべからず。其の茲に至れるは松花江に沿ふて倉庫を建設したる地の利に依ることなるが、要は今次の戦争によりて巨利を博せる成金等の集中して活躍せるに出づ。而も宏壯の洋館は高利（當地方は一割八分の高利にて融通自在なり）を借りて外觀を飾るものも少なからず、不動産となりて資金の停滯せる者亦多く、幾分好況に酔へるの觀なきに非るも、僅々一年餘にして大市街を爲し、隣接の哈爾濱を凌がんとする支那人の活躍は一驚を喫すべきものあり。但だ同地には從來營業せる少數の者を除き、新たに外國人の營業開始を許さず、支那商人獨占の姿にあるは遺憾とすべし。

#### 六、露貨下落と物價

露貨は長春相場を標準とし哈爾濱は長春に比して少しく安く、浦鹽に至りては哈爾濱に比して更に二十乃至三十留の開きあり。露貨下落は十月に入りて甚だしきを致し、特に十月十日後に於て一時に急轉直下せり。浦鹽及哈爾濱市場に於ては本邦品多數を占め露國品及獨逸品等缺乏したるが、茲に注意すべきは本邦商品は換算率を念頭に置き屢々定價を改正するを以て一般に高價なりと認めらるゝに反し、露國其他の製品にして昨年以來今夏までに仕入れたる者は、當時の換算率に依て定價を附したるが故に安價なる趣あり。（今五百留の外套を求め之を邦貨に換算すれば百餘圓に該當するに過ぎず）之を以て機敏なる商人は、市内露人の商店を巡り各種の奢侈品を購求すること流行し、刻下不用なる品にても他日之を賣却し或は土産物にするも亦可なりとして買ひ集むるものあるが爲め、露國製品の如き日に増し缺乏を來す状態にあり。日々に高價となるは日用必需品にして、奢侈品、衣類等の露國其他外國の製作に係るものは、邦貨の換算率よりすれば頗る廉價の比例を爲す狀況なり。是れ露國商人は留建を以て仕入れ多少の値上を爲したるも、今日の換算率に準せる高値を附せざるに由るものとす。但し今秋以後に仕入れたる貨物は悉く高價となり居るを以て、冬季に入らば下級者の生活は益々困難となるを免れざるべく、右に述べたるが如き現象は本年末を限りて消失することならん。蓋し西比利亞地方に有力なる「チウリン」及「クンスト」商會に於て販賣するものも、過半は日本製品なりと認めらるゝのみならず、市場到る處日本製品多大なるものあればなり。本邦製造業者及商人が品質を改



良して、粗製濫造の汚名を恢復し、聲價を高めて、貿易の基礎を築くは刻下の機會を措いて他に求むべからざるなり。

露貨下落の爲め最も苦しむものは、大口の取引を爲す大商店にして、五百留換の時は少くも五百六七十留乃至六百留臺を見越して、取引せざるを得ざる事情あり、故に取引自ら不況たるを免れず。之に反して小賣商店は未曾有の繁昌を來しつつあり。そは露都モスクワ其他の商人續々入り來りて、密輸入を試むるもの少なからざるが爲なり。例せば浦鹽又は哈爾濱に於て背廣服五六着を新調して、之を露都に持參すれば、往復の汽車賃を利得するが如き状態にあるを以て、専ら小賣店に就きて購入するもの多き所以なり。

### 七、貨幣市場

不換紙幣の發行止まず、爲替は依然禁止の儘にして、大取引は特殊品を除くの外殆んど中止の姿なり、紙幣は千留五百留等多く、之に反して五十留、二十五留以下五留、三留、一留等の小紙幣拂底の爲め、取引上は勿論日常の賣買に不自由を訴へつゝあり。故に今日銀行に大紙幣を以て預金し、翌日小額を引出して小紙幣を入手する如き窮策を廻らすものあり。

歐露は勿論西比利亞地方一般に硬貨の影だもなく、近來一哥、二哥、三哥の小紙幣發行せられ、郵便切手を紙幣に代用すること尙依然たり。又紙幣代用として國庫債券附利札通用しつゝあり。硬貨は

支那人の買收したるもの多く、留紙幣亦支那人の買收多き爲め、價格の下落は今後と雖尙ほ免れざるべし。

### 第二、極東に於る露、支、日三國人の狀態（十一月二十七日附報告）

沿黒兩州及後貝加爾州は露國が征服し、又は讓受したる地方にして、現に露領に屬するを以て、政治上より言へば勿論露國の主權下にあり、露人の權勢の大なる素より其所なり。

翻つて之を經濟上より見るに、沿黒兩州は自給自足の進境に至らざること遠く、工業として何等見るに足るものなく農業、牧畜亦幼稚なるを以て、從來西歐又は北滿及蒙古より供給を仰ぎ、工藝品に至りては獨逸の勢力旺盛を致したりしが、開戦後は之を日本に仰ぐに至り、現に極東市場は到處、日本製品を見ざるなき盛況を呈するに至れり。

支那は露國の爲めに領土を割讓し、政治的に損失したる所少なからざるは明かなりと雖も、東清沿線、黒龍江沿岸の狀況を見るに、露支の貿易は盛大にして、之を經濟上より言へば露國の開拓の恩恵によりて利益しつゝある所多く、政治的に損失したるものは經濟的に代償し得たるの觀あり。若し露國にして鐵道を敷設せず、之を放棄したらんには、北滿洲は斷じて今日の隆運を見ざるなり。

日本の勢力の認められたるは、日露戦争に次では、今次の歐洲戦争開始後となす。西歐特に獨逸品に代用せらるゝ商品の輸入漸く増加し、極東市場到る所之を認むることを得べし。而かも取引高の多くは支那商人の手に成るものにして、日本製品は露國の領土に於て、支那人の手に依り露人に供給せらるゝの狀態にあり。否な日本人自身亦自國品を支那又は露國商店より購求すること珍らしからざるなり。本邦商人の勢力の如何に微々たるかを察すべし。

### 一、露國人の位地

極東に於ける露國人を大別すれば都市居住の官公吏、商人、労働者、兵卒等にして之を都市の住民とすべく、次は地方村落の純然たる農民にして、歐露農民の移住し來れるもの、次はカザツク屯田兵の村民とす。後二者は農牧を業とし、穀物畜類の供給に與り、前者は生産者乏しく、主として消費者側に屬すと雖も、貿易上注意すべきは此都市住民なり。

露國は數十の人種を包括し各特色を存するを以て、歐露中に於ても大露西亞、小露西亞、白露西亞等に區分し、更に芬蘭、波蘭士、高加索より、ウラルアルタイ等各方面を一々分類、批評するの要あるが如く、西比利亞住民も亦多種多様なれば之を一括する如き到底不可能の業に屬す。加ふるに西比利亞方面の露國人は、概ね移民に非れば自由營業の爲め遠く移住し來るものにして、歐露の本國とは多少の趣を異にす。英國人の如きも印度、阿弗利加、支那方面に來住するものは、其本國にある場合

と殆んど別人の如き行動を敢てするは周知の事實なり。極東の露人を以て歐露の露人を推すの誤れるは恐らくは之に類すべし。

植民地には一種の氣質ありて、古今東西人氣惡しきは其通弊とする所なり。獨り極東のみを云々すべきにあらず。露人は個人として交際する場合は愛嬌あり、快活にして親しみ易く、忽ちにして友人たる如き感を與へ、特に婦人の交際振りは概して巧妙なるものあり。而して其横暴慘虐を極むる場合は團體として行動する際に殆んど別人の觀を呈す。

極東主要の市街地を見るに、道路惡しく不潔物多く、水道の設備なく尙は未製品たる觀ありと雖も、樞要街衢の如き歐風の建築宏壯にして堂々たるものあり。西比利亞は一種の植民地にして露國の經營能力は必ずしも侮るべきにあらず。

又東清沿線の北滿洲一體、並に黑龍江沿岸 主要支那市街を一瞥するに露語使用の區域廣く、露貨通用の範圍大く、店頭看板も漢字と露字を併用する如き狀況を見、露國の勢力範圍茲に及べるかを嘆稱すること一再にして止まること能はず。日本貨幣は長春を越ゆれば何等の用を爲さざるに反し露貨は黑龍江省の各主要地に於て使用せらるゝ如き驚くべきにあらずや。偶々露支貿易の密接なる一端を伺ふに足るべく、又以て露國勢力の扶植大なるを察すべきなり。

### 二、支那人の位地

極東露領に於ては露支の國境相接續すると、支那人は商業及勞働の爲め、利の存する所に集中するを常とするを以て、極東に於て露人に次で多數人口を占むるの支那人なること怪むに足らず。支那人の商業に巧妙なるは周知に屬するが、今や漸く露商人を凌かんとするの概あるは注目し値すべし。

支那人は商業に従事するものと、各種の工業勞働に従ふものにして、浦鹽斯德及哈爾濱の二市に在住するもの最も多く、現に支那町、北京町等の名ありて住民五分の一は支那人たる如き觀あり。

支那人の移住するや其固有の衣服飲食を改めず、支那人町を建設し、粗衣糞食、過激の勞働に従ひ到處自國の習俗を移すを常とす、從つて永住の念あり。浦鹽には一萬餘人在住して二個の劇場を建設し、故國の形勢如何は殆ど風馬牛なり。彼等は到處青山ありとし、全然土着人の趣あり。商業上に於ては互に連絡し、同一品は同一定價に賣却するの規定を嚴守し、甲店と乙店とに於て代價に寸毫の差あるを見ず。是れ特に稱すべき點なり。

移植民の態度よりすれば、支那人は英國人に類し、其固有の習俗を移して他と相容れざるなり。而かも永住の念は茲より發生するが如し。商人としては漸次勢力を扶植しつゝあり、東清沿線の露國租借地域に於て着々成功を奏しつゝあり。彼等は小資本を以て經營に當るも、勤勉にして質素の生活を營むを以て、比較的生活程度高き露商人は往々にして壓迫せらるゝを免れず。特に外蒙古貿易の如き海拉爾、滿洲里、チタ方面に於て、支那商人稍々優勢たるの傾向あり。バイカル以東、如何なる地方に

も支那商人あらざるなしと雖も、イルクーツク市に於て堂々店舗を張るもの少なからざるは驚くべきなり。否な西部西比利亞方面に於ても着々經營するもの多し。刻下は支那商人が卸賣して露商人之が小賣を爲すもの少なからざる状態にあれば、將來西比利亞に於ける支那商人の勢力の偉大なるものあるや必せり。

### 三、日本人の位地

西比利亞に於ける邦人は日露戰爭以前より多少來住したるものあり。戰爭の爲め一旦挫折し、戰後に至り漸次増加したりと雖も、未だ勢力を爲すに足らざりしが、歐洲大戰亂開始と共に、日露の親交を來し、軍需品供給上、大商事會社の代表者の滞在となり、日本よりの輸入貿易は意外の多額に上れるを以て、浦鹽及哈爾濱の如きを始め、各主要地には多少の日本商店あらざるなく、到處本邦人に接するを得るの狀態となれり。

在住者の多くは長崎縣人を最とし、之に次ぐは熊本、佐賀兩縣人にして、他縣人は極めて微々たり職業は料理店(娼家)を最とし、洗濯屋、寫眞師、雜貨商等之に次ぐ。浦鹽及哈爾濱には既に有力なる商店あり、露人を顧客として多額の取引を爲すものありと雖も、其數未だ十指を屈するに足らず。大商店の出張員も軍需品供給の事務をホテルにありて取扱ふ如き状態にして尙最近の事に屬す。而かも兩地とも大小の商人數多あるを以て、稍々複雑を極め他地方の如き單純なるものにあらず。

相當信用ある商店としては浦鹽及哈爾濱以外、西比利亞地方には之を認むること能はず。僅かに協信洋行の支店一二あるに過ぎず、洗濯業は、無資本を以て經營し得らるゝ業體なれば、邦人の従事するもの多し。斯業は由來賤業視せられ支那人の經營多きも、日本人の洗濯業の競争者としては支那人あるのみなれば、潔癖ある日本人の洗濯振りは概して歓迎せられつゝあり。又寫眞業者及理髮業者は本來寫眞師理髮師として渡來せるにあらず、概ね素人なるも手先きの器用なる爲め、時日を経過し経験を積む間に熟練し來りて、相當の生活を營むに至れるものあり、素性を問へば専門家にあらず、素人の器用に出でたるもの滔々として然り。最も驚くべきは醫師にして寫眞師同様のもの多し。露國に於ては外國醫をして露人を診断せしむるを許さず、故に診断は日本人のみに限るの規定なるが、素人醫の許に露人の患者來りて快癒するものあるは、全く日本醫學の進歩、藥局方の恩恵なりと云ふべし。蓋し露國醫の處方は投藥の分量僅少にして、効果を奏すること難き處あればなり。而かも近年外國醫に對する干渉甚しく、嚴重なる取締りを爲すの傾向を生せり。

#### 四、朝鮮人の地位

日韓併合の今日、之を別項に記するは不穩なるものあるが如きも、露領に於ける朝鮮人は概ね歸化人にして、農業若くは勞働に従ふもの少なからざるを記せざるべからず。浦鹽、ニコリスク、ハバロフスク、ニコライスク、ブラゴウエヌチエンスク等到處居住するが、概ね偏陬の地にして市外の耕作地に

勞役するものなり。曾ては排日思想を有する朝鮮人續々來住せしが、露國官憲の取締り嚴にして、浦鹽方面には既に其跡を絶ち、現今は平靜なり。露國に歸化せるものは露國人と均しきものなれば直接之を如何ともすべからずと雖も、勞働者を需要する場合に於ては、成るべく之を利用して親近ならしむるを要するが如し。在西比利亞の朝鮮人に對する政策は、何等講せられざる現況にあるも、其人口の増加に伴ひ必ず問題となるべきを信ず。

之を要するに露國人は領主としての資格を存し、相當他を抑壓するの地位を占めつゝあるは、如何に秩序紊亂の今日と雖も之を否むべきにあらず。支那人は其位地低しと雖も、商業上に於て着々地歩を占め、年と共に進境に入り、露人と競争の地位に立つ者あり。日本人の發展は一二の主要地に限られ、而かも歐洲戰爭開始後に屬して、最近の事なれば將來に對つて大なる希望を囑せざるべからず。現下に於ては未だ微々たるものに屬す。憂國心の美風は大に稱すべきも、共同團結の精神に乏しく、猥りに競争するを好み、其結果、到處在留民會長選舉競争の醜聲を絶たず。虛名を争ひ議論を闘はし、民會長選舉運動に浮身を窶す如き始末は、能く國民性を代表するものゝ如し。移植民族としての日本人の缺點が、遺憾なく曝露せられつゝあるは浩嘆に堪へず。排日を慨するに先だち、各自顧慮する所あるを要すべし。

## 第三、極東の貨幣市場と物價騰貴（十一月二十七日附）

本年九月、余が露領に足跡を印したる頃は、日貨百圓に付露貨三百餘留の換算にして、之より以上に下落すべしとは信せざるもの多かりしが、十月上旬以降漸次急變し、天長節をイルクーツク市に祝ひたる當時は、千留換算の聲を聞き、更に千百留との説あり、六十餘日にして再び浦鹽に歸來せるに、八百留を昇降しつゝあり。亂高低とは則ち露貨の換算相場なるが、實際は雲を掴むが如く、今日の相場何程なりやと問ひ、先づ八百留ならんと答ふれば、八百留として傳へられ、翌日に至りて、同じく今日は九百留位と云へば、九百留の記録を造るの狀態にして、愈々取引する場合は、千留と稱するも現實に千留にて換算するものなし、噂さに噂さを重ね一犬虚を吠へて萬犬吠ゆる場合少ならず。今日は八百留の入電ありと稱するも、愈々取替へんとすれば容易に應ずるものなき現況にあり。一時千留臺に下落せる露貨が、十一月中旬以來八百留臺を昇降するに當り、一般の意向は六百留臺に於て落着すべきを信するに似たり。極端に悲觀するものは、露國は破産を免れざるべきを以て、千留以上に下落するは勢ひの然らしむる所なりと唱ふ。昨年露國を旅行せるものにして、百五十留に下落せるを聞き、若し此際日本の成金連にして百萬圓を投じ之を購求すれば、數年後には何の苦もなく五十萬圓を利すべしと大聲疾呼せるものありしが、一年の後、千留乃至八百留を唱ふべしとは蓋し夢想だもせ

ざりし所なるべし。九月末に於て三百餘留の換算は最も有利として余は交換したるが、六十日以後に至り半額に下落すべしとは實際夢想だもせざりし所なり。

久し振りにて内地の新聞を一讀せるに半頁大の廣告を以て、熾に露貨の購求を勸むるものあり。而かも其換算は格段有利のものにあらず。長春市場の相場は一に狡獪なる支那商人のみの手に成るが如く聞きたりしが、近來本邦人にして之を買ひ煽るもの少なからず。商業上に無關係なる各種階級のものに至るまで露貨の下落を機として、購入する形勢にあるが如し。日貨百圓を投じて七百留を手に入れば、他日六百圓を利すべしとの計算を建つるときは、何人も之を買はんと欲すべし、利を欲せざるものなき人情自然の勢ひなり。然れども露國財政の矛盾せる、又其危機に瀕せる狀態を顧みれば、敢て熱狂すべきにあらず。若し露國として破産に瀕する場合は國家の存立上、從來發行の紙幣を以て全然不換紙幣と宣言し、兌換を求むる場合は新留紙幣一枚を以て舊紙幣十枚に替ふと云ふ如き法律を出たさすとも斷すべからず。今日の國際經濟上、斯の如き横暴は如何なる國家も許容せざるべしと信するも、財政的破綻を招く場合は、必ずしも此事なきを保せざるなり。

露貨の通用區域は廣大にして、露國內は勿論、其勢力範圍と稱せらるゝ北滿洲の東清鐵道沿線、黑龍江沿岸の支那市街殆んど皆然り。而して支那商人の購入するものを始め、海外に散布せる額多大に上る。他日に至り眞個に一留は一圓に換算せらるゝ如き場合ありと想像すれば、之を購入秘藏する敢

て不可なからんも、換算の關係上、暴騰したる物價が之と共に下落して平均を得るの機は果して何れの日か殆んど豫想に苦まざるを得ず。

貨幣市場に於て最新の一現象は舊紙幣(百留)に對し十五留の打歩を附するに至れることなり。蓋し近時四十留、二十留の兩紙幣發行せられたるが世人は之に信を措かず、商店に於て時に授受を避くるものあり、爲めに舊紙幣に對する渴仰を増したればなり。假りに百留の舊紙幣にて十枚即ち千留を交換すれば百五十留の打歩あり、一萬留を交換すれば千五百留の利を見る次第なり。而して舊紙幣を欲するもの漸次増加し、容易に手放さざるが爲め、打歩は漸次に騰上の傾向あり。

叙上露貨の下落に比例して、物價は日々に騰貴して其止まる所を知らず。最も甚だしきは哈爾濱及浦鹽方面にして、日支兩國商人は絶へず換算率に着眼すること機敏なるを以てなり。極東市場と雖も地方によりて大に其趣きを異にするを免れず。物價の高低は一に換算率に對する商人の神經の鋭鈍如何に比例するの感あり。浦鹽に比して哈爾濱市場の物價概して高きは、長春市場の相場を聞くこと速かにして、且つ鋭敏なるの致す所なるべし。日支の商人は露貨の下落を耳にするや、店を鎖して換算率に準じ正札を書き改むるが爲め、毎日之が定價を變更する如き行動を敢てしつゝあり。之を露人側に云はしむれば、日支の商人は餘りに狡猾なり、昨今店頭に積重する商品は、今日の換算率の價格を以て仕入れたるにあらず、然らば日々に變る換算に従ひ、屢々定價を改むる如き不徳ならずやと。是

れ一理ある言にして強ち排すべからず。日支商人は之に反して、現在之を換算して本國に送金するものとすれば、從來の定價を以てする時は損失となるを以て、之を換算率に準じて改めざるべからずと是れ亦無理ならざる見解なり。而かも斯く高低亂雜なる露貨相場が、當初日支商人に影響し、漸次露商人側に影響して、物價が漸次騰貴するの一因を爲したるは看過すべきにあらず。留建を以てする露商人の神經は、日支商人の如く過敏にあらず、露人は却て日支商人の敏活に驚き、一般に露貨の下落と物價騰貴とは日本人其主動者なりと誤解すも、畢竟這般の消息より來れるものゝ如し。

物價の騰貴は一般の現象なりと雖も、極東方面は歐露に比すれば概して低廉なり。イルクーツク市に於ては滯貨甚しく、爲めに輸送上の競争あり。余が同地に入りし天長節前後は、滯貨の數約三千貨車に搭載すべき量ありしが、其七割は日本製品の雜貨なり。之をモスクワに輸送するに當り、一布度に付十五留、一貨車に付一萬五千留乃至一萬八千留の懸賞を要しつゝあり。懸賞とは驛長又は驛員と連絡を有する運輸受負業者に對し、此商品を一貨車積込む際は、報酬として遣はす金額を指すものにて、運賃以外、積込料として提供する報酬なり。イルクーツク市は極東方面より物資の供給を仰ぎつゝある地方なれば、茲に販賣して相當利益を得ざるに非るも、若し之をモスクワまで轉送するに於ては、一萬八千留の積込料、運賃其他滯在費等を合算するも遙かに利益ありと云へば、歐露に於ける物價の騰貴と物資缺乏の狀況を察すべきなり。外套三枚を哈爾濱市場に於て購入し、之を露都に持參す

るときは、往復旅費を償ひ更に利する所あるが如き状態なれば、歐露方面より極東市場に来る商人の数は日毎に増加の一方なり。

沿海州の首府ハロフスク市は浦鹽より必需品を供給する所にして、二晝夜にして達する地なるが種類によりては浦鹽に比して却て低廉なり。此地には日本の商人として見るべきものなく、換算率に對し神經遲鈍なるを免れず。故に浦鹽又は哈爾濱の如く換算率に準じて、絶えず定價を改むることを爲さざるなり。之を看破せる浦鹽商人は熾に商品買入れに赴き、貴重品の如き極めて品薄の狀にあるを認めたり。而かも古地圖一枚三留の定價あるものを十留に賣る如きは比々として皆然り。

ブラゴウエスチエンスクは僻在する地方なるを以て、物價騰貴は甚しからざるべきを豫想せしが、黒龍江を隔つる對岸の黒河市場との關係上、他地方と均しく騰貴著し。而かも物資の比較的豊富にして露國品として殘物の多きは此市なるを認めたり。數年前までは黒河市場の物價頗る低廉にして、ブラゴウエスチエンスクに比すれば約半額なりしと云ふ。現況を知らざる者は依然半額位なるべしと想像して、品物は一切黒河に於て買ふべきを勸む。試みに風呂敷代用の布地二枚十五留にて購求し來れるが、税關に於て五留徵稅せられたるを以て二十留に値せり。然るに之をブラゴウエスチエンスク市場に見るに十五留を出すときは更に良品を購ふべかりしを知れり。斯の如く往時の視察を以てしては到底現狀を斷すること能はざる事態なり。

斯く物資缺乏し且つ物價騰貴の際なれば、如何なる商品と雖も、忽ちにして賣行く模様あり。本邦商人の如き沿黒兩州の除外例を利用し、熾に輸入して巨利を博すべしと想像するものなきに非ずと雖も、品物の種類によりては却て損失を招く虞あるを以て、手控えの姿を呈する觀あり。そは物價調節の策として、各市とも給養委員會あり日常必需の衣服食料品に就ては、一々詳細に「何品は何割より多く原價に掛くべからず」との規定を布告して取締りつゝあるを以て、之を市場に販賣するときは運賃諸雜費を控除すれば何等利益なしと云ふ如き事情あり。即ち物價調節令は一方に於て輸入を困難ならしめ、他方に於て物資の缺乏を助長するの結果を生じつゝあり。輸入業者は幾分の利得を見ざれば之に従はず、既に價格の制限ありて、之を越ゆるものは商品として提供し得ざるは自然の數なり。故に物資は益々缺乏せざるを得ず。

市民に對しては各地とも市設の購買組合あり、一ヶ月一人に付砂糖一斤半、牛酪一斤、麥粉一布度等を制限とす。日夜暖爐を焚き、且つ一般に空氣の乾燥する地方とて、紅茶を飲用すること盛なるものあれば、砂糖一斤半を以て一ヶ月間を過すこと能はず。爲めに角砂糖を嚙りながら茶を飲むもの少なからざるなり。購買組合は最も低廉に供給を受け、之を原價のまゝ切符制によりて販賣する規定なれば、住民の爲め至極便宜を與へつゝあり。現行設施中、先づ其策を得たるものと云ふべし。

然れども根本の救済策として露國の爲めに圖るに、露貨の下落を防止し物價の暴騰を防止するの道

は、爲替禁止を解くにあり。爲替禁止にして解かれざる限りは、一高一低するも露貨の下落は止むことなく、物價亦騰貴すべし。爲替を禁止するは、結局國民をして慘憺たる生活難に陥らしむるに過ぎず。延ひて食料缺乏の爲めに、掠奪となり、暴動となり、互に損害を招くの外なく、國家をして漸次難境に立たしむべし。假令止むを得ざるに出てたりとするも、之を今日の結果に徴すれば非常なる悪策たるを免れざるなり。

物價の騰貴は通貨の膨脹、紙幣の濫發、輸入禁止、爲替禁止等種々の原因存し、騰貴の直接影響を蒙るものは労働者階級なりとは普通の見解なるが、露國の現状稍々變態に屬する點あり、少なくとも革命後に於て變調を來せるものあり。所謂勞兵會は労働者及兵卒の委員會にして革命政府の主腦茲にあるを以て、労働者と兵士の權勢強く、忽ちして同盟罷工となり兵卒會議となる。民主とは即ち労働者と兵卒等を指すが如く認められ、賃金は非常の暴騰を來せるを以て、檢事長の月俸三百留なるも、労働者にして千留を取得する如き事情あり。故に今日最も苦痛を感ずるものは自由業者、中産階級、一般俸給生活者なり。労働者は自儘に組合を立て、勝手に賃金を引上げ、若し之に應せざれば同盟罷業して威赫するの自由あればなり。各方面を通じて労働者の賃金暴騰したれば、之に準じて物價亦更に騰貴するを免れざる現狀にあり。

食料品缺乏は歐露方面を以て最とすべく、今春の革命動亂も食料缺乏に原因せる同盟罷工より火蓋

を開かれたるものなり。露國は由來穀物輸出の國なれば、當初は何人も自給自足すべきを豫想せしが如きも、事實は之に反せり。從來穀物輸出の多きを致せるは、生活程度の低き農民が、黒パンを喰らひ水を飲んで甘んじ、收穫物は出來得る限り商品として市場に出すを努めたれば、地方には餘剰の貯蓄品として認むべき何物もなく、頗る貧弱なる状態なり。而して農家の子弟出征して家に殘存するものは婦女及老幼なり、收穫物の例年に比して減率を示すは當然とす。之に反して出征兵士は村落に在りし當時と異なり、比較的良食を供せらるゝを以て、茲に食物嗜好の向上を來したり。加ふるに物價調節令の爲め製粉工場の如き閉鎖せるもの多きを致せり。蓋し一方労働者の賃金は自儘に高められ、之を支拂ふて市場に出せば、價格に制限ありて生産費を償ふに足らざればなり。或は「某會社の麥粉の高價なるは社主の暴利を貪るに由る」と見做し、之を奪取したる上經營したるが、機械の使用法を始め經營の方法を知らざる爲め、遂に之を放棄したる如き事實あり。斯の如くにして製品を市場に出せば却て損失を招くが爲め、工場閉鎖は頻繁として行はれ、爲に食料其他一層の缺乏を來せる原因を爲せり。昨今本邦よりの輸入額減したる一因は之と均しく、輸入するも何等利益を獲る所なきに由る。物價調節令は一方廉價に購買せしむる功あるが如きも、其方法たる各種の物品に付、一々價格を制限し、夫れ以上に販賣するを禁ずるものなるが爲め、輸入商は輸入を控え、生産者は生産を控ゆるを以て、物資は益々缺乏せざるを得ず。制限價格内にて販賣せんとすれば、勢ひ廉價品を輸入するに



至り、而して廉價品は所謂粗製濫造品にして、支那人の手によりて輸入するもの多くは是れなり。本邦商人が輸入を控えつゝあるは洵に止むを得ざるに出づるもの、如し。凡て廉價にして使用に堪ゆるものは、何品に限らず賣行良き状態にあり。

余が十月初め滞在せる當時と、十一月下旬に於ける浦鹽の日常食料品相場を比較するに左の如し。

品名	數量	十月初旬	十一月下旬
牛	肉 一斤	九〇 <small>円</small>	一〇八〇 <small>円</small>
豚	肉 一斤	六五	一〇八〇
白	米 一布度	一七・五〇	三一・〇〇
醬	油 一樽	一七・〇〇	三一・〇〇
菜	一斤	七	四五
鶏	卵 一個	五	二七
玉	葱 一斤	八	一八
肴	一斤	三〇	五五
蟹	一個	二・〇〇	五・〇〇
砂糖(ザラメ)	一斤	七〇	一・六〇

紅	茶 一斤	三・五〇	六・二〇
蠟	燭 一斤(四本)	一・二〇	二・五〇
石炭(露國産)	一噸	二〇・〇〇	三三・〇〇
木	炭 一俵	三・五〇	七・五〇
飲料	水 石油空罐一箱	五	二五

備考、一斤とは一フントにして本邦に換算すれば百八匁とす。

其他概ね二倍若くは三倍に騰貴せり。五十日間に於ける騰貴の割合斯の如し。宿泊料の如きも十一月一日以來十月に比して倍加したり、書籍類、文房具等も亦同じく、一冊九留なりしもの今は二十留を出さざるべからず。露貨の下落甚しきを以て物價之に伴ひ、殆んど毎日上騰し行く状態にあり。否な朝夕の間定價一ならざるを常とするなり。

### 第四、西比利亞の鑛業 (大正六年十二月十一日付報告要旨)

西比利亞は鑛産物の豊富なるを以て名あり。英國人は疾く茲に着眼し年々の投資額莫大に上るものあり、本邦に於ては最近久原鑛業會社の計畫あるに過ぎず。蓋し露國鑛業法の嚴密なる規定ありて外國人に對し容易に採掘を許可せざること、從來日露兩國々際の疎隔せる事情ありしこと、西比利亞方

面に就ては一般に學術的調査研究の足らざりしこと、並に同地方に於ける日本住民は殆んど賤業者及之に附隨する徒にして、曾て資本家の注意を喚起せざりしこと等の事情より、概して閑却せられたる趣あり。

### 一、西比利亞の鑛産地方

西比利亞に於て特に金鑛に富めるは、イルクト縣のキートム地方、後貝加爾州のネルチエンスキー、バルグンジンスキー郡、ヤクトスコイ縣のレナ、アルダナ地方、黒龍州のゼースキー(ゼア)プレンスキー地方及び沿海州等とす。此外ミونسスキー、エニセイスキー郡並にアルタイ地方とアルタイの高原其他に存す。ウラル以東の一ヶ年の産金額は三千布度餘にして、即ち露西亞に於ける全産額の四分の三を占むる状況にあり。

石炭は西比利亞鐵道に沿ふてアルタイ、ヘルガン、沿海州並に北方ツンドラ(鮮苔帶)其他樺太にあり。就中最良炭を産するは沿海州のステチャン炭坑にして、イルクト縣のチエレムホースキー及びトムスク縣のアンゼルスキー坑等とす。

銀、亞鉛等はネルチエンスキー地方、アルタイ、テヤンジャン及日本海に面せるテトへにあり。銅はキルギスの高原及ミونسスキー郡、鐵の主なる産地はミونسスキー郡(アバカンスキー製鐵所)イルクト縣のニコラエウスキー郡、後貝加爾州のペトロスキー、アルタイにてはクツネツキー等

なり。

寶石類はネルチエンスキー地方及アルタイ方面に産す。ウラル「ダイヤモンド」はキンパーレー(南阿)産に及ばざる事遠しとするも、光輝燦として賞すべし。「アレキサンドリット」に至りては、最も渴仰せらるゝ所、其他「サファイヤ」「ルビー」を始め種々の寶石あり。

以上の外、錫、水銀あり。又鑛泉は後貝加爾州のヤマロフカとダラスン地方及びセミレチヤンスキーのアラサレ地方特に著名なり。又鹽は高原地方、ヤクト地方のキリヤ河、イルクト縣のウツリ地方等に産す。後二者は鑛産物にあらざるも參考の爲め之を擧げたり。

西比利亞地方の鑛産地斯の如し、其探掘宜敷を得ば又以て國富を増すに足るものあるを察すべし。金鑛の如き未だ文明式の機械を使用せざるもの多きにあり。

### 一、黒龍、沿海地方の金鑛業

今特に本邦に近き極東方面、沿、黒、二州の金鑛業を見るに左の如し

年	沿	黒	州	夫	產出高	價額
一九〇六年	二四	二、九六四	九二	一、四七三		
一九〇七年	三一	三、三三三	六八	一、〇九〇		

一九〇八年	三一	三、五六二	八三	一、三五〇
一九〇九年	四二	三、七一五	六四	一、〇三〇
一九一〇年	四六	五、一三五	五四	八八〇

年	金 鑛		坑 夫		產 出 高	價 額
	產 出 高	價 額	產 出 高	價 額		
一九〇六年	三三五	一一、〇〇〇	三八五	七、一五六		
一九〇七年	三三〇	一二、〇〇〇	六五一	一二、〇九九		
一九〇八年	二五六	一六、一四六	四八七	八、四一八		
一九〇九年	二七六	一八、三五二	四九四	八、四七四		
一九一〇年	二九七	一八、八九〇	四九四	八、六二五		

而して一九一一年後に於ける、最近の坑夫數及價額に關する統計は、未だ入手せざるを以て產出高のみを擧ぐれば次の如し

沿海州產金高	七六	黑龍州產金高	四三〇
一九一一年	九六	一九一二年	三四五

一九一三年	一二五	二八七
一九一四年	一六七	二三四
一九一五年	一四四	一九〇

之によれば黒龍州の産金額は、沿海州に比し數年前までは遙かに多大なりしが、近年に至り漸く減退の傾向あり。之に反して沿海州の産金額は年々多きを致すの傾向あるを見るべし。最近に至り減少せるは戦争の影響なることを俟たず。尙参考の爲め露國の三大金鑛區域に別ちたる最近三ヶ年の産金高を表示すれば左の如し。

年	ウラル		西部西比利亞		東部西比利亞		計
	產 出 高	價 額	產 出 高	價 額	產 出 高	價 額	
一九一二年	四四六	二七三	二二	一九八	二、九一七		
一九一三年	三九二	二八八	二二	三二五	三、〇〇七		
一九一四年	二九九	一三二	二二	七二九	三、一六二		
一九一三年と一九一四年との産金額を比するに百五十五ブードの増加にして、主に東部西比利亞に於ける増加なること一目して知るに足るべし。							

三、露國金鑛業に對する英國の投資額

英國の投資は露國の各種鑛業に投資したるものあり、其中金鑛に屬する資本は大約左の如くにして

一九〇八年より一九一〇年に至る事實に據る。

三〇

社名	投資額
レナ金鑛株式會社	一、四〇五、〇〇〇磅
新中央西比利亞株式會社	一五〇、〇〇〇
新露西亞株式會社	一、二〇〇、〇〇〇
新ウラル鑛業株式會社	二八〇、〇〇〇
オルスコ金鑛株式會社	九三〇、〇〇〇
西比利亞開拓會社	一〇〇、〇〇〇
露西亞金鑛株式會社	一三〇、〇〇〇
シルカ金鑛株式會社	一五〇、〇〇〇
西比利亞金鑛株式會社	二〇〇、〇〇〇
トロイトスク金鑛株式會社	六二五、〇〇〇
トスピカン金鑛株式會社	一二〇、〇〇〇
共同西比利亞金鑛株式會社	九〇、〇〇〇
西アルタイ金鑛株式會社	五〇、〇〇〇

即ちレナ金鑛業に投資したるもの邦貨一千四百萬圓に上り最も多額を占め、之に次ぐは新露西亞會社の一千二百萬圓とす。其他オルスコ、トロイトスク等の會社に對するもの更に之に次ぐり。總計五千五百十萬圓に上るものあり此數たる既に舊聞に屬す。最近に至りては一層の巨額に達するものあるや必せり。

#### 四、金鑛採掘法と其労働者

西比利亞に於ける金鑛業たるレナ其他有數の個所を除けば、其採集法たる尙は幼稚の程度にあり。機械を利用して經濟的に採集するもの少なく概ね手工に由るが爲め、鑛區徒に多數に上り、徹底之を採集する事をせず、寧ろ廢滅に歸せしむるの處あり。一九一四年に於けるアムール地方の産額を其採集方法によりて區分すれば、手工に由るもの八割の多きを占め、機械に由るもの僅かに六分にして、残り四分は其他の式に由るものなり。蓋し南阿トランスバール州ヨハネスブルグ附近の金鑛の如く、平面の地下より採掘するものは、必ず大機械力を利用するの外なしと雖も、西比利亞の金鑛たるや概ね砂金にしてレナ、ゼア、シルカ等は大河の名なるが、其河中又は河岸より採集するものなれば其作業自ら異なり、砂金採集は老若男女も能くする所、箕の如きものに砂を深らひ、其砂中より金塊を拾ひ集むるの簡單なる方法なり。故に之に従事する労働者の數多き割合に産出高多きにあらず、沿、黒兩州の金鑛労働者は、支那人を以て最多とし、朝鮮人之に次ぎ露國人最も少なし。百分比例を以て表示

すれば左の如し。

	露 國 人	支 那 人	朝 鮮 人
一九一一年	一二	七三	一五
一九一二年	一一	七六	一三
一九一三年	一四	七二	一四
一九一四年	一四	七三	一三
一九一五年	一〇	七七	一三

其七割以上は支那人を以て占むるを見るべく、最近に於て露國労働者の減少したるは、戦争の爲め召集せられたる結果なり。

### 五、黒龍、沿海地方の石炭鑛業

露國は炭坑の豊富なる國にして歐露方面は約七百五十億噸、亞露方面は一千七百五十億噸の炭量を包藏すと稱せられ現に無數の炭坑あり。今本邦に接近する極東方面のみに就て之を見るに、黒龍州の炭業は未だ幼稚にしてデツパ河岸地方に於て年額約七百萬ブードの褐炭を産するを最とす。沿海地方は黒龍州地方に比すれば遙かに發達せり、炭坑數五十一を算し一九一四年度に於ける従業坑は二十八にして、中十六個所は小規模なるが殘十二の炭坑より産出する石炭獨り市場に賣買せらるゝ状態にあり。

最も優良を以て稱せらるゝは沿海地方のスタヤン黒炭にして、官營に屬し、陸海軍鐵道用等にて官用に供せられ、従業労働者數二千に上る。スタヤン炭を外にすれば他は概して炭質不良なるを免れず、其粉炭の多きこと、火力の弱きこと、燃えたる炭の固りたるまゝ殘存すること、其他の缺點あるが爲め日本炭に比すれば價格遙かに低廉なり。而も市場に於ては日本炭及樺太炭と競争するに堪へず、是れ日本炭の輸入絶へざる所以なり。サガレン島にはツイ炭坑、ブラジミル炭坑、アレキサンドル炭坑の三あり、何れも官營に屬す。目下營業中のものはアレキサンドル炭坑のみ、同島に於て私營炭業として見るべきものなきは其良港なきと、交通の不便なると與りて力あるべし。而も炭質はスタヤン炭を凌ぐものありと云ふ。最近の産炭額を表示すれば左の如し。

年	スタヤン炭産額 百萬ブード	其 他 百萬ブード	計 百萬ブード
一九一一年	一三、二	七、七	二〇、九
一九一二年	一二、八	九、七	二二、五
一九一三年	九、八	一〇、七	二〇、五
一九一四年	一二、六	一四、二	二六、八
一九一五年	一二、七	一五、〇	二七、七

極東の炭業は年を逐ふて多少とも進歩するの傾向あるを認むべし。西比利亞鐵道の汽罐車に高價な

る薪を燃料とする如き、蓋し炭質の不良と炭業の不振とを證する一例として見るべし。

一、亞鉛鐵鑛其他

歐露方面は省略に附し、今極東に於ける状況に見るに、亞鉛鑛、鐵鑛は日本海沿岸トチへ川口附近及フリカ地方にあり、亞鉛は歐露に輸出するに至れるも、鐵鑛は尙試掘の時期に屬し、未だ稱するに足るものなし。一九一四年度に於ける鑛坑數は鉛鑛二十、鐵鑛九、銅鑛二を算するも、トチへ鑛山以外他は悉く休業中に屬す。最近三ヶ年の産額約左の如し。

	亞鉛	鐵	銅	計
一九一二年	一、七四〇 <sup>ト</sup>	三一二 <sup>ト</sup>	一〇一 <sup>ト</sup>	不詳
一九一三年	一、六三二	一、八三七	七八	八
一九一四年	一、二三九	八五三	七三	不詳
				二、一六五

一、鑛業不振の原因

極東特に沿海地方に於ける鑛業不振は、交通不便の如き其一原因を爲さざるにあらずと雖も、主因は露國鑛業法規嚴重を極めて幾多の制限を試み、沿海州及朝鮮國境よりカムチャツカ一帶の沿岸地方に於ては、海岸より一百露里以内の地及樺太島並に其周圍の島嶼に於ては、何人と雖も鑛物（黄金及白金を含む）の採掘を爲すを得ずと規定し、専ら政府より特許を受けたる者にのみ許可するの結果なり。

り。又カムチャツカ及樺太の沿海州に於ては外國人は鑛業に従事し、又は之に干與するを禁止し、其他外國人は特殊の場合に限り許可あるにあらざれば鑛業に従事し得ざる地方少なからず。

第五、浦港の商況不振（十二月二十二日附私信）

歳末基督降誕祭の近くに随ひ例年商況活潑なるを常とするも、本年は政變の爲め影響せられたると露貨暴落の爲め不況を極めつゝあり。露貨換算率は十二月二十一日長春相場八百十にして、概ね一千留の換算を以て取引する爲め賣行悪しく、露人の購買力も大に減少したる傾向あり。一千留の見當を以てしては内地製品を輸入する事難し。手拭一筋一留、モスリン大巾一尺七留、最下等手袋七留、ゴム草履一足二十五留、湯錢五十哥といふ如き相場にして、座蒲團一枚に七十留を要する次第なれば、概して手控えの模様にて市況閑散なり。

最も懸念されつゝあるは勞働者のストライキなり。港内の碎氷船は未だ運轉頻繁の時期に達せずと雖、ストライキ流行の今日萬一にも碎氷船にして罷工せらるゝ場合あらば、船舶の出入困難となり物資缺乏するに至るべし。萬一の場合は日本商店を除外し、露國及支那人側より物資を徵發するに至るべしとの決議あり。日本商店は除外せられあるも、若し斯る事實を見るに至らば商業は殆んど停止するに至るべしと一同大に憂慮しつゝあり。

目下一留、三留、五留、十留等の小紙幣地を拂ひ皆無の姿にて、概ね郵便切手を代用しつつあり。過激派政權を握る場合は必ず銀行占領を先にす。若し萬一にも當浦鹽にして一時的にもせよ過激派にして政權を握ることあらば、商業は暫時中止の姿となるべく、之を懸念せる銀行員等は十二月十九日會合の上、過激派にして銀行員に對し任免を行ふ如き場合は、相一致してストライキを爲し反抗すべき旨決議せり。

一、濠洲の賣り

臨時産業調査局  
事務官

高橋武美

第一、濠洲最近の市況及航路

(大正六年十月二十二日シドニー發信)

一、濠洲の市況

現今日本品の賣行及評判は概して宜しく、始めの間は品質取引等の點に付き種々若情起りたるも、漸次品質も改善せられ、取引も亦堅實となり、從て輸入額も着々増加しつつあり。

◎絹織物 羽二重、縮緬等の絹織物の需要従前と異ならざるは勿論將來益々有望なり。昨年暮以來富士瓦斯紡績會社の製品なる「富士絹」當市場に紹介せられ、此節は仲々賣行きある模様なり。就中純絹糸と人造絹絲などの交織は、最も有望につき特に研究を要す。

◎綿織物 各種綿織物は近來船便悪しき爲め及び其他の關係にて、英國よりの供給減少せるに因り本邦製品代用せらるゝに至り需用從て激増せり。綿織物の如き實用品の賣行き盛んとなるは、眞に喜ばしき事なり。只品質に於て英國製同様の上等品出來ざるは遺憾なり。

本邦より濠洲に輸入する綿織物中第一位を占むる綿縮 Cotton Crumpe は、本邦の特産品として従前より随分輸入せられつゝありしも、英國に於て日本品を模造し濠洲に輸出し居たるため、一時競争狀

態にありしが、近來英國よりの供給減退の結果、昨年今年等は本邦より著しき増加をなせり。明年度に於て供給すべき注文を受け合へるものも至つて多し。

此の綿縮は主として女子及子供の春先より夏期に亘りて着用する衣服に仕立つるものにして、從て當地方の需要時期は七、八、九月を主とす、然れば此の時期に多量纏めて濠洲に着荷する様、本邦製造家は豫め準備するを要す。本邦製造家——桐生、足利、佐野の方面を主とす——が品質に注意し、粗悪なるものを造らざる以上は、將來最も有望なる輸出品たるなり。尤も品位は白地一反幅三十吋長二十碼に付き、戦前の値段（本邦市價）二圓五十錢乃至三圓位のものに限り、夫以下の品質のものは見込みなし。次に労働者用に洋服ズボン地として英國製品の代用に本邦製品の需用大に増加せり。其他綿フランネル、タオル、帆布等も大に輸入せられ居れり。

◎莫大小製肌衣 本邦製品の輸入は近年大に増加せり。而して本邦製品は只今の處品物は宜しきも、サイズが注文よりも常に小さき事（例へば胸の幅三十六吋として注文するも大抵 *One Size* (二吋位) 狭小なり）と、仕上げ方悪しき事とを缺點とするを以て、此點は是非共改善を要すべし。當地方にて需要の最もあるものは夏物には半袖ものなり。

◎板硝子及硝子器 板硝子及コップ等は評判至つて宜しく、白耳義製と格別差異なきが如し。ランプ及其の部分品の賣行も相當にあり。

◎帽子 帽子は本邦紙製バナマ帽子評判よし。

◎燐寸 燐寸は濠洲にては普通の燐寸の外、臘燐寸 *Wax match or Vesta* 使用せられ其の需要多し。シドニー及メルボルンに製造工場ありて多額のマッチを製造しつゝあり。日本品も近來大に輸入せらるゝ様なるも、輸入の當初は粗悪品多く爲に大に信用を害し、延いて日本品全體の信用を傷けたる由なるも、近來は大に改良せられ居れり。

◎瑛瑛鐵器 濠洲に於ける瑛瑛鐵器の需用は至つて多きも、昨年日本より輸入せられたるものは、殆んど粗悪品のみなりしたため、現今にては其の信用全く他に墜ちたり。

◎刷子類 刷子類も多額の輸入ありしも、毛の抜けるもの多く、從て信用極めて薄し。

◎玩具 玩具はセルロイド製人形を第一とし、コットンスタフ製の人形の頑丈なるもの一般に歡迎せられ、複雑なる機械仕掛の玩具は不向きなり。

◎陶磁器 陶磁器は最近食器類多く輸入せらるゝに到れり。

◎鈕釦 鈕釦は貝製のもの、及プレスボタン重に輸入せられつつあり。其他近來船便の關係等にて、各種日本製品輸入せられ居れり。濠洲市場は目下各種商品缺乏し、就中各綿織物の拂底甚しく、從て本邦よりの輸入を大に囑望しつゝあり。然れども日本に於て製造能力に限度ある事と、相場の變動烈しき事とは、大に取引上の支障となり居れり。



兎に角濠洲市場は目下各種商品の缺乏を訴へつゝある時なれば、本邦賣込みのため絶好の機會と申すべく、此際本邦製造家及商人が、着實誠意を旨として取引を爲し地盤を作り置かば、他日戰爭終局後と雖も、既得の地歩を確保し得るは疑なきものと思惟す。何れにせよ、本邦製造家が品質に留意し堅實の取引を爲すは絶對的に必要にして、此點さへ注意すれば、對濠洲輸出の増加及販路の確保は十分期待し得るや必せり。

## 二、航路

◎本邦—濠洲間 日本郵船及大坂商船の貨物定期船各毎月一回づゝあり。

此外郵船は毎月一回位の割にて臨時貨物船あり、商船に於ても大抵月に一回位の臨時船あり、復航貨物は主に日本行きの鉛鑛と馬尼刺行きの小麥粉となり。

◎濠洲—亞米利加間 ユニオン會社のバンクローバー行定期毎月二回、オセアニック會社のサンフランシスコ行定期毎月一回あり。以上は貨物及旅客を搭載するものにして、此の外貨物船の臨時船時々あり。又帆船の往復もありて、米國西海岸にニューカッスルの石炭の積送しつゝあり。

近來は米國より濠洲に銻鑛詰、材木—オレゴン松（鑛山用）—チーク材（建築用）—、織物、衣服類紙類、鐵製器具、雜貨類等轉入せられ、濠洲より米國へは材木（Heart wood）羊毛、獸皮、食料品等輸出せられつゝあり。米國のポストン及ニューヨーク行貨物は臨時船稀にあり。

米國とは貨物船の連絡ありて、羊毛小麥、鉛其他の軍用品を運送致し居れり。

◎濠洲—印度間 ブリチツシインデアラインの貨物船の連絡ありて、濠洲より馬匹食料品、銅、鉛等を輸送し、印度よりはガンニー袋、植物性油、茶、珈琲、チーク材、床敷物の類を運搬致し居れり。

◎濠洲—瓜哇新嘉坡間 ロイヤルハツケット會社バインスヒルプ會社の汽船定期にて各々毎月一回あり。

◎濠洲—香港間 Australian Oriental Line の汽船六週間毎に一回の割にて航海をなし居れり。

## 第二、一九一六年ニ於ケル濠洲貿易の大觀（大正六年十一月受信）

一九一六年に於ける濠洲の貿易は、前年に比較し大に趣を異にせり。即ち一九一五—一九一六年に於ける收穫良好なりし結果輸出額を恢復増加せしこと、及輸入に付て其の數量は別段増加せざりしに拘らず、金額に於て大に増加せしが如きは著しき例なり。

○小麥は濠洲の主要農産物にして、從來平年七八百萬磅の輸出ありたるに拘らず、一九一四年は早魃なりし爲麥作不良にして、國內の需要すら充すに足らず、米國其他より多額の供給を仰がざるを得ざりしが、一九一五年は雨量相當にありたることと、耕作面積の増加を計りしとの爲、小麥の收穫は前例になき好結果を示し、一九一六年の初に於て刈り集めたるもの、一億八千萬「ブッシェル」を算し、従前の最高收穫たる一九一三—一九一四年の一億三百萬「ブッシェル」を凌駕せり。

○次に濠洲輸出品の大宗たる羊毛に付て見るに、一九一五—一九一六年の羊毛の剪取高は前年に比較し三十萬俵計り減少したるが、軍事上の需要と市場に於ける品薄との爲、價格騰貴したるを以て、價額の點に於ては別段の影響なかりき。尤も他の重要な産業たる牛酪の製造は、家畜の減少に基き、大に困難を感じ製造高は減少せり。

○小麥に關し生じたる困難なる問題は、船舶が軍用のため徴發せられたる結果、其の輸送を爲す船腹の不足したること也。之を自然の成行に放任せんか、農民は其の所有する小麥を賣争ひ、商人は其の利用し得可き船腹に比例してのみ買取るに止まるを以て、濠洲市場に於て小麥相場の大暴落を演出するの虞ありしにより、此の危機を免れしむるため、各州政府及聯邦政府の關與にて、一大「小麥プール」を組織するに決定し、政府は小麥の最低價格を保證し、農民は小麥を賣却するには、必ず此「プール」に託するを要することとなり、「プール」に引渡したる上、所要の金額の融通を受くるを得ることとし、此の金額は濠洲聯邦政府と協定せる銀行に於て準備せり。此の「プール」の事業を監督するために、濠洲小麥局設立せられ、各州に於ける團體及仲買人製粉業者等、小麥の取引に従事せる主要なる人々之に助力を與ふることとせり。此の小麥プールの事業は大規模なりしが、概して好成績を示せり。一九一六年に於ける北米合衆國の小麥の收穫の減少は、英國をして小麥の供給を米國以外に求めしめ、又之を輸送する爲、如何なる手段を講ずるも船腹を用意せざるを得ざらしめたり。同年末に至り、果然英國政府は遂に一九一五—一九一六年の濠洲産小麥の殘額、及一九一六—一九一七年の收

穫の大部分を買収する旨を發表したるが、此の買受けたる總額は三百萬噸に達し、値段はf. o. b にて、「ブッシュネル」に付四志九片の割なり。

○羊毛の取引に付ては異なる問題を惹起せるが、重要な問題は、中立國に輸出せらるる羊毛に付、適當なる監督手段を講ずるに在りき。羊毛取引の困難は、又船線に關聯して起れり。即ち船線の如何は、濠洲市場に於て取引する羊毛の價格に影響あるを以て也。尤も羊毛取引は、一九一六年の末に至り、英國政府が一九一六—一九一七年剪取に係る羊毛の未だ販賣せられざる殘額を、買取りたるに因り形勢一變せり。而して政府が買上ぐることとなりたるときには、一九一六—一九一七年剪取羊毛の三分の一は販賣濟なりき。

政府の買上價格は、濠洲産羊毛全部に付、脂付のもの總平均一封度十五片半の割にして、戦前の相場に比すれば、五十五バーセントの騰貴なり。而して個々の買上値段は、嚴密なる鑑定評價の上決するものとす。

○如此小麥及羊毛の結果良好なりしに加へて、政府が軍事上及公共事業に多大なる金額を支辨したる結果、益々景氣良くなり、購買力は從來に比類なく増進したり。

一九一六年に於ては、外國より如何にして供給を受くべきやが問題となれり。戦争勃發の當初に於ては、半ば、英國及諸外國の製造業者の引渡の遅延に起因し、半ば、船線の不定に基き、貨物の輸入に付大に困難を感じたり。輸入業者は之に懲り、同時に景氣の恢復に連れ、諸方面に莫大なる注文を發

したり。然る處案外に事情は變化し、製造業者は引渡を迅速に行ひ、又船便改善せられたるが爲、一九一六年の暮に至る迄に、濠洲に殆んど一杯の商品輸入せられ、殊に衣服、織物、雜貨類に付て然るを見たり。

一九一六年中に於ける濠洲の商品の總輸入高は八千百萬磅に達し、前年に比し千二百五十萬磅の増加にして衣服、織物、雜貨類、靴、帽子等の輸入の増加が、此の約六割を占めたり。輸入高多かりしことは、固より價格の騰貴、及運賃の騰貴に因由する點もありて、數量の點より云へば、價格の比較程増加せしにあらざる也。

今過去二曆年間に於ける商品の輸出入額を掲記すれば左の如し。(金塊及正金を除く)

種別	年次	一九一六年	一九一五年
輸 入		八一、〇八一、二二〇	六八、五二六、八三三
輸 出		七三、三六三、三九四	六〇、五一九、六七八
輸 入 超 過		七、七一七、八二六	八、〇〇七、一五五

前表に掲げたる數字のみに依るときは、商品の輸入は一二、五五四、三八七磅、輸出は一二、八四三、七一六磅の増加を見たる次第なり。

輸入に關しては平年普通に輸入せられたるものと、一九一四年に於ける早魃の結果、特に一九一五

年に起れる輸入、即約五百萬磅に達せる小麥其の他の穀物、麥粉、及牛酪の輸入とに區別せざるを得ず。今之を差引計算するときは、一九一六年に於ける輸入の増加は、千七百五十萬磅餘と爲る譯なり。過去三曆年間に於ける重要商品の輸入高を示せば左の如し。

品 種	年 次	一九一六年	一九一五年	一九一四年
衣服、織物、雜貨類、靴、帽子		二二、一九六、〇八九	一五、六二七、三二九	一七、三〇九、八一四
機 械 器 具		三、九九三、四六六	三、八八七、三八三	五、七二八、五三四
金 屬 製 品		三、七〇五、五七九	三、七一一、一一九	四、七五九、七五五
鐵 及 鋼		三、四一〇、七八三	三、〇九二、五五五	三、九〇〇、九四〇
紙 類		二、九四三、五二七	一、六二六、〇四八	一、六一九、八四〇
黃 麻 製 品		二、七四五、三三三	二、二四三、五一五	二、〇三六、三一五
蔗 糖		二、〇七二、一七九	三、五二二、三四一	二、三二二、二二九
酒 類 及 麥 酒		一、九七八、六三七	一、五〇四、七九三	一、八六三、九四八
藥 材 及 化 學 藥 品		一、八六三、一九九	一、六〇〇、二〇三	一、二三四、〇一八
木 材		一、八三四、八五五	一、四九二、三一九	二、九四八、八〇〇
茶		一、五七三、二二二	一、九二五、二〇三	一、四八一、八一三
護 謨 製 品		一、四七二、三三三	八二〇、二五五	九一一、〇八七

葉	鐵	煙	草	鐵	手	工	用	具	鐵	道	材	料
一,二四〇,一六二	七四七,二七九	八九四,一六八	九〇三,一三五	五二一,二〇四	五六七,〇二七	四三九,六八九	六〇九,四二九	九九八,一九九	二六五,七一八	八七四,五九四	一,四七九,四三五	一,四七九,四三五

前表中注意すべきは衣服、織物、雜貨類、靴、帽子等が、一九一六年に於て七百五十萬磅の増加を示せる事と、砂糖が一九一五年に於ける「クキシンスラント」糖不作の結果百七十萬磅の増加を示せる事と是也。

○次に輸出に付て見るに、一九一六年に於ては、小麥及麥粉の輸出大に増加せしも、羊毛及凍肉は減少せり。

濠洲重要輸出品の過去三曆年間に於ける統計を示せば左の如し。

品 種	年 次	一 九 一 六 年	一 九 一 五 年	一 九 一 四 年
羊 毛		二六,一九四,六一五	二八,二四二,一七八	一八,三七五,三〇三
凍 肉 (牛 肉)		三,四三一,五七五	四,〇六六,九六三	四,一八七,八八五
同 (羊 肉)		一,二二一,七〇四	二,一一〇,八〇〇	二,九七二,七三〇
其 他 肉 類		一,三二〇,七七二	一,八四〇,七四〇	一,九六八,七九七
獸 皮		二,四五六,四九八	二,八〇四,三九九	四,一四六,三三二

獸 脂	五六〇,一六五	九〇二,四七一	一,八九九,六四一
馬 匹	二九一,二九三	九二,八九五	二五〇,五八五
牛 酪	二,六〇七,四四九	一,八八〇,四八六	二,六五五,三七二
小 麥 及 麥 粉	一四,八二一,四一五	四〇三,一一七	一一,四九二,〇七一
金 屬 及 鑛 石 (金 を 除 く)	九,七九五,二三〇	七,四五四,三八二	五,八四六,五三七
コ ン セ ン ト レ ー ト	一,二二二,四八二	一,二三一,三二二	二,五八六,九七一
石 炭	三三五,一九二	六一九,六六七	一,〇六一,一二七
木 材	三二二,二六三	五七二,〇八〇	一,〇三六,七〇七

○更に政府會計年度に依る統計(濠洲聯邦政府の發表する貿易統計は、一九一四年以來政府の會計年度と同様、七月一日に始まり翌年六月末日に終る様改正せられあり)を示せば左の如し。

輸入品種	年 次	一 九 一 五 年 — 一 九 一 六 年	一 九 一 四 年 — 一 九 一 五 年	一 九 一 三 年 — 一 九 一 四 年
商 品		七六,五七二,〇九七	六三,五四二,八四二	七八,三八〇,八七一
軍 艦		—	—	二,四九五,〇〇〇
金 塊 及 正 貨		八〇五,三五〇	八八九,〇〇五	一,五四二,〇三六
合 計		七七,三七七,四四七	六四,四三一,八三七	八二,四一七,九〇七

輸出品種	年次	輸出品種	年次
商	一九二五年—一九二六年	商	一九二四年—一九二五年
金塊及正貨	六四、二七二、五六九	金塊及正貨	五七、八六二、一八七
合計	一〇、六三三、六七一	合計	一一、七三〇、三八九
輸出超過	七四、九〇六、二四〇	輸出超過	六〇、五九二、五七六
輸入超過	二、四七一、二〇七	輸入超過	三、八三九、二六一
一九二三年—一九二四年	八四、八二七、四九六	一九二三年—一九二四年	二、四〇九、五八九
一九二二年—一九二三年	八一、一七九、三六三	一九二二年—一九二三年	三、六四八、一三三
一九二一年—一九二二年	八一、一七九、三六三	一九二一年—一九二二年	三、六四八、一三三

2 重要輸入商品

政府の統計に依り重要輸入商品に付過去三ヶ年間の比較を示せば左の如し。

第一、衣類 其他

品種	年次	品種	年次
衣服、織物、雜貨類	一九二五年—一九二六年	衣服、織物、雜貨類	一九二四年—一九二五年
靴	一七、七八三、五〇九	靴	一四、〇五六、〇一八
帽子	三七六、四三九	帽子	六二四、二六五
合計	四三九、九八八	合計	四一一、五〇六
總輸入額との比例	一八、五九九、九三八	總輸入額との比例	一五、〇九一、七八九
一九二三年—一九二四年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二三年—一九二四年	二二、 <sup>三</sup> / <sub>三</sub> %
一九二二年—一九二三年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二二年—一九二三年	二二、 <sup>三</sup> / <sub>三</sub> %
一九二一年—一九二二年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二一年—一九二二年	二二、 <sup>三</sup> / <sub>三</sub> %

第二、鐵、機械、器具、建築材料の類

品種	年次	品種	年次
鐵及鋼	一九二五年—一九二六年	鐵及鋼	一九二四年—一九二五年
農業用具	三、五二二、七三五	農業用具	三、〇一九、〇九〇
機械器具	五二五、七一	機械器具	五九九、三三一
金屬製品	三、三五八、三二九	金屬製品	三、九五九、八三四
鐵道材料	三、八〇二、三七四	鐵道材料	三、八七一、九一三
葉鐵	六七五、二五〇	葉鐵	一、〇八五、五九七
材木	八五〇、〇二八	材木	五五五、一九五
セメント	一、七三六、七〇九	セメント	二、一七九、七九五
合計	二二六、四五六	合計	一六九、八三四
總輸入額との比例	一四、六九七、五九二	總輸入額との比例	一五、四四〇、五八九
一九二三年—一九二四年	一九、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二三年—一九二四年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %
一九二二年—一九二三年	一九、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二二年—一九二三年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %
一九二一年—一九二二年	一九、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二一年—一九二二年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %

第三、食料

品種	年次	品種	年次
コ、ア及チョコレート	一九二五年—一九二六年	コ、ア及チョコレート	一九二四年—一九二五年
合計	五三〇、九〇四	合計	三三二、四六八
總輸入額との比例	一九、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	總輸入額との比例	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %
一九二三年—一九二四年	一九、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二三年—一九二四年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %
一九二二年—一九二三年	一九、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二二年—一九二三年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %
一九二一年—一九二二年	一九、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %	一九二一年—一九二二年	二四、 <sup>四</sup> / <sub>四</sub> %

珈琲及チョコレート	一一〇、七〇二	一〇四、八六五	一一三、三四五
魚類	九一五、五二二	八〇六、三二四	七五五、二七四
菓物	五三二、七三三	四〇二、九一七	五一七、〇〇一
練乳	一〇〇、〇三二	五二、九五〇	四六、三三三
ビツクル及ソース	一一四、一九七	一一三、一一一	一四三、〇一〇
砂糖	一、八六九、七四六	一八一、〇二〇	五二〇、六八二
茶	一、九三九、一五一	一、五二八、〇三二	一四二七、七二〇
合計	六、一一二、九八七	三、五三〇、六七七	三、九〇二、四四八
總輸入額との比例	八%	五 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> %	五%
第四、酒、煙草類			
品種	一九二五年—一九二六年	一九二四年—一九二五年	一九二三年—一九二四年
麥酒	二五六、八三〇	三九九、八〇三	五六四、三九五
酒	一、一三〇、〇一〇	一、二九〇、六三〇	一、三九二、〇一八
煙草	九六一、三三八	九〇一、七三九	一、〇三六、〇七四
葡萄酒	八二、三九〇	八九、九五二	一七六、六二二

合計

總輸入額との比例	二、四三〇、五六八	二、六八二、一三三	三、一六九、一〇九
第五、其他	三 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> %	四 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> %	四%

一九一五—一九二六年に於ける輸入中には右の外左記のものを含む。

網索類	七三八、三七七
藥材及化學藥品	一、七五四、〇九〇
陶磁器類	四〇二、二三二
硝子及硝子器	五一五、六三六
護謨製品	一、三一五、二七〇
黃麻製品	二、三二八、三八六
肥料	五一七、六七二
燈油	六四四、一三九
塗料、顔料、假漆	五九一、八五六
紙類	一、八三七、五七七
手工用具	四九三、四三四

3 關稅收入

次に過去三會計年度に於ける關稅收入を擧ぐれば左の如し。

品種	年次	一九二五年—一九二六年	一九二四年—一九二五年	一九二三年—一九二四年
麥酒、酒精其の他飲料		二、五〇三、二〇八	二、九〇二、一七九	二、八一三、三三八
煙草		一、五七〇、八〇二	一、四三八、一九一	一、三六五、八四一
砂糖		六〇四、五六一	七五、三九四	二一四、〇五一
農産物及乾物		一、四〇四、九〇六	一、一一〇、四五二	一、〇二〇、三三六
織物及衣服類		二、九四二、四九四	二、三三四、〇五三	二、五四四、三七五
金屬及機械		一、六〇〇、六八二	一、六七五、八三六	一、七〇四、六三六
油、顔料及假漆		三九七、七二三	三二一、六八八	三一八、七六五
陶磁器及セメント		三七四、四八六	三四三、三五九	四三一、二九三
藥材及化學藥品		一六六、四八五	一三五、三一六	一二六、八三六
木材、枝編細工、籐		三七一、一〇四	四五九、九四一	五六一、〇二七
寶石、時計、小間物類		三四五、七〇六	二五九、三四九	二八〇、七一五
皮革及護謨		五二一、二三二	四三八、八〇三	四八二、八五八

紙及文房具	三五三、四九八	二七〇、七一	二三七、八七〇
車輛及部分品	五〇五、三四七	三〇八、二二五	三四九、四五九
樂器	一〇一、三八二	八四、五五六	一六八、二四七
雜物	三〇五、〇〇九	二五八、六八〇	三三七、七八六
其他雜收入	五四、八六九	三五、一九三	三六、四八四
合計	一、四、一二三、五二二	一、二、四五二、九二五	一、二、九九一、八一七

即ち一九一五—一九一六年に於ける關稅收入は、一九一四—一九一五年に比較し、一、六七一、五八七磅の増加を示せり。尙一九一六年七月より同十二月に至る六箇月間の關稅收入は六、七九六、五六九磅、前年同期には六、六五一、四九二磅にして、一四五、〇七七磅増加せり。

4 重要輸出品

更に重量輸出品に付て説明すれば

第一、羊毛

一九一五—一九一六年に於ける羊毛の輸出は、數量に於て多少減少したるも、軍需品としての需要多きに基づき値段騰貴したるが爲、價額の點に於ては増加したり。今過去三年間に於ける比較を示せば左の如し。

數量

脂付のもの	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年	一九一三—一九一四年
洗上げたもの	四〇八、六二二、一六二	四四三、九五三、八三〇	五六四、一〇〇、二四五
合計	七九、八七九、〇六五	六四、九四九、二九一	六七、〇八七、八二二
脂付のもの	四八八、五〇一、二二七	五〇八、九〇三、一二一	六三二、一八八、〇六七
洗上げたもの	二〇、二四〇、九九〇	一七、四七六、六三七	二二、七四四、八七四
合計	六、五二五、〇三一	四、六二五、五四五	四、九八五、一三二
脂付のもの	二六、六六六、〇二一	二二、一〇二、一八二	二七、七三〇、〇〇六
洗上げたもの	六、五二五、〇三一	四、六二五、五四五	四、九八五、一三二
合計	二六、六六六、〇二一	二二、一〇二、一八二	二七、七三〇、〇〇六

即ち一九一五—一九一六年に於ては、前年度に比較し四、五六三、八三九磅の増加を示せり。次に一九一六年の下半季に於ては、羊毛の輸出は前年同期の一五、七二三、八一三磅に比較し、數量に於て減少したるも、價格の騰貴に因り略同金額に達し、一五、〇六四、三三七磅を算せり。

過去三箇年間に於ける羊毛の平均價格（一封度に付）を示せば左の如し。

年次	脂付のもの	洗上げたもの
一九一三—一九一四年	九・六七ペンズ	一七・八二ペンズ
一九一四—一九一五年	九・四五	一七・〇九

一九一五—一九一六年

一一・八三

一九・六〇

第二、其他主要牧産品

過去三箇年間に於ける主要牧産品の輸出高を上げれば左の如し。

品名	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年	一九一三—一九一四年
馬	三〇四、七〇二	四五九、九七八	一五二、二二三
凍肉(牛肉)	二、一七五、八九四	四、九九〇、〇五四	三、二一五、六五六
同(羊肉)	七六九、七五二	三、四一三、八四八	二、九二七、二二二
同(兔肉)	七二四、六二四	五三四、五九六	五〇八、一四三
罐詰肉	五〇〇、九五七	一、八五三、七九六	一、一八五、八七七
皮革(牛皮)	五六〇、二一五	一、三八〇、八八六	一、八四六、四八一
同(兔皮)	二六五、七二四	一、三二一、二八六	五四九、〇一三
同(羊皮)	一、二七四、六一五	一、七六四、五二八	二、五七二、八五九
同(其他)	三三〇、七六七	一、四一五、七九三	六三三、六〇四
獸脂	四四三、八〇三	一、五七一、四八八	二、三〇三、七七四
合計	七、三五一、〇五三	一六、三四六、二五三	一五、八九四、八四二



前表に掲げたるが如く、凍肉は大減少を爲せり。牛肉及羊肉の總價額は、一九一四—一九一五年の八、四〇三、九〇二磅に比較し、一五五—一九一六年に於ては、二、九四五、六四六磅に過ぎずして、實に五、四五八、二五六磅の減少を示せり。尤も一九一六—一九一七年に於ては、幾分挽回せるもの、如し。

一九一五—一九一六年間に、濠洲より輸出せられたる牛肉の數量は一一四、六七六、一〇四封度にして、前年に於ては二九二、〇六六、四八九封度なりき。羊肉は前年一三五、六六四、五一七封度に比較し二四、一五六、九六五封度、仔羊肉は五七、五九九、三六〇封度に比較し一四、一八六、六六三封度に過ぎず。罐詰肉は又著しく減少し、一九一四—一九一五年の五七、七九六、二七一封度に比較し一九一五—一九一六年は一四、三〇七、二六四封度に過ぎず。

羊皮、牛皮、及獸脂も近年に比較し大減退を示せり。

第三、小麥及麥粉

小麥及麥粉の輸出に付て統計を示せば左の如し。

數	量	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年	一九一三—一九一四年
小	麥	一七、一七二、七七三	二、五二六、三五六	三六、四〇三、七八二

麥	粉	二、九四〇、九五二	一、〇七〇、二七一	四、四三六、二二一
---	---	-----------	-----------	-----------

小	麥	七、九九七、五八三	八五九、〇二七	一一、三七三、一九四
小	粉	一、七三八、七二七	五〇九、三八九	一、八五七、四六九
合	計	九、七三六、三〇〇	一、三六八、四〇六	一三、二三〇、六六三

前記數字は政府の會計年度に依るものなれば、收穫季を異にするもの、船積を混同するの嫌あるを以て、小麥及麥粉の輸出に付ての真相を知るには、左の通り曆年に依り對照するを便とす。

數	量	一九一六年	一九一五年	一九一四年
小	麥	二六、四八五、五五五	六六七、九一九	三一、七二六、八七三
小	粉	五、一七八、〇八九	一五七、九三〇	三、四八四、三三八
價	額			
小	麥	一一、八二〇、三四七	二八九、五二二	九、九九六、五一四
小	粉	三、〇〇一、〇六六	一一三、六〇四	一、四九五、五五七
合	計	一四、八二一、四一六	四〇三、一一六	一一、四九二、〇七一

麥粉を小麥に換算するときは、一九一六年に於ける小麥及麥粉の輸出高は、小麥五七、〇八七、八一

四ブッシュェルに等しく、同様に一九一五年には一、五〇八、〇二三ブッシュェル、一九一四年には六一、五八八、九六六ブッシュェルなり。即ち一九一六年に於ける輸出高は、一九一四年に於ける輸出高よりも小量なれども、價格の騰貴に因り、三百三十萬磅餘増加せり。

一九一六年の末に至り、一九一五—一九一六年に於て收穫せられたる小麥が多量残り。尤も此の殘高、及一九一六—一九一七年收穫にかゝる小麥の大部分を、英國政府に於て買付けたり。

第四、牛 酪

一九一五—一九一六年に於ては、搾乳製酪業の受けたる打撃少からずして、輸出は過去數年間に比較し大に減少せり。今前年度との比較を示せば左の如し。

數	量	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年
價	額	一六、七二二、二五六	五四、〇二二、五二三
		一、〇二二、七六二	二、六五九、〇三〇

一九一五—一九一六年の輸出高一六、七二二、二五六封度に比較し、一九一一年(曆年)に於ける輸出高は一〇一、七三二、一三六封度、此の價額四、六三七、三六二磅なりき。

尤も最近大に挽回するに至り、一九一六年十二月末日に至る六箇月間の輸出高三〇、六三五、二二二封度、此の價額二、一一四、九〇〇磅にして、前年同期に於ては九、七六六、九四〇封度、此價額六〇八、

〇一二磅なりき。

第五、金屬及鑽石

一九一五—一九一六年に於ては、大に輸出を恢復したるが、價額の増加は主として其の騰貴に基くものなり。

過去三曆年間の統計を示せば左の如し。

品 種	年 次	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年	一九一三—一九一四年
銅		三、五三二、〇六一	二、二二九、二五四	二、八二五、二四三
鉛		三、一九四、二〇六	二、〇〇九、四三三	二、〇三七、一八八
銀		七〇三、二八九	六八〇、四八一	九四二、九八一
錫		五七七、〇六一	二二六、一八〇	五四八、三一七
鑽 石 (金を除く)		六九六、七九〇	五〇六、五九二	一、二五八、〇一一
コンセントレート(金を除く)		一、四二四、四〇五	八六一、八一八	四、三〇八、七九八
合 計		一〇、二六、八一二	六、五二、七五八	一一、九二〇、五三八

銅及鉛の輸出は、一九一六年下半季は一九一五年下半季に比較し、大に増加したり。

第六、其 他

其の他主要輸出品の價額を擧ぐれば左の如し。

品種	年次	一九二五—一九二六年	一九二四—一九二五年	一九三—一九三四年
石	炭	五二、〇一三	七二〇、六三二	一、二八五、五五二
菓	物	四一五、五〇七	一七六、〇二四	五二二、八〇三
糝	皮	一、二九五一〇	一、二八二、六一八	六五九、〇七二
眞珠	貝	一九四、〇五二	一七九、四三〇	三九九、一二六
木	材	四〇六、一二三	八〇七、〇六一	一、一四七、四九五
葡	萄酒	一一〇、六〇八	一〇一、四四三	一一二、九四九
合	計	二、七七六、八一三	三、一六七、二〇八	四、一三六、九九七

○各州輸出入の比較。

濠洲の直輸出入に付、各州別に統計を示せば左の如し。

輸 入	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年
ニューサウスウェールズ	三三三、三七九、六九八	二七、三三三、一八九
グイクトリア	二六、七五四、〇七九	二一、〇五〇、三二〇

クキンズランド	七、〇〇〇、九一二	六、四二八、六八八
サウスオーストラリア	五、一五〇、七一〇	四、七四八、四八九
ウエスタンオーストラリア	四、一六八、四四三	三、九八六、一九八
タスマニア	九八二、八四九	八一、二五五
ノーザンテリトリー	六一、八二四	八三、七〇八
合 計	七七、四九八、五一五	六四、四三一、八三七

ニューサウスウェールズ	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年
グイクトリア	四〇、九五五、七二四	二八、一〇六、九七一
クキンズランド	一四、七四六、五四四	一一、三四九、六六二
サウスオーストラリア	八、一〇六、一二三	一三、〇一五、四八四
ウエスタンオーストラリア	六、一三六、〇八五	三、五六六、三三五
タスマニア	四、一九七、四七七	三、一二〇、七九八
ノーザンテリトリー	六一二、一一九	四二〇、〇〇七
合 計	二二〇、九五三	一三三、三一九

合計

七四、七七五、〇二五

六〇、五九二、五七六

前記の數字は商品の外金塊及正貨を含む。又輸出は再輸出をも含む。再輸出額は一九一五—一九一六年は二、九〇七、五五九磅にして、一九一四—一九一五年は二、四七〇、〇〇三磅なり。

○濠洲貿易の對手國。

一九一五—一九一六年に於て、濠洲に輸入せられたる商品に付、其の原産品を標準として種別し、前年と比較すれば左の如し。

米 國	一九一五—一九一六年		一九一四—一九一五年	
	輸 入 額	總輸入額との比例	輸 入 額	總輸入額との比例
英 國	三五、一四五、〇四三	四五・三四	三三、四九四、八二一	五〇・四三
英 領 地	一一、七五六、六三七	一五・一七	八、六一五、〇三五	一三・三七
諸 外 國	三〇、六一九、四六二	三九・四九	二二、三二一、九八一	三六・二〇
合 計	七七、五二二、二四二	一〇〇・〇〇	六四、四三一、八三七	一〇〇・〇〇

前表の示すが如く、英國よりの輸入の比率は減少し、屬領地及諸外國の比率は増加せり。  
英國及英領地を除き、濠洲輸入品の主要なる原産國を擧ぐれば左の如し。

一九一五—一九一六年

一九一四—一九一五年

一五、八六四、五一六

一〇、八七一、二九八

日 本	二、九〇九、六九六	一、四三六、三一〇
佛 蘭 西	一、七九二、五二五	一、七五四、四九四
瑞 西	一、四五八、六四六	一、一四二、八二三
瓜 哇	一、三二五、一八三	六八九、一一六
亞 爾 然 丁	一、一三六、四六七	四二六、二〇七
伊 太 利	九一九、二六一	五一七、八八〇
諾 威	七二三、九〇五	八四〇、五五三
支 那	六七六、五五〇	四六三、六〇六
瑞 典	六一七、八三三	五三五、四八〇
獨 逸	一一七、四七〇	二、〇〇五、一八七
白 耳 義	八一、〇五六	三二四、一〇二

前記二箇年間に於ける統計中、米國及亞爾然丁國よりの輸入には、一九一五年の初に於ける濠洲の小麥の不作に因る供給の不足を充するため、輸入せられたる小麥を含むものとす。一九一五—一九一六年に於て、瓜哇より輸入の増加せしは、「クキンスランド」に於ける蔗糖の不作に基き砂糖の輸入増加せしに因るなり。

更に積出地を標準とし、主要なるもの、統計を示せば左の如し。

	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年
英國	三九、七三〇、三二〇	三七、八九六、六五五
米國	一五、三六〇、六九〇	九、五八五、六一七
英領地	一二、七〇八、六二七	九、四三一、一四五
日本	二、九〇六、〇二二	一、三九二、三一七
瓜哇	一、四九七、九八〇	七三七、六〇二
亞爾然丁	一、一二七、四六三	四二一、八三六
諾威	六四九、八九八	七八八、九一三
瑞典	六一〇、九四五	四八七、四七九
(參照)		
獨逸	四一、二〇〇	一、二九六、九一七
白耳義	七、三九四	五二四、三九六
佛蘭西	三〇五、七六〇	二三七、六二七

次に過去二會計年度に於ける濠洲よりの輸出仕向國を示せば左の如し。

	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年
英國	三三、五二八、三九八	四四、八四
英領地	一〇、一三三、七六四	一、三五二
諸外國	三二、一三六、一五九	四一、六四
合計	七四、七七八、三二一	一〇〇、〇〇
總輸出額との比例		
英國	四四、八四%	三八、五四六、一〇八
英領地	一、三五二%	九、二九二、七二〇
諸外國	四一、六四%	一二、七五三、八四八
合計	一〇〇、〇〇%	六〇、五九二、五七六

尚、諸外國中主要なる輸出仕向先を示せば左の如し。

	一九一五—一九一六年	一九一四—一九一五年
米國	一七、六四六、九〇四	四、九四七、四四六
日本	三、四三二、九七九	一、九六六、九四四
伊太利	三、三八一、三五三	七七二、四三二
佛蘭西	二、四六八、七二九	一、二七九、五二三
カナリヤ群島	一、〇〇三、六一二	—
露國	八九九、五六五	二七〇、三六八
瓜哇	五〇五、四八六	三八四、一〇五

(參照)

白耳義  
獨逸

四二〇

八〇四、九五六  
四七八、三九六

六六

### 第三、濠洲に於ける鉛及亞鉛の精鍊業

(大正六年十一月十一日  
日アデレード發信)

前畧去る五日午後アデレード發六日朝ブローケンヒル到着、當日及翌七日の兩日同地主要鑛山會社六箇所を視察致候。各會社共叮嚀懇切に案内説明致し呉れ申候。

ブローケンヒルは鑛山として最も著名の地にして人口約三萬四千餘、坑夫の數八千、而して資本金五六百萬圓乃至一千萬圓の大鑛山會社十一許り有りて、晝夜間斷なく作業致し居候。

一八八三年發見以來鑛脈の關係上、主要鑛産物に變遷ありたるも、目下は鉛及亞鉛の精品を産出致居候。精鍊業と申すは地下より採掘したるまゝの粗鑛を粉碎し、沈澱其の他化學作用に依り土砂分を除去し、鉛又は亞鉛の含有量を多くしたるものにて、鉛分を多く含む粉末(リッド、コンセントレート)と、亞鉛分を多く含む粉末(ジンク、コンセントレート)との二種に分れ居候。

斯くして出來たる精品は汽車にて「ポートビリー」に運ばれ、「リッド、コンセントレート」は全部同

地精鍊會社にて精鍊せられたる上、鉛として積出し、「ジンク、コンセントレート」は其儘汽船に積載せられて英國、米國、及日本等の諸國に送られ居候。

七日夕方ブローケンヒル出發、八日午後ポートビリー到着、九日朝同地鉛の精鍊會社 (Broken Hill Associated Smelters Proprietary Ltd.) を視察致候。仲々大規模のものに御座候。午後は同港に於ける石炭陸揚を容易ならしむる爲め、最近出來上りたる自動石炭陸揚機を見物致候。

同夜は横濱増田屋商店——濠洲に於てはシドニー支配人の名義を取り鈴木商會の名にてシドニーに本店、メルボルン及ポートビリーに出張所を置き申候。——ポートビリー出張所支配人(英人)の招待を受け市長、税關長、鉛精鍊會社支配人、汽船會社、銀行支配人等參り意見を交換致候。

十日朝同地出發、同日夕方アデレードに到着致候。本日は日曜日にて休日付明月曜日所用相濟ませ、午後四時半發汽車にてメルボルンに歸る所に御座候。同地は一週間滞在の上シドニーに歸着致す豫定に御座候。

尙聯邦總理大臣ヒューズ氏は、「シドニー」に於て、「戦後に於ける産業組織」の題下に演説して曰く、「戦局終了後に於ける吾人の執るべき唯一の途は、産業を組織的に構成するに在り。而して其の組織は國民的基礎の上に立ち、生産より消費に至るあらゆる産業を包含せざるべからず」と。以て戦後に於ける濠洲聯邦政府の産業政策の一端を窺知するに難からず候。

附、交通關係 尙序に申上げ度きは、船繰は一層多くする事にては誠に緊要の事に御座候。目下濠洲は各種商品缺乏を訴へつゝ有之候に付、何程にても賣れ申すべく、尤も便船の關係に付いては歸り荷物の事を考慮する必要あり、現に昨年之如く多額の羊毛類を日本に向け輸出し居たりし時は便船多く、從て日本品も多く輸入せられたるも、目下は羊毛輸出出來ざるため、便船も以前より減少し、これが爲め輸出貿易に與へたる打撃實に尠からず、目下の處原料品を多く取るが急務に御座候。歸り荷物有れば船會社も引合ひ申候に付き船繰致すべく、其の結果は日本品も多く參る事に相成申す可候。誠に極めて簡單なる理に有之候。斯くの如き次第につき、値段は少々高くとも原料品を取る工夫を致すが急務と相信じ居候。

# 一、英領海峽殖民地

臨時産業調査局 託

松尾音治郎

## 第一、馬來半島方面に於て囑目すべき新工業(大正六年十一月十九日發信)

### 新工業とは何ぞ

戰前獨逸人は既に新工業に着眼したれども戰爭勃發の爲めに實際の着手に至らずして止み、馬來聯邦州政廳農務局にても千九百十六年中既に之が試験を完了して有利なりと斷定したるものあるも是れ亦戰爭の爲め、英人中未だ之れに着手したるものを見ず。此際斯業に對して先鞭を着くるの榮譽を擔ふべき者は、必ず我日本人たらざるべからざるなり。新工業とは果して何ぞ。

### 護謨種實製油業

バラ護謨樹は護謨液の生産を本領とすれども、之が副産物として種實を産す。此種實は食料用乃至石鹼材料として有用なる油を産し、其の油糟は家畜の食料としても亦肥料としても効用顯著なり。其の成分に關する分析表を示せば左の如し

原品百分中  
種 穀

四六、七%

種

肉

五三、三%

六九

又種肉百分中

水分	一七、一八%	粗蛋白質	一四、四六%
粗脂肪	三七、六五%		

脂油の性質は黄褐色を呈する粘稠の乾性油に屬し、一種不快なる臭氣を有す。本油はペンキ石鹼等の製造原料に利用し得べし。(以上鹿見島高等農林學校分析表による)

尙ほ英國倫敦「インベリアル、インスチユート」の分析成績表を示せば左の如し。

Moisture 9.10 % Ash 3.53 %

Fibre 3.40 , Oil 36.10 ,

Proteid 18.20 , Carbohydrates 29.67 ,

斯る有用なる種實は、現時單に苗木用種子として若干拾集せらるゝ以外、殘餘の巨額は無用の長物として放棄せられつゝあるなり。其の數量蓋し馬來半島のみにて一ヶ年拾一萬噸以上、之に附近瓜哇、スマトラ、錫蘭等の分を併せば二十八萬噸以上に上るべし。(後項參照)所謂矚目すべき一新工業とは即ち此種實を利用して製油業を起す事是れなり。

ライト氏の調査によれば、戰前倫敦にて本油一噸二十磅に價し、油糟一噸五磅に價せり。

### 護謨樹結實期及其の數量

錫蘭に於ける實驗によれば、種子よりの護謨樹は植付後五年目より結實し、挿木よりのものは植付後三年目より結實するを普通とす。樹齡結實期に達すれば年中結實すと雖、就中三月、九月、及十月を以て最も盛んなりとす。(左表參照)

護謨樹結實月別表

一月	三二、九二四	四月	五六、三一四	七月	二九、六五〇	十月	二九、一四三六
二月	五五、八〇〇	五月	二八、〇九七	八月	七九、六〇〇	十一月	八五、八七〇
三月	一四八、〇五〇	六月	二八、七〇〇	九月	三二四、五一五	十二月	三五、八〇七

右は當新嘉坡植物園にて、九ヶ年平均の月別結實數を示したるものなり。

### 當方面及其附近に於ける護謨種實生産額

護謨樹一本につき一ヶ年間の結實數は五百粒を以て程度とす。又一個の顆中に三粒の種實を含むものなり。

偕て護謨樹一本宛一ヶ年結實數を五百粒とし、又一英反宛護謨樹植付數平均百本とせば、大正四年末現在馬來半島のみにて約十一萬噸の種實を産し、其れに錫蘭、瓜哇、スマトラ、ボルネオ等の分を合計する時は約二十五萬噸を産するの勘定を示せり。

因に一噸宛粒數は乾粒なれば三十五萬粒、生粒なれば二十八萬粒を算す。本項の噸數は假りに一噸



宛三十萬粒として計算したるものなり。尙左表を注意すべし。

馬來半島及其附近護種實生產表

地名	栽培面積	樹數	種實粒數	噸數
馬來半島	六七〇、〇〇〇	六七、〇〇〇、〇〇〇	三三、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一一、二〇〇〇
錫蘭	二二四、〇〇〇	三三、四〇〇、〇〇〇	一一、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三七、〇〇〇
瓜哇	三〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
スマトラ東海岸	二四五、〇〇〇	二四、五〇〇、〇〇〇	一二、二五〇、〇〇〇、〇〇〇	四一、〇〇〇
ビルマ、マドラス、ポルネオ、アッサム其他	四二、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇
合計	一、四八一、〇〇〇	一、四八、一〇〇、〇〇〇	七四、〇五〇、〇〇〇、〇〇〇	二四七、〇〇〇

右の統計は大正四年末現在の栽培面積を基準としたるものなれば、現今は更に増加したる事勿論なり。

當地に於ける護種實の相場

目下種實千粒に付き當地相場三弗なり（約我三圓三十錢）。是れ植付用種子として發芽の保證を附せるもの、價格なれば、製油用種價格の標準とならず。

製油業開始の曉は、製油家は各護種園主と特約して、現今無用の長物として放棄せられつゝある分を

購入するなり。

又各護種園主は午前中にて仕事を結了したる「タツピング」労働者を、午後を利用して種實を拾集せしめ、若干の賃銀を與ふる事とせば双方の利益なり。随つて種實の販賣に高價を貪るを要せず。

採算上の結論

一九一六年中馬來聯邦州政廳農務局長は「コーランゴ」市附近の護種園主等と協力して二十五噸の種實を拾集し、之を英國「ハル」(Hall)の製油會社に送りて試験せしめたるに、同會社は其試験成績を報告して、本品を材料として營利的計算に合ふ製油を爲し得べき事、及び之れが爲めに特に製油會社を起すの價值ある事を證明し、最後に該製油會社は之を馬來半島乃至其附近の種實生産地に於て設置するを一要件とすと附言せり。

予は斯業の將來を以て有望なりと確信す。從て本邦製油家が率先して更に詳察なる實地調査を行はん事を慫慂するや切なり。

## 一、北米合衆國

臨時産業調査局 大濱喜一郎  
事務官

## 第一、北米シヤトル近況

(大正六年十一月七日)  
(シヤトル發信)

貿易港としてのシヤトルは近年著しく其の地位を高め、其の吞吐する貨物の數量は、桑港を凌駕し米國に於ける東洋貿易の中心は、漸次桑港よりシヤトルに移りつゝあり。輸入に於ては、日本第一位を占め、本邦商品が廣く一般米人間に使用せられ、米國店頭到我商品を見ざる事なく、時々粗製造等の非難なきに非ざるも、兎に角、如何なる商品と雖も、日本に於て製造し得ざるものなしとの觀念を、一般米人に與ふるに至りしは欣ばしき現象なり。

當港に輸入する外國船舶の大多數は日本商船にして、毎月入港船ある由、從て港内に我商船の碇泊を見ざる事殆んどなく、日章旗のシヤトル港を壓しつゝあるは、實に言ふ可からざる快感を覺えしむ。尙當地在留の本邦人により、諾威、瑞典船等の「チャトター」せらるゝものあり。近來英國政府が、石炭取締法により船舶のチャトターに同政府の許可を得ざるものに對しては絶対に英國炭を供給せざる事となりし爲め、英國より石炭を仰ぎつゝある諾威、瑞典等の船舶は、事實上英國の支配を受くる

事となりたる次第なるが、一般に英國政府は右許可を與へざる方針なるのみならず、一旦許可を與へたる場合と雖も、容赦なく之を取消す場合ありて、備船界に一大恐慌を來さしめたり。

當地造船業の發達近來著しく、就中、注目の價值あるもの四個所あり。最も大なるを Skinner and Eddy Corporation) と稱し、昨年二月設立せられたるも、今日迄進水せしもの既に十一隻に及び、建造中のもの尙四隻有り。型は悉く八千噸級にして、職工二千五百人を使役し居るに過ぎざるも、同一船型なる爲め、竣工の期間を速かならしむるやの説明を聞けり。

シヤトルに於ける日本人の地位は桑港と異なり、一般米人と折り合ひ宜しく、各種の大商品にして殆んど日本人を使用せざるなき狀況なり。目下、在シヤトル本邦人は六千人以上に達し、堂々たる店舗を有し、着實に營業するもの多く、労働方面に於ても、一般労働不足のため、賃銀頗る上騰し、本邦労働者も、一日最低二弗八十仙より多きは四弗を得、多額の蓄財をなす者多きが如し。團體組織としては日本人會、及び日本實業俱樂部等ありて、政治上の問題に關しても、此の團體力を利用しつゝある有様にて、「シヤトル」に排日思想の少きは、此の團體力に依ること決して尠なしとせず。何れにせよ本邦人の益々發展しつゝある事は、欣ばしき次第なり。

## 第二、米國鐵道輸送制限

(大正六年十一月)  
(二十日紐育發信)

米國の參戰以來鐵道輸送貨物激増せし爲、軍需品に屬せざる一般貨物の輸送著しく停滯し、我國の輸入品にして、西部諸港より鐵道輸送に依り紐育其他東部に達するものも大なる打撃を蒙り、平時に於ては一週間内外にて達せしもの、今日に於ては一月以上を要し、從て之に伴ふ損害も不尠趣に有之候處、今般同國戰時鐵道局 Railroad War Boardより、重要な商品 Nonessential Commodities 五百種以上を定め、之が輸送を拒絶するの案政府に提出せられ候。右商品の内容に付ては、未だ何等公表する所なきも、之が品種の如何に依りては、我輸出貿易にも影響する所不尠べしと被懸念候。本件に關し右局の會頭たるは Fairfax Harrison は、「目下米國鐵道の輸送狀況は、必需品と然らざるものとを區別するの餘儀なきに至れり。若し不必要品にして輸送停止せらるゝに至らば、戰爭に要するもの及一般生活資料に供せらるゝ一切のものは、悉く鐵道に依り輸送せられ得べき」旨、發表致居候。

### 第三、聯合國の船舶聯合

(大正六年十一月二日  
十一月一日紐育發信)

近日中聯合國は船舶政策に關し最も重要な宣言を爲すべき旨被期待候、諸種の報告を綜合するに聯合國政府は其の所屬商船の凡ての大聯合を計り單一なる指揮者の下に約一千八百萬噸の一大商船隊を形成するの協定ありしが如く、之を構成する聯合各國の商船噸數は英千三百萬噸、米二百萬噸佛百六十萬噸、伊百二十五萬噸なるべき旨被傳候。右 Allied Shipping Pool の目的は、海上輸送能力を最

も有効に發揮せしめんとするに有之、本計劃の提出者は Inter-Allied Conference の米國委員 Colby 氏なる趣に有之候。獨逸に對する米國の決心の牢乎たる一端を被察候。從來聯合國間には Inter-Allied Chartering Committee なる機關有之、船舶の融通、備船等に關し盡力し來りしと雖、自國の船舶に付ては固より、各自各個の船舶政策を行ひ來りしを以て、斯くては運輸上の共同動作を缺き、不利の場合多きにより、今回の船舶聯合の提議となりしが如く被認候。然れども實際問題として、如何なる種類の商船を入るべきか、又各聯合國は聯合に加入すべき幾何の能力を有するかの困難なる場合を想像せられ候。當地新聞紙は二三米國官憲の談として、前顯一千八百萬噸の計上は多きに過ぐ、或る國は疑もなく自國の沿岸貿易從事船、又は自國と中立國諸港との必要な貿易に從事する船舶を聯合に加入せしむる事に反對するに至るべき旨掲載致居候。

尙聯合に加入し得る商船の基礎となるべき各聯合國の所屬船、噸數等に關し、米國船舶院の最近調査する所に依れば左の如くに有之候(御參考の爲中立國分をも附記致候)。

- 一、世界商船總噸數
  - 内割
    - (一) 遠洋航路從事船 四八、〇〇〇、〇〇〇
    - (二) 内海及バルチック海の船舶 三一、〇〇〇、〇〇〇
    - (三) 沿海航路從事船 六、〇〇〇、〇〇〇

(四) 敵商船

五、〇〇〇、〇〇〇

二、太平洋航路に従事する船舶總噸數

二五、五〇〇、〇〇〇

(一) 英國(英國旗を掲揚するもの以下同様) 一三、四〇〇、〇〇〇

(二) 諾威 一、八〇〇、〇〇〇

(三) 瑞典 八六〇、〇〇〇

(四) 丁抹 六九〇、〇〇〇

(五) 和蘭 一、二〇〇、〇〇〇

(六) 米國 二、〇〇〇、〇〇〇

(七) 佛國 一、六〇〇、〇〇〇

(八) 伊國 一、二五〇、〇〇〇

(九) 希臘 四七〇、〇〇〇

(一〇) 西班牙 七五〇、〇〇〇

(一一) 葡萄牙 一五〇、〇〇〇

(一二) 露國 三五〇、〇〇〇

(一三) 白耳義 二八〇、〇〇〇

三、太平洋航路従事船總噸數

五、五〇〇、〇〇〇

(一) 英國(英國旗を掲揚するもの以下同様) 二、一〇〇、〇〇〇

(二) 諾威 五〇〇、〇〇〇

(三) 丁抹 二七五、〇〇〇

(四) 米國 四〇〇、〇〇〇

(五) 佛國 二二〇、〇〇〇

(六) 伊國 七〇、〇〇〇

(七) 葡萄牙 五〇、〇〇〇

(八) 露國 二〇〇、〇〇〇

(九) 南米諸國 二〇〇、〇〇〇

(一〇) 支那 三五、〇〇〇

(一一) 日本 一九〇〇、〇〇〇

### 第四、米國金輸出禁止事情及棉花市況

(大正六年十一月二日  
十四日紐約發信)

金の輸出禁止に關する米國政府の態度は頗る強固にして、絶對的に許可を與へざる趣に有之候。從來米國に對し金の流入頗る多かりしは、聯合國政府が米國に金を「プール」し置くを最も便宜且有利と思考し、可成米國は金を移送する政策を執りし結果にして、其の加奈陀より多額の金を移入ありしは露國より加奈陀に送り、更に米國に轉送したるものなる趣に有之候。然るに一方日本に對し、切りに金を流出するは聯合國の上述の政策に反し、英國の欣ばざるは勿論にして、米國に對し金の流出防止の請求ありしが如く、殊に米國參戰以來、益金の國外流出を禁止するの政策を強固ならしめたるものには有之候。然らば如何なる方法に依りて日米兩國の貿易經濟を完からしむべきかは、研究を要する問題なるも、將來聯合國に有利なる投資の方法を見出すを良策かと被考候。棉花の輸出を計り、以て兩國貿易の經濟上圓滑を計らんとの策なきにあらざるも、目下米國市場に於ける棉花の價格にては、到底實行困難なるべしとは、當地當業者一般の見解に有之候。

近年米國に於ける棉花の收穫は、不況續なるのみならず、本年は殊に植付の遅れたると十月九日の霜害にて、生産額千七十五萬俵と算せられ、昨年比し約百萬俵の減作に有之候。従て市價日に上騰するのみして、十一月二十三日の定期市場に於ける相場左の如くに有之候(一封度に付)。

十一月	二九、〇五	十二月	二八、五二
三	二八、二〇	一月	二八、〇一
六	二七、七九	二月	二七、七九
一九一七年	八、五五九、三九〇	三月	二七、七九
一九一六年	九、六一五、〇〇三	四月	二七、七九
一九一五年	八、七七一、二七五	五月	二七、七九

棉花相場は、(一)前陳の如く不作に依ること勿論にして、Ginnedしたる棉花の數量も、前年に比すれば甚だ少額に候。即ち十一月十四日前に Ginned したる棉花の數量は

(一)、相場騰貴の第二の原因は、投機業者の買占に有之候。最近迄輸出せられたる數量は百六十萬俵内地消費百七十萬俵にして、残りの約五百萬俵は内地の「ストック」として、大部分投機業者に買占められ、市場に現はれざるもの多き趣に有之候。

(二)、第三の騰貴原因は、船腹不足及鐵道輸送不完全の爲、英國市場に於ける品不足に基因する騰貴の反動高に有之候。(本年棉花の生産費は、僅々十二セント乃至十五セント(一封度に付)に過ぎざるを以て、生産業者の未だ曾て見ざる好景氣に有之候)。従て目下の狀況にては、印棉代用問題の殆ど實

行不可能なるのみならず、我國に於ける紡績業者が、果して前述の價格にて買入れ引合ふや否やも、疑問かと被考候。

### 第五、米國船舶院の活動と同國造船力 (大正六年十一月二日、十六日紐育發信)

米國船舶院今日迄の行動は、大體三期に分ちて觀察するを得候。第一期は委員長 Denham 氏と、緊急船隊社團 Emergency Fleet Corporation 總支配人 Goehals 海軍少將との確執時代にして、前者は木船主義を主張し、後者は鐵船主義を主張し、結局兩者辭任に依り、一段落を告げたるものに有之候。而して一般米國人間には Denman の木船主義を目して、夢想の道樂なりと非難する者多き如くに有之候。第二期は右兩者の後を繼ぐたる Hurley, Capps 及 Bowles の活動時代にして、殊に Capps 及 Bowles (共に海軍少將) の二氏は、多年海軍に於ける經驗を、商船隊建設に利用せんとしたるものに候。然れども數ヶ月後に於ける今日に至り、造船狀態の遲々として進捗せずとの非難を受くるに至り、遂に Capps の退任となり、Bowles の引退をも豫期せられ候。固より此の非難は、目下米國の上下を擧げて造船業に熱中しつゝあるより推して無理ならざるが如く、即ち本年八月兩氏の行動せしより、最近に至る約四ヶ月の間に進水せし商船は、僅に二十七隻十五萬九千二百九十九噸に過ぎず、到底一ヶ年數百萬噸建設の同國造船計劃の大目的に追隨し能はざるや明に有之候。

第三期は將に之より始まらんとするものにして、何人が Capps の後を襲ふて緊急船隊社團の社長となり、船舶院の活動を扶くべきかは未だ明ならずと雖、今後に於ける同院の事業は大なる手腕と責任とを要するもの可有之候。本月二十二日船舶院委員長 Hurley 氏は、英國の主張する來年度造船計劃八百萬噸完成の不可能なるを公言すると共に、新に一九一九年一月迄に約四百萬噸造船計劃案を發表致候。其の内容は

鐵船	三四五隻	二、六六五、四〇〇噸
木船	三七五隻	一、三三〇、四〇〇噸
混合船(木、鐵)	五八隻	二〇七、〇〇〇噸

にして、此の以外に建設中の外國商船二百萬噸を徵發し得る趣に有之候。然れども目下米國に於ける勞働力不足の現状と、「ストライキ」問題の頻發するの時に際し、斯くの如き尨大なる造船計劃が、果して良く成功し得るや否やは、多少疑問に被考候。

### 第六、米國船舶院の活動 (大正六年十一月二日、十七日紐育發信)

米國船舶院の活動に關しては、十一月二十六日附を以て及御報告置候處、今般海軍少將 F. R. Harris (Chief of the Navy Bureau of Dock & Yards) 及 Capps の後を繼ぎて、緊急船隊社團の總支配人

に選任せられ候。元來 Campes の後繼者に付ては、有力なる造船業者中より選任せらるべく豫期せられたるに反し、又々海軍部内より任命したる船舶院委員長 Hurley の行動に付ては、一般造船業者の不服も不尠様被見受候。

尙今回船舶院は、上述社團に屬する船舶建造に必要缺くべからざる職工其の他の人員にして、造船業者よりの證明を有する者に對し、兵役を免除する旨發表致候。目下造船に對する米國一般の意氣込は非常なるもの有之、新聞紙は競ふて船舶急造の必要なるを論じ、船舶院は大西洋側に於ける四十三個の造船所、及太平洋側に於ける約三十個所の造船所を指揮し、何れも全力を擧げて活動せしめ居る趣に有之候。

### 第七、聯合國の船舶聯合 (再び) (大正六年十一月二) (十八日紐育發信)

本件に關しては、曩に十一月二十一日附を以て及御報告置候次第も有之候處、米國の提案に對しては、目下聯合國間に於て協議中の趣なるが、更に米國は中立國の船舶を、右「プール」に加入利用せしめんと案を提出致候。而して中立國船舶を強制的に「チャーター」する方法は、中立國の船主にして聯合國の申入に應ぜずんば、入港及石炭の供給を拒絶すべしと云ふに有之候。尤も此の提案は中立國船舶の全部を利用せんとするに非ず、中立國のまは戰爭區域に、又まは聯合國の安全なる貿易に、又殘

餘のまは中立國に必要な食料品其の他の必需品輸送に使用せしめんとするに有之、之に依りて他方獨逸に貨物の輸送せらるゝを防止せんと目的に有之候。現在米國に依り利用せらるゝ此の種中立國にして、同國領海内にあるものは左の如くに候。

和 蘭 船	三三〇、〇〇〇噸	Deadweight
丁 抹	一一二五、〇〇〇噸	
諾 威	一一〇〇、〇〇〇噸	
瑞 典	四五、〇〇〇噸	

右米國の提案たる船舶「プール」の問題が、果して Paris Conference に於て賛同せらるゝや否やは、一に英國の態度如何に依り決定せらるべく被想像候。

### 第八、米國造船材料及勞働者並海員供給 (大正六年十一月) (三十日紐育發信)

米國に於ける造船力の件に關しては、曩に十一月二十五日附を以て及御報告置候處、右に關し造船材料の供給力に付て見るに、

一、製鐵能力。昨年初には一ヶ月の平均能力五五、〇〇〇噸なりしが、漸次増加して六五、〇〇〇噸となり、更に本年に入りてより著しく増加し、毎月二〇〇、〇〇〇噸を産出するに至り候。而して來

年三月頃には、五〇〇、〇〇〇噸に達すべく豫期せられ候。〇〇〇噸を産出するに至り、尚一ヶ年二、製材能力。木造船及混合船用として、一ヶ年約四〇〇、〇〇〇、〇〇〇呎の木材 (Southern Yellow Pine timber) を要するの外、尙「ドック」等の製造材料として、一ヶ年一〇〇、〇〇〇、〇〇〇呎を要する趣なるが、從來製材能力は一日六〇〇、〇〇〇呎に過ぎざるを以て、所要數量の半にも達せざる狀況に有之候。然れども近來製材會社著しく活動し來り、從て製材量も漸時増加しつゝある趣に有之候。

右の外機關 Engines ボイラー Boilers 及タービン Turbines の製造に付ては、充分の確信あるが如くに候。次に造船力と牽聯して問題となるは、勞働者及海員の供給如何に有之候。勞働者の供給不足に付ては、前信にて御報告の次第に有之候處、目下政府に於ては熱心勞働者獲得に努力しつゝある所なるが、各造船所が全能力を發揮したる場合に要する勞働者は、四十萬人乃至五十萬人を要すと稱せらるゝも、現在は其の約半數二十萬人にも達せざる趣に有之候。船舶院は右に對し優秀なる技術者の米國內に多きのみならず、必要の場合には、他の工場より造船所に職工を拉し來るを得べしと公言致居候。

船員中高等船員に付ては新に一萬人を要する趣なるが、米國は現在約二十個の航海機關學校を有し、之より年々多數の卒業生を出し得るのみならず、普通船員の養成にも全力を盡し居り、尙不足の場合

には海軍水兵を採用し、又英國其他の國の海員をも採用するに至るべき旨被傳候。

**第九、米國に於ける輸入禁止 (大正六年十二月一日紐育發信)**

本件に關しては、曩に不取敢及電報置候處、右に關する大統領宣言別紙の通に有之候條、此段及御送付候也。迫而詳細事情に付ては、別信可及御報告候。

一九一七年十月六日大統領の承認を経たる法律案に左の如き規定あり。

「現歐洲戰亂中、米國大統領は公益の爲め必要ありと認むるときは、何時たりとも國內に或る種の貨物の輸入を禁止することを得べし。大統領又は議會より別段の達示なき限りは、大統領の命する制限又は除外例に従はざるべからず。但し或州の一定港に特典を附與し、他の港に特典を附與せざる如きことなかるべし」

茲を以て米國大統領たる「ウッドロー、ウイルソン」は布告を發し、一九一七年十一月二十八日以降左記貨物の左記の國より輸入するを得ざることを宣す。但し戰時貿易局の特許あるものは此の限りにあらず。

一九一七年十一月二十八日米國獨立百四十二年

デストリクト、オプ、コロンビヤに於て



ウッドロー、ウイルソン署名

大統領の命に依り

國務卿 ロバート、ランシング

貨物名

安質母尼

安質母尼鑛又は安質母尼鑛より抽出せる各種化學製品

アスベスト

各種豆類

バラタ

パトラッタプ(粗麻布)

蓖麻子

蓖麻子油

棉花

クローム

クローム鑛又はクローム鑛より抽出せる各種鐵合金又は化學製品

椰子油

「コバルト」

「コバルト」鑛又は「コバルト」鑛より抽出せる各種鐵合金又は化學製品

「コブ」

工業用「ダイヤモンド」

一切の鐵合金

亞麻

「ガタ、ジヨラトング」

「ガタ、バトチャ」

「ガタ、シアク」

大麻

獸皮

黄麻

「イリヂウム」

榛皮

滿 俺

滿俺鑛又は滿俺鑛より抽出せる各種の鐵合金又は化學製品

雲 母

水 鉛

水鉛鑛又は水鉛鑛より抽出せる各種鐵合金又は化學製品

「ナクソス、エメリー」及「ナクソス、エメリー」鑛

「ニツケケケル」

「ニツケケル」鑛

「マツト」又は「マツト」より抽出せる各種鐵合金又は化學製品

「ソウヂウ」

「ボツタシウム」

硝酸カルシウム

光學用硝子

棕 櫚 油

白 金

黒 鉛

黄 鐵 鑛

米

護 謨 (生のもの)「リクレーム」したるもの、屑又は片

灰 重 石

「シエラツク」

「サトイザ」

大 豆 油

「スビーゲルアイゼン」

砂

「タンニク」材料

錫(棒、條、又は粒のもの)

錫 鑛

「コンセントレート」錫又は「コンセントレート」錫より抽出せる各種化學製品

「チタニウム」

「チタニウム」鑛又は「チタニウム」鑛より抽出せる各種鐵合金又は化學製品  
煙草

タングステン

タングステン鑛又はタングステン鑛より抽出せる各種鐵合金又は化學製品

「ウアナヂウム」

「ウアナヂウム」鑛又は「ウアナヂウム」鑛より抽出せる各種鐵合金又は化學製品

小麦

小麦粉

ウオルフラマイト(重石鑛)

羊毛

國名

アビシニア

アフガニスタン

アルバニア

亞爾然丁

埃 甸 國

白耳義、同國殖民地、屬領地、並に保護國

ボリビア

ブラジル

ブルガリア

支那

智利

コロンビヤ

コスタリカ

玖馬

丁抹、同國殖民地、屬領地、並に保護國

リヒテンシュタイン

リベリア

ルクセンブルク

墨西哥

モナコ  
 モンテネグロ  
 モロッコ  
 ネパール  
 ノルウェー  
 オマーン  
 パナマ  
 パラグアイ  
 和蘭、同國殖民地、屬領地、並に保護國  
 ニカラガ  
 ベルシヤ  
 秘露  
 葡萄牙、同殖民地、屬領地、並に保護國  
 ルーマニア  
 露西亞

ナルバトドルの強要あり。之に對し大なる強難を掛るに主として制限せらる。

ナ(ン)モクノハハハ 曠野の地味を指すに對し輸出禁止の個體を認めざるを、輸入禁止の實  
 センネンビナアの禁止目的の主眼も、曠野の地味を指すに對し、大對等の成るべし。

暹羅輸入禁止羅目的、酒樽類の輸入禁止の目的は、大體同對の目的も、亦その類を異にせざるべし。  
 ○西班牙、同國殖民地、屬領地、並に保護國

○瑞の國合典

商瑞の國合典の西正のシ。此等商品中ニ山羊、乳草、而、麝香の鑛産工業の強要を以てせらる。  
 土五品耳、古十餅、五、向基督の諸合神(Churches or places)を輸入するに對し、輸入禁止の  
 合ウトルガコネトするに對し、

又「グエネツエラ」の酒の輸入に對し、御和實局(Alm. House Board)の首長は、  
 十一月二十八日米國海軍に宛てて「輸入禁止の宣言」を呈上し、其の辭句は、

**第十、米國に於ける輸入禁止 (再び) (大正六年十二月 二日紐育發信)**

米國輸入禁止に關する大統領の宣言に付ては、十二月一日付け及御送付置候處の輸入禁止の目的及  
 之に對する當局者の辯明は、大體左記の通に有之候條、此段及御報告候也。此に對して、米國の

迫而本邦よりの重要輸入品たる生糸、絹織物、茶等に付ては、禁止品目中に無之候へども、將來の豫想に付ては、當地事業者間に悲觀樂觀兩様の見解を懷くもの有之、或は出來得る限り此等貨物の輸送を取急ぐ者も有之模様候。

#### 米國輸入禁止事情

十一月二十八日米國政府は突如として輸入禁止を宣言し、世界に於ける五十六個國と、其の殖民地及保護領等とを列舉し、此等の國よりの輸入に付ては、戰時貿易局 War Trade Board の許可ある場合の外、絶対に禁止することとなれり。

禁止品目は七八十種に互り、尙是等の混合物 (Compounds or alloys) を入るときは、解釋上多數の商品を包含するに至るべし。此等商品中には羊毛、皮革、油、護謨等の製造工業に必要缺くべからざるものを包含せり。

#### ○輸入禁止の目的

米國輸入禁止の目的は、歐洲諸國の輸入禁止の目的と大體同様なれども、亦多少趣を異にせる點なきに非ず。今其の禁止目的の主眼とも被考點を列舉せば、大様左の如くなるべし。

(一) 船腹の増加 即ち船腹の増加を計るには輸出禁止を勵行するのみならず、輸入禁止をも實行するの必要あり。之に依り大なる船腹を得るに至るべく豫期せらる。

#### (二) 南米諸國に於ける敵商の打破

今回の輸入禁止の目的は、南米諸國に於ける敵商の打破も其の一なりと稱せらる。目下獨逸商人の南米に於ける勢力頗る大にして、米國との取引に付ても非常なる勢力を有する趣なるが、輸入禁止に依り痛捧を與へんとの計劃なるが如し。

#### (三) 必需品の輸入を増加せしむること

是れ船腹の増加と相待て當然のことなり。

#### (四) 聯合國交互の利益助長

聯合國は米國に必要な原料品の輸送を計り、米國は又聯合國に軍需品の供給を容易ならしめ得べし。是し船腹の増加に伴ふ結果なるが、尙米國が羊毛、皮革、麻等の必需品を禁止するに至りしは、後説「當局者の辯明」中にあるが如く、却て輸入の便宜統一を計るが爲なるかの如く考へらるゝ點なきに非ず。換言すれば、此等の商品の輸出取締を爲す他面、聯合國と米國との間の輸入手續を簡易ならしむる方法とも解せらる。

#### (五) 消費者の保護

食料品の輸入禁止は、許可の手心に依り、國民に對する配分の公平を計り、價格を調節し以て消費者を保護せんとするにあり。

○輸入禁止に對する米國當局者の辯明

戰時貿易局が輸入禁止に關し、辯明したる要點左の如し。

對敵取引禁止法 Trading With the Enemy Act に依り、大統領は輸入禁止を爲すの權限を有す。此の如き禁止は、既に聯合國の實行しつゝある所なり。之に依りて必要缺くべからざる商品の輸入を計らんとするにあり。此等の必要品は目下聯合國に依り取締られ、米國に對する供給も制限せらる固より聯合國の此の手段は、戰爭の爲非常なる需要の増加を爲せると、常時の生産状態阻害せられたるとに因り、必要缺くべからざる所なるべし。今回の輸入禁止品中には、聯合國に依り輸出禁止せられたる錫、羊毛、Ferromanganese、皮革、麻類等を包含せしめたり。

禁止令の制定に先ちて、政府は聯合各國政府に對し、米國の要する原料品にして輸出禁止せられたるものに對し、緩和の處置を採るべきや否や、特に交渉する所ありき。今回の輸入取締に依り、聯合國交互の利益を一層有効に保護し、且つ交互の結合を一層密接ならしめ得べし。聯合國は米國の此の處置を助長する爲に、米國に必要な商品の輸出を計るに至るべきを信す。

輸入取締は不必要品を除去するにあるを以て、輸入許可を與ふるに際しても、各工場に必要な需要額を取調べ、公平なる配分を計り、以て必要品に對する供給を保障せん。現在に於ては之等の原料品は、外國政府に對して再輸出し、又は投機賣買に供せざる保證を與へ、米國に輸入せらる

るものとす。而して此の保證は、米國に於ける外國領事又は其の他の外國政府の代表者に對し、米國尙當業者より與へられたり。然れども是れ米國當業者には常に不満足を與へたり。

對敵禁止法に依り、大統領に與へられたる權限に基きて發したる各種商品の輸入には許可を要すべしとの宣言は、從來各當業者に依り、關係外國當局に與へ來りし保證の制度を除去し、爾後米國個人又は商社は、直接此等の輸入に關し自國政府と交渉し得べし。

輸入取締に依り、戰爭に必要な商品の著しく増加するに至るべきは政府の信する所なり。聯合國と雖、必要な原料品の世界的供給を最も有利に配分するに付、米國と協力的動作を採らんことは其の望む所なるのみならず、其の配分は公平にして、之に依り共同の敵に對し、結合的効果の最高限を發揮せしむることに關し、米國政府の保證を切望せり。

食料品及原料品の輸入監督に依り、良く其の配分を適當ならしめ得るのみならず、必要の場合には公平なる價格を定め、以て消費者を保護し得べし。

戰時貿易局は食料品に對する輸入許可の手心に依り、又好く食料品取締の實を擧ぐるを得べし。戰時貿易局は國民の事業を促進容易ならしむるに付、全力を盡しつゝあり。各關係當業者は此の政府の處置を欣んで承認すべきは疑はざる所なると共に、此の政策に依るに非ずんば、戰時の經濟的地位及戰爭の有利なる行動を阻害せらるゝものなることを了解し、以て國家的見地より、全輸入品の

公平にして最も有効なる配分と利用とを全からしめんが爲に、戦時貿易局と協力せんことを希望す。尙、輸入許可の手續は、戦時貿易の輸入部 Bureau of Imports of the War Trade Board に出願するを要し、其の形式は請求あるときは附與する趣なり。

### 第十一、米國の輸出制限に關して (大正六年十二月二日紐育發)

本件に關し今般米國戦時貿易局は左記の通り發表致候條此段及御送付候也。

譯 文

一九一七年十二月一日以前には、左記の貨物にして鐵道又は船荷證券に於て「輸出」と記號しあるものは、一々許可證を要せずして之を輸出することを得べし。

測微器、彎脚規、レース、チャックス、アンチモニー、アンチモニー鑛、石綿、バラタ、雲母及雲母片、ストロンチウム鑛、チタニウム、イリヂニウム、阿片、曹達灰、木精アルコール、醋酸、結晶醋酸、醋酸鹽、各種の醋酸化合物、豆類、鶏卵、落花生糟、亞麻種、澱粉、罐詰豌豆、罐詰馬鈴薯、罐詰玉蜀黍、乾梅、乾杏、乾林檎、乾葡萄、乾桃、豆糟、クエベラチヨ及胡桃より抽出せるもの、護謨、海綿、ガタポラタンダ、ガタバーチャ、ガタシャーク、セラック、シーデアック、規那皮。戦時貿易局は其供給に制限あり、且つ戦争遂行に必要なが爲に保有を必要とする物品を追加發表

す。然りと雖、以下所掲の場合、即ち實戰に使用せらるゝ場合、直接戦争目的を助成する場合、米國に於て必要品製造上等等の物品の輸入を必要とする場合、是等の物品を輸出するも何等米國に悪影響を與へざるが如き特別の場合に於ては、輸出は許可せらるべし。保有品目表中に記載せられたる物品を輸出せんとする場合には、或は拒絶せらるゝことあるべきを以て、輸出者は先づ許可狀の下付を受くるを要す。若し此の手續を履行せず、許可を得ざる以前に於て物品を輸出するが如きことあらんか、輸出者は貨物到着港に於て、荷物を推積し置くの止むなきに至る危険を踏まざるべからず。

從來加奈陀及ニューファウンドランドへの輸出を簡易ならしめんが爲めに、税關に於ては特別の許可狀を發給し、貨物に對する一々の輸出許可狀を發給せずして輸出を許可したり。尤も戦時貿易局に於て、右物品の保有を必要なりと認むるときは、之が輸出を許可せざるべし。

追加發表の物品とは以下の如し。而して一九一七年十二月二日以降にありては、荷送狀に「輸出」と記入せられたるものと雖、一々之れが輸出許可狀を必要とす。十一月二日としたるは輸送中にある貨物を阻害せざるが爲めなり。

豆類、綿子、玉蜀黍糟、玉蜀黍粉、玉蜀黍飯、米粉、玉蜀黍スターチ、落花生糟、大豆糟、コブラ、コンデンスミルク、(粉牛乳、乾牛乳を包含す)、並に各種の貯藏牛乳、罐詰豌豆、罐詰トマト、罐詰玉蜀黍、罐詰魚類、乾梅、乾林檎、乾葡萄、乾杏、乾桃、糖蜜、糖水(舍利別)、葡

葡萄糖、澱粉、

第十二、 聯合國の船舶聯合 (三度び) (大正六年十二月三日紐育發信)

本件に關しては曩に十一月二十一日附、並十一月二十七日附を以て及御報告置候次第有之候處、右に關する米國一般の輿論は大體二個に分れ候。(一)は Shipping Pool の範圍を可成擴張し、中立國船舶のみならず聯合國船舶をも包擁せしむべしとの説にして、他は先づ中立國船舶のみを以て「プール」を組織すべしとの説に有之候。前説の主張する所は、聯合各國が既に自國の商船を全然支配監督しつつある今日、更に之を擴張して大合同の下に一團と爲りて活動の統一を計るは、策の得たるものなりと爲すに有之候。後説は米國一般造船業者、及船主の主張する所なるが、其の要點は「從來中立船は聯合國の監督の下に、Inter-Allied Chartering Committee に依り、利用せられ來りたる所にして實行も容易なり。現に英米兩國に於ける多數の中立船は直に之を以て「プール」を組織し得べし」と主張し、尙實際に於ては米國の船舶業者が、事實英國の支配の下に立つを好まずとの見解も有之如くに候。本件に付ては、目下聯合國間に交渉進行中の趣なるが、果して一致の協定を見るに至るや否や、若し協定を見るに至らば、如何なる範圍に於て實行せらるゝや否や問題に有之候も、最近佛國糧食大臣が、議院に於て發表したる意見は、注目の價值有之候。即ち大様左の如くに有之候。

聯合國の商船は、全部「プール」せられざるべからず。交渉は目下進行中なるが、吾人は聯合各國に對し經濟上並外交軍事の問題に關し、共同一致を希望するのみならず、犠牲と制限 Restriction に關しても、全然同等ならざるべからざるを主張す。既に資源 Resources の大部分を盡盡せる佛國が、更に此の上多くの制限に甘せざるべからざるの理あらんや云々。

第十三、 米國に於ける軍需品製造會社の勃興 (大正六年十二月四日紐育發信)

歐洲戰爭開始以來、米國資本家が軍需品製造に投資したる額は莫大にして、Journal of Commerce 紙の調査に依れば、一九一四年八月一日より本年九月末日迄の軍需品製造會社の新設資本は約二億二千萬弗にして、其内米國參戰以來の投資額は六千八百萬弗に達し候。即ち左表の如くに有之候。

一九一四年五ヶ月	一三、二五〇、〇〇〇
一九一五年	八三、二三五、〇〇〇
一九一六年	五〇、一九二、〇〇〇
一九一七年一月より九月迄	七五、八九八、〇〇〇
計	二二二、五七五、〇〇〇

右表に依り之を見れば、米國が軍需品製造會社に毎月平均五、八五七、〇〇〇弗を投資し、殊に米國



參戰後は、毎月の投資額平均八、四三三、〇〇〇弗に増加致居候。

軍需品に對する投資の最も重なるものは、飛行機製造に對するものにして、今年に入りてより毎月の軍需品製造會社新設投資額を示せば、左の如くに有之候。

一九一七年	飛行機製造	其他軍需品製造	合計
一月	六五〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	一,五五〇,〇〇〇
二月	四〇〇,〇〇〇	二〇五,〇〇〇	二,四五〇,〇〇〇
三月	二,八二五,〇〇〇	—	二,八二五,〇〇〇
四月	三,一九八,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三,二九八,〇〇〇
五月	七,二五〇,〇〇〇	—	七,二五〇,〇〇〇
六月	二,三五〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	五,三五〇,〇〇〇
七月	九,〇〇〇,〇〇〇	一,六七五,〇〇〇	一〇,六七五,〇〇〇
八月	五,二〇〇,〇〇〇	三二,二〇〇,〇〇〇	三六,四〇〇,〇〇〇
九月	二,〇〇〇,〇〇〇	四,一〇〇,〇〇〇	六,一〇〇,〇〇〇
計	三二,八七三,〇〇〇	四三,〇二五,〇〇〇	七五,八九八,〇〇〇

### 第十四、米國に於ける輸入禁止 (三度び) (大正六年十二月五日紐育發)

本件に關しては、曩に十二月二日付を以て及御報告置候處、今般更に輸入禁止の範圍を擴張し、一般贅澤品並不必要品も輸入禁止品中に入れらるべき旨、當地當業者に依り期待せられ居候。而して之が輸入禁止の目的は、英國の例に慣ひ、船腹の調節を計ると共に、國民をして戰時公債に應じ得るの能力保存に外ならずと被考居候。

實施の時期に付ては固より不明に有之候も、一般の見解に依れば、贅澤品及不必要品の範圍分類にして決定せられ、且之が實行機關の整頓せらるゝに至らば、直に實施せらるゝに至るべしとに一致し居るが如くに候。最も問題となり居るは生絲にして、生絲は疑もなく贅澤品として取扱はるゝが如きも、一方に於て本品は戰時に際し綿織物及毛織物の補充を爲せること多大なると、他方に於ては最近三ヶ年米國に於ける絹物工業の發達顯著なるものあり、旁輸送の點より見るも、他の商品の如く輸送力を要すること尠きを以て、果して如何に取扱はるべきかは問題に有之候。華府よりの情報なりとして傳ふる所に依れば、生絲は贅澤品として輸入禁止を爲すべしとの強固なる意見を持する當局者ある趣に有之候。本件の成行如何に付ては、憂慮に不堪處に候。

輸入禁止に依る船腹調節問題は、特に太平洋方面に於て重大視せられ居候。換言すれば日本商船に

依る船腹の増加に有之候。極東より輸入せらるる商品中、贅澤品及不必要品は不尠を以て、之が輸入禁止に依り、良く船腹増加の目的は被達のみならず、運賃の下落を誘起し、日本商船をして更に聯合國に有利なる貿易に利用せしめ得べく觀測せられ居候。本件に關しては既に御配慮中のこと、被存候へども、當地に於ける當業者の豫想等を具し、御參考迄茲に及御報告候也。

### 第十五、米國の來年度豫算 (大正六年十二月五日紐育發)

本月三日大藏省より議會に提出せられたる來年度豫算總額は百三十五億弗にして、軍事費其の大部分を占め、實に百十億弗の巨額に有之候。

船舶院の豫算は主として商船建造費なるが、約八億九千萬弗にして、本年度の商船建造費八億五千萬弗に比し、稍増加を示し居り候。

來年度の各省の豫算を示せば、左の如くに有之候。

法制局 Legislative	一九一九年(一九一八年七月一日ヨリ) 豫算(一九一九年六月卅日迄)	一九一八年經常費
Executive	一五、二二〇、六二八	一五、七五三、三七六
State Dept	一、二四一、九六〇	一一一、五二二、六九〇
	七、三四九、三三一	六、五六八、七〇六

大藏省	七三六、六二一、九七二	七、六三五、八二七、九三二
Independent office	九二〇、〇四〇、八九一	一、二〇三、四〇三、八七八
植民省	一八、四一一、一二四	一五、三一八、四三〇
軍事省 (War Dept)	一〇、一〇二、五九九、一四九	七、五二六、三三七、七一六
巴奈馬運河	二三、一七一、六二四	二三、五九三、二九九
海軍省	一、〇四七、九一四、〇二七	一、五九六、九三六、四五五
内務省	二二一、五三〇、一二二	二二七、五七四、四八四
遞信省	一、八二五、三四〇	一、九四二、二六〇
郵便費(收入により支拂ひ得)	三三三、八一八、三四五	三三三、八五七、一七〇
農務省 Postale Service	四九、一九三、五五一	五六、八八九、五四六
商務省	一七、七三四、〇六五	一三、六〇五、九三五
司法省	一一、四〇〇、二五四	一一、三四九、七二六
勞働省	七、二八五、五五一	五、四五二、八三六
補充費	—	一五、〇〇〇、〇〇〇
合計	一三、五〇四、三五七、九三九	一八、七八八、九六〇、四三七

右合計中より國債償還準備金請求額 Sinking fund requirement 及收入に依り償ひ得る郵便費を控除するときは

一九一九年度	一三、〇一八、七二五、五九四
一九一八年度	一八、三九六、三六一、二六七

尙商務省の豫算細目を見るに、戦時の好機會を利用して、米國の貿易を擴張する爲、豫算の増加を請求致居候。即中米及南米貿易擴張費十萬弗、極東貿易の擴張費二十萬弗を計上致居候。右御參考迄及御報告候也。

### 第十六、米國に於ける輸入禁止 (四度び)

(大正六年十二月二日) (十一日紙育發信)

本件に關しては、曩に屢及御報告候通、當地一般當業者は早晚贅澤品及不必要品の輸入制限あるべしと期待致居候處、今般米國生糸協會 Silk Association of America 會長 Charles Cheney 氏が、生糸の不必要又は贅澤品に非ずして、日常必需品なるのみならず之が輸入制限せらるゝ場合には、米國絹物工業を阻害し、日米兩國間の國交にも面白からざる結果を惹起するに至るべき旨を發表し、警告する所ありたるは頗る注目し致候間、御參考迄同氏の意見大要左に御送付致候也。

生糸は戦時に於ても絶対に必需品なり

Charles Cheney, President of Silk Association of America

米國に於ける絹工業は、近來非常の發達を爲せるが、絹製品は最早從來の如く贅澤品に非ず、生糸は數年前に於ては殆ど夢想だもせざる程に、今や國民一般の衣類の一部を占むるに至れり。從來生糸の價格は不絶低落しつゝあるなり。現に戦時の今日に於ても、他の織物に比すれば、比較的價格の上騰少きのみならず、其他あらゆる商品に比するも、價格低廉なりと云はざるべからず。

生糸は又羊毛及綿糸の代用を爲すと共に、生糸工業は軍需品の供給に付重要な地位を占む。即ち絹屑織物は、彈丸包装用として缺くべからざるのみならず、飛行機の製造にも使用せらる。此彈丸包装及飛行機用絹織物は、屑及 Spun silk より作らる。換言すれば一般絹工業の副産物たるなり。然れども若し生糸及其の製品が、如何なる方法を以てするも拘束を受くるに至らば、此等の軍需品は遂に生産し得ざるの結果となるべし。

歐洲諸國は戦時中と雖、生糸工業を阻害する所なかりき。佛、瑞西、伊等に於ては平時の五割乃至七割五分の割合に於て、該工業は今尙存續經營せらるゝなり。

生糸の昨年日本より米國に輸入せられたる額は一億三萬弗に達し、實に日本の重要輸出品たるなり。若し合衆國にして生糸の消費を短縮せんとせば、日米兩國の現在國交状態は面白からざる結果を

惹起するを確信す。

米國の絹工業は、他の諸國に比し一頭地を拔けり。戦前にありて米國は佛、獨、瑞西、伊の合計したるものよりも、尙多くの生糸を消費せり。其生産價額は二億五千四百萬弗を超過し、之に使用する職工十萬八百人にして、賃銀の支拂實に四千七百萬弗以上にも達せしなり。現今に於ては生産價額の著しく増加せしのみならず、賃銀の支拂も五割以上の増加を爲せり。

以上の概數は固より絹工業が米國に於て如何に發達し來りしかの一端を説明せしに過ぎずと雖、此の有利なる工業を阻害せんとする措置に對しては、宜しく辯明を試み、反省を促がし置かざるべからず

### 第十七、不必要品の製造制限に關する米國の政策

(大正六年十二月二十二日紐育發信)

不必要品の鐵道輸送制限に關する件に關しては、去月二十日附を以て及御報告候次第有之候處、米國が戰爭に對する斷乎たる決心は、益軍需品工業を擴張するの必要に迫られ、工業動員を行ひて、之が目的を達せんと議は、今や政府一部の有力なる論題として顯はれたるが如くに候。而して先づ之が實行方法として、不必要品 *Nonessentials* の製造工業に對し、鐵道輸送職工の供給、金錢の支拂、燃料の供給等を或は制限し、或は全然之を拒絶して、戰爭に關係なき工業をして、止むなく軍需品の製

造に轉せしめんとするに有之候。此の政策は獨り目下急迫の状態にある鐵道の輸送力を増加し得るのみならず、斯の如く各方面より不必要品工業を制限せんとするは、從來未だ曾て無之所にして、該工業の致命的打撃なると共に、米國政府の決心の如何に大なるかを被窺知候。

以上の工業政策は、目下 War Conference Board に於て、深甚の注意を以て討議せられつゝある趣に有之候處、之が實行の權限は George N. Peck を部長とする工業資料部 Industrial Resources Division of the Council of Nation Defense に有之、各種の工業中より不必要品工業に屬するものを指摘し得る次第に有之候。尤も此の工業資料部なるものは、最近 War Conference Board の評議の結果設立せられたるものにして、日尙淺きを以て、米國商業會議所の下に組織せられたる War Service Committees 之を補助し、各種の報告説明の根據を供給し、右資料部は之に基き決定を與ふるものなる趣に有之候。

要之、戰爭關係工業の迅速なる増大を計らざるべからざるは、米國に於ける刻下の急務なりと雖、現在に於ける軍需品の製造力を、更に擴大せんとするには輸送力労働原料等の點に於て大なる混惑と衝突とを來すに至るべきを以て、之を豫防せんとせば、勢ひ不必要品工業を制限して、之を軍需品工業に振り向くるより方法無之、斯の如くにして軍需品の増加を計り得べしとの見解なるが如く、從て工業資料部の主要目的も茲に有之、現時大なる困難に遭遇しつゝある労働、燃料、輸送力、金錢支拂等の難問題を解決せんとするに有之候。素より之が根本政策は上述の通 War Conference Board の評議會

に依り決定せらるゝ次第に有之候も、其の範圍如何に依りては、本邦よりの輸入品にも影響する所不尠乎とも被考候。

### 第十八、米國政府の鐵道統一政策(大正六年十二月三十日紐育發信)

一九一七年十二月二十六日ウィルソン大統領は、突如鐵道管理に關する宣言を布告し、十二月二十八日を以て米國の鐵道及之に附屬せる一切のものを、政府に於て占有管理すべき旨を發表せり。大統領の此の權限は、一九一六年八月二十九日の Act Making Appropriations for the Support of the Army for the Fiscal Year Ending June 30 1917 and for other Purposes 中の第一章に於て、戰時に於て必要なる手段なりと認めたるときは、米大統領は輸送に關する凡ての設備を、占有管理することを得るの規定に基きたるものなり。

右宣言と同時に、大統領は現大藏大臣にして Railroads' War Board の委員たる McAdoo 氏を、鐵道長官 Director General of Railroads に任命せり。

#### 一、目的

米國に於ける鐵道輸送力の不足缺乏は、米國參戰以來殊に甚しく、各種の戰時的施設、就中軍需品の製造は大なる支障を來し、之が爲め如何にして輸送力の増加を計るべきかは、米國經濟政策上の大問題として研究せられつゝありし所なり。

或は贅澤品不必要品の輸送制限を實行すべしとは、一般に期待せられたる所なりしが(十二月二十二日報告参照)、政府は今回突然鐵道の徵發を斷行し、之が問題を解決せんとせり。

米國に於ける鐵道會社は、其數甚だ多く且つ互に競争して輸送上の連絡を缺き、貨車配給の不統一なる爲、輸送能力の殺滅せらるゝこと尠少に非ず。従て之を統一し、一貫したる鐵道政策の下に輸送力の増加、迅速を計らんとは、鐵道管理令の主要なる目的なりとす。

尙之と同時に、政府は各鐵道會社競業に依り生じたる損害を除去し、且輸送力の増加に依り一般會社の得たる收益よりも更に多くの利益を擧げ得べく、國庫收入の増加を計るを得べし。

#### 二、管理機關

長官 McAdoo の下に、特殊の管理機關を設置せらるゝこととなるべしと雖、同氏は先づ鐵道會社に經驗ある人物の意見を参照し、殊に Railroads' War Board (五鐵道會社の委員より成立せる半官半民の委員會)とも協議すべきを聲明せり。尙諮問機關として、Fuel, Food Shipping board, army, navy 等の各省各局の代表者より組織せらるゝ一局を設立し、各方面より輸送力の問題を解決せんとす。

#### 三、労働者の意嚮

鐵道管理と關聯して問題となるは、労働者の意嚮にあり。蓋し現下に於ける鐵道労働者の數は二百

萬に達し、強硬なる團結の下に、從來鐵道會社と對抗し來りしを以て、労働者方面より見れば、政府の管理は非常なる危惧心を與ふるや必せり。從て最初労働者は、政府の管理に絶對反對の意嚮なりしも、十二月二十八日四個の鐵道労働組合の代表者が大統領と會見の結果、彼等の希望は容易に容れられ、賃銀上騰は之を實行すべきを約し、圓滿なる解決を見たり。然れども労働組合は其の唯一の武器なる "Closed shop" 主義の維持に付ては、今後不尠不安の念を有するが如し。

四、收入土より見たる鐵道管理

Interstate Commerce Commission の報告に依れば、政府管理後に於ける一ヶ年の収益は約九四七、二六七、四七二弗に達すべく、之を鐵道の投資額一七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗に割當つれば、平均五分五厘(5<sup>1</sup>/<sub>2</sub>パーセント)の配當となる趣なり。

右収益の根據に付ては、一九一七年前三ヶ年に於ける平均より打算したるものにして、即左の如し  
一九一五年六月三十日に終る一ヶ年の鐵道全收入 七二八、二二二、〇七九

一六年	同	一、〇四三、八三九、八二二
一七年	同	一、〇六九、七五〇、五一四
平均		九四七、二六七、四七二

五、鐵道財産の見積

線路の延長

二二二、二四五哩

其の價額(附屬物を込め)

一七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗

償還せられざる株式

約 七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗

社債額

九、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗

機關車數

六一、〇〇〇臺

貨車

二、二五〇、〇〇〇臺

客車

五二、〇〇〇臺

その他の使用車 Service car

九五、〇〇〇臺

尤も鐵道財産見積額に付ては、種々なる意見あり。Interstate Commerce Commission は、一九一七年の價額を一七、五二五、〇〇〇、〇〇〇弗とし、Bureau of Railway Economics は、一三、九五六、五一、七八三弗と換算せり。

六、從業者に對する支拂

鐵道に従事する労働者は二百萬人なるが、之に支拂ふ金額は一ヶ年約十五億弗にして、其の内四鐵道の Brotherhoods の數は三十萬人にして、一ヶ年の全收入四億五千萬弗なり。其の以外の鐵道從業者の收入は、合計十億五千萬弗なり。之を一人平均の所得より見れば、Brotherhoods は一ヶ年一千

五百五十弗、其の他の者は八百弗なりとす。

#### 七、將來に於ける鐵道政策

今回の鐵道管理は、其の目的上戰時に於ける應急手段にして、十二月二十九日「マツカード」長官は今後特別の規定發表せらるゝ迄は、從來の關係事務は其の儘繼續せらるべき旨を聲明せり。而して戰爭終熄後に於ける鐵道管理の運命が果して如何なる形式に於て現はるべきか、換言すれば、將來國有となるか將又從來の私立會社の手に還元せらるべきかは、興味ある問題なりとす。

有力なる官憲の談として、新聞紙に發表せらるゝ意見に依れば、將來鐵道は必ず國有と爲るべく、今回政府の措置は單に之が前提たるに過ぎざるを主張し、其の理由として

(一) 株主は原狀回復、即私有を願はざるべし。何となれば彼等は政府の擔保の下に、確實なる分配を受くるを得るを以てなり。

(二) 全米大陸鐵道の統一連絡を實行せられたる後に至り、更に新に競争制度の舊時代に復することは、殆ど不可能なり。

然れども想ふに、米國政府今回の措置たるや、戰時に於ける輸送増加の非常手段たるや論なしと雖最近米國が經濟政策として、帝國主義、保護主義を實行し來りし點より推して考ふるに、米國戰後

に於ける列國商工業戰の對應策として、今後鐵道を國有と爲し、統一したる組織の下に、鐵道政策を行はんとするに非ざるか、此の問題は船舶院の海運政策と相待ちて、我商工業に至大の影響を及ぼすに至るべし。

尙政府は一の官立 Corporation を作り(資本十億弗と見積らる)、市場に於ける株式を買戻し、全然民間の手より離脱せしむべしとの議ありといふ。今後の米國政府の行動に付ては、多大の注意を要すべし。

### 第十九、露國に於ける米人鐵道請負業の繼續

(大正七年一月六日紐育發信)

露國の現状に鑑み、同國鐵道の米人請負事業を繼續すべきや否やは、頗る問題とせられ居候處、最近米國の實業家にして「ルート」一行と共に露國に派遣せられたる露國通 Charles R. Crane は、政治上如何なる變更あるも、米人に依り請負はれたる同國鐵道の建設改善事業は、依然繼續せらるべしとの意見を有し、大統領に具申交渉する所ありたる趣に有之候。R. Crane は「目下西比利亞鐵道に全力を盡し居り、大なる進捗を爲しつゝあるのみならず、一般露國人は米人の鐵道事業を觀望し居る旨」説明致居候。此の際米國政府の態度は、頗る注目し値するもの有之べき乎と被存候。

### 第二十、北米合衆國に於ける南米羊毛の需要増加

(大正七年一月八日紐育發)

英國政府が濠洲羊毛の輸出制限を實行せし以來、米國の需要は南米羊毛に集中するに至れり。歐洲戰爭開始以前には、米國の羊毛輸入高は平均南米より二千五百萬封度、歐洲より三千萬封度、濠洲より一千三百萬封度なりしが、一九一四年以來南米羊毛の輸入俄に増加し、同年の輸入高三八、六九七四二八封度、一九一五年には更に増進し、一九一六年には殆ど四倍に及び、更に昨一九一七年には六倍するに至れり。即左表に示すが如し(Bureau of Foreign Domestic Commerce 發表)

南米羊毛 Clothing wool の北米合衆國輸入國別表

國 別	一九一五年	一九一六年	一九一七年
亞 然 爾 丁	六三、三七三、〇一七 <sup>封度</sup>	一一〇、〇八五、九九二 <sup>封度</sup>	一八七、〇七八、四四三 <sup>封度</sup>
ブ ラ ジ ル	一一五、一四七	八七、八六四	四、一七八
智 利	二、三六九、三五九	九六一、四八九	一一、四三四、二三〇
コ ロ ン ビ ア	四九二	—	三七〇
エ ク ア ド ル	—	—	四一四、六四三

ペ ル	八一九、三四七	二、四二六、二七九	二、二三三、五六二
ウ ル グ アイ	一四、六一二、七〇三	八、九四一、五〇六	三三、三〇四、四六二
總 計	八一、二九〇、〇六五	一三二、一五三、一三〇	二二五、四六八、八八八

從來米國に於ては「ウルグアイ」羊毛に付注意せられざりしが、最近に至り同國産羊毛は、著く米國市場に其の價値を認めらるゝに至れり。即戦前にありては、同國より合衆國に輸入せられし羊毛は、産額の十分一乃至四分一に過ぎざりしもの、一九一六年より一七年に於ては、全産額四分三を輸入せらるゝに至れり。其の品種を示せば左の如し。

「ウルグアイ」より北米合衆國に輸入せらるゝ羊毛品種表

品 種	一九一三年	一九一四年	一九一五年
Clothing Wool	二、六五七、六二〇 <sup>封度</sup>	七、九七二、一五九 <sup>封度</sup>	一四、六一二、七〇三 <sup>封度</sup>
Carpet Wool	一八一、〇四九	一、二二四、九九一	—
計	二、八三八、六六九	九、一九七、一五〇	一四、六一二、七〇三
Clothing Wool	—	一九一六年	一九一七年
Combing Wool	—	八、九四一、五〇六 <sup>封度</sup>	三三、三〇四、四六二 <sup>封度</sup>
	—	二、四五〇、九〇	二、九四一、〇





## 一、支 那

### 第一、河野商會旅順機業場の現況 (大正六年九月九日大連發信)

臨時産業調査局技師 吉 岡 直 富

旅順の機業工場としては殆んど見るべきものなく、僅かに河野商會旅順機業場が力織機十六臺を有して稍工場の面目を具ふる外、警察官家族の内職場たる傳習所の織機七臺を有するものと、足踏機四五臺を以て襪帶子を製織せるもの二三あるとに過ぎず。

河野工場は關東都督府の補助を受け、昨年八月より創業し目下休業中なるも、工場を一覽し、且つ經營上の雜談を聞き得たるを以て其の概要を述べんとす。

○工場 關東都督府より一昨年及昨年の兩年に於て二千八百圓の機械補助を受け、尙ほ家屋の無償貸與を得て、大阪の原口式力織機十六臺(内小巾十臺、廣巾六臺)を以てタオルを製織すべく、昨年十月中旬より事業を開始し、稍好結果を見、殊に銀相場の暴騰は支那人の購買力を増進したるも、本年春以來の綿絲暴騰によりて結局不引合となり、且つ内地に於ける綿絲暴騰の爲め、當地より更に逆輸出するが如き變調を來し、原料を得る事困難となりし爲め、八月上旬迄事業を繼續したるも、終に

經營難となり、目下大尺巾を製造すべく織機の改造を爲す爲休業中にあり。

○製造高 製品は全部注文により大連、旅順、及南滿鐵道沿線各地の綿布商より受けたるが、今日滿洲に輸入せらるゝタオルは一ヶ年三十萬打以上に上れると、近時蒙古等にも新に其の需要増加せるとにより、當工場に於ては一ヶ月約五千打の生産能力あるも殆ど注文に應じ切れざるの狀況なれば、販路に付ては毫も苦痛を感せずと云ふ。

○水質 當工場に於ける精練漂白法は、普通の綿絲布精練漂白の方法によれるが、用水は工場敷地内に於ける井水(深二十尺及三十尺)を用ひ、水量豊富にして何等支障なく、製品も亦完全に漂白せられたるを見たり。

○職工 日本人女九人、支那人男三十四名(支那婦人は纏足せる爲め立ちて働く動力機に適せず、腰を掛くべき足踏機には差支なしと云ふ。)を使用せるが、其能率の大體を聞くに、何れも最初は全く機械の素養なきものゝみを收容せる爲めか、訓練に多大の努力を要し、一人前としては約四ヶ月を要したる由なるが、今日に於ては最初雇入たるものは、先づ準備工程其他簡單なる工程に従事せしめ、漸次職工を養成せるに、支那人は約二ヶ月、日本人は約一ヶ月にて一人前となるを得たりと云ふ。所謂一人前とは一日十一時間労働十打位を云ふ。優等職工は一日十六打半位の織高を有す。而して日支人間に於て製品の優劣を認めず。

○賃金 一打織賃銀日本人は三錢五厘、支那人は二錢五厘、準備、糊付、漂白、仕上の職工は月給とし、大人一ヶ月七八圓小人四五圓を支拂ふ。日本人の賃金高きことは最初支那人も知らざりしも、終に之を知り、賃銀引上を要求したることありしも、日本人は生活費嵩むことを論じて、之を納得せしめたりと云ふ。

支那人は日本人の如く小才きかざるも、一度教へたることは必づ遵守し、日々同一仕事を怠らざるも、個人主義故他人の機臺のものなど如何なるも少しも顧慮せず、機械の取扱振は最初教へたる通り行ひ敢て粗漏なりと認めず。同盟罷工の如きも一度賄悪し、とて之をなしたることありしも、其際は一時全部を解雇せるに、直に就業を申出でたりと云ふ。要するに支那人の統御は最初の訓練が大事にして、誠意を以て遇するに於ては、柔順に能く仕事に従事せしめ得べし。

賃銀仕拂方法の内、月給制度は多少缺勤する傾あるも、獎勵法を設くるに於ては左程の不利なしと云ふ。

休日は月二回、第一及第三日曜とし。正月には四日位休む。旅順の正月は大體日本の新曆によれり。目下支那職工は全部寄宿制度を採用せるに、大體に於て優良なり。衛生等に於ても或點迄は漸次日本人に接近せしめ得べく、後進の雇傭者も須臾にして同化し、目下三十人以上を收容せるも成績良好なり。

○職工募集 困難ならず。創業の際二三の支那人に話し置きたるに、彼等は居村の茶館等にて其旨を通じたる爲め二三日にして忽ち數十人の申込を得たる由なり。而して是等労働者の多くは百姓或は苦力なるも、既に工場に就役せるものにして郷里に歸り、其の親戚知己を伴ひ來る等の事ありて、殆ど職工募集には困難を感せず。されど是れ今日旅順に於て工業少き爲めにして、今後多數の大工場の設立を見るが如き曉にも、此の如くなるべきや否やは直ちに判断し能はずと雖、露國が滿洲を經營せる時代に於て、數萬の苦力は旅順に於て日々労働に従事し、今日は四散して残るもの少きも、一朝有事に際しては之を集め得べきを以て、近時本邦に於ける如く紡績會社が十數金を投するも、職工を得能はざるが如きことは今後に於て之れなかるべし。

○氣候 最初寒氣に對し機械の破損を憂ひたるも殆ど杞憂なりしと云ふ。労働能率は冬季に於ける滿洲は零下二三十度に下ること珍らしからず、工場内の如きベチカを置くも僅かに屋外との通温なきに止まり、零度内外の溫度にして時々室内へ濕氣を與ふる爲め水を散布すれば直ちに氷結するが如き狀況なるも、彼等の労働能率は殆ど減せずと云ふ。故に工場内に於ては生産上適度の濕氣を保つべき設備に就きては考慮を要すべきも、労働者の身邊に關しては注意の必要なし。是れ彼等の習慣上耐寒力大なるを以てなり。

### 第二、滿洲に於ける輸入綿布概況

(九月二十三日發信)

滿洲に輸入せらるゝ綿布は粗布、綾木綿、細綾木綿、金巾大尺布天竺、色金巾、綿縞子、綿製ボブリン、綿ネル、天鷲絨、タオル等、其製品に精粗の差こそあれ、殆んど輸入を見ざる綿織物なし。就中其數額多きは粗布、綾木綿、細木綿、金巾、日本大尺巾及支那大尺巾の數種なり。而して此等製品の主なる輸入國は、十數年前に於て總額の九割迄は米國にして、英國之れに次ぎ、本邦品の如きは寥々數ふるに足らざる狀況にありしが、日露戰役後我商工業の覺醒は、本邦產業上の進歩を促進し、就中織布業の急劇なる發達は本邦内地に於て生産過剩となり、滿洲に販路を擴張すべく盛んに輸出を試みたる結果、米國品の輸入減と反對に破竹の勢を以て優勝なる「地歩を滿蒙各地に扶殖し來り、殊に歐洲戰亂後英米の供給」頓に減少し、現今に於ては殆ど日本品の獨占と云ふも可なり。而して日本よりの輸入品にして最近著しき變遷は、從來英米等より輸入したる金巾、細綾木綿の如き細物の製品及更紗縞子類の輸入著しく増加せることなり。

滿洲の貿易通路は愛理、滿洲里、哈爾濱、三姓、綏芳河琿春、龍井村、安東、大東溝、大連及營口にあるも、綿布の輸入は安東、大連及營口の三港以外の通路よりするものは極めて少く、更紗及天鷲絨其他一、二を除き大部分は安東、大連營口の三海港を通過するが故に、此等三港の輸入狀況を基礎

とし、以下品種に従ひ其輸入及需要の狀況を概述せんとす。

#### 一 粗 布

本品は輸入綿布中其數額最も多きものに屬し、日露戰役迄は米國の獨占到係り、總輸入額の九割五六分乃至九割八九分を占めたるが、其後本邦當業者の奮闘により漸次米、英品を驅逐し、今日に於ては彼我位置を顛倒して日本第一位となり、總額の八割以上を占むるに至れり。即ち左の如し。

	大正五年	大正四年	大正三年
米	一五二、二二四 <sup>元</sup>	一一五、九四一 <sup>元</sup>	一八六、三三七 <sup>元</sup>
英	一六、〇八二	二〇、〇四八	三九、九八一
日	七五二、五二六	九六六、三六四	三、一六九、二五一
支	一八五、四一六	二一七、五四三	七六、六二二

現時本邦品中最も賣行多きは十三封度乃至十四封度物にして、就中十三封度もの、中龍C格のもの其の大部分を占め、九龍之に次ぎ、十四封度十二封度順次之に次ぐ。米國品中三英哥、洋古桶等八封度ものは勿論十二封度以下の輕目物は需要著しく減少せり。之れ近時十封度内外品は土産綿布の發達により、輸入の減退を見たるに因る。尙最近十五、六封度の重目物の輸入激増の傾向あり。支那製品は十五、六封度の重目物多く三元寶、九六字等は吉林及間島方面に仕向けられ、十三封度單牛頭は各

地に販路を有す。之を要するに本品は南北滿洲に亘り其需要多きも、之れが蠶食を受け、將來輸入額に大なる増加を望み得ざるもの、如し。

二 綾 木 綿

綾木綿は粗布に次ぎ需要大なる綿布にして、最初米國より輸入し四十二年頃迄は輸入總額の半以上を占め、日本品之に次ぎて輸入せられ、和蘭よりも少額の輸入を見たりしが、其の後日本品は漸次米品を壓倒し、大正三年に至りては輸入總額の四分の三を占め、今日に於ては米品は漸く一割を占むるに過ぎず。即左の如し。

米	大正五年	大正四年	大正三年
英	四八、八一八 <small>元</small>	三〇、三〇五 <small>元</small>	五八、四九三 <small>元</small>
日	一、〇六七	一、三七九	三、二七六
支	三二七、四〇七	三九九、六〇一	四三四、〇〇四
	六三、一八六	九〇、一三〇	八、七八二

如斯本邦品は愈堅實なる發達を遂げ、既に其八割を占むるに至り、英米品の將來は推して知るべきものあるも、一方支那製品の發達著しきものありて、支那品中十三封度乃至十五封度の人塔、双虎、團三兔は北滿洲に於て本邦品と競争しつゝあり。本邦品中最も多額を占むるは鷺鳥(十三封度)龍綾(十四封

度)にして需要相半ばす。而して本品は土民生活程度逐次向上せし爲め、細綾木綿に其販路を奪はる傾向を生じ、純輸入高に於て逐年減退を示しつゝあり。

三 細 綾 木 綿

本品は需要者の生活程度向上と共に、漸次其輸入額を増加しつゝあり。從來の輸入は英國品を主とし、米品之に次ぎ、尙和蘭より少量を輸入したるが、本邦品が其姿を市場に表はしたる以來、和蘭製品先づ姿を市場より没し、次ぎて米品減じ、今や全く英國品と本邦品の競争状態にあり。左の如し。

英	大正五年	大正四年	大正三年
米	一二九、四二四 <small>元</small>	二九〇、一九八 <small>元</small>	三三三、二二〇 <small>元</small>
日	三五〇、九三二	二四三、一六〇	一四五、四五九

されど一昨年以來英國品の減退は、戦亂による供給不足に基くものにして、之を以て本邦品と競争の結果と見るべからず。僅かに代用品として販路を開拓し得たるものなり。只本邦品中三鹿頭、太鹿甲、寶順鼠は既に其根底固く信用を博しつゝあり。其の他塔象、菊月、三象、人面、蝶、双童兒、藍魚鳴等本邦品は全く混戦の状態にありて、上等品は英國品と共に都會の嗜好に適すと雖も、一般の民度は未だ重目のものに需要多しと云ふ。

四 金 巾

一三〇

本品は未だ英國品に比し遠く及ばず。昨年には輸入額は本邦品の激増を示せども、之素より戦亂の結果のみ。生金布の輸入國別左の如し。

	大正五年	大正四年	大正三年
米	九二六五 <small>元</small>	四九七四五 <small>元</small>	六〇〇九三 <small>元</small>
英	五三、七五〇	七七、一三一	七三、七一三
日	一三四、七三九	二五、六八四	六八、六三九

而して生金巾中需要最も多きは、十二封度ものにして九割を占め、十三封度もの及其の他は約一割を占むるに過ぎず。本邦品中軍人は各地を通じて需要多く、其の他二軍人、旗軍人、栗鼠、獅子地球等種類多きも、英國品人槍及人刀に若かざること頗る遠しと云ふ。

本邦生金巾は一部英國品に比して殆んど遜色なきものあるも、晒金巾に至りては尙多少の見劣りを認む。本邦品中稍市場に其の名を爲すもの郭子儀、双魚あるのみ。英國品は團龍殆んど七割を供給し、其の他團鳳、團鹿、之に次ぐ。近時英國晒金巾の供給不足せるに對し、本邦晒金巾の補充足らず、價格暴騰せる結果之が代用として生金巾の需要多しと云ふ。尙本品は戦争の繼續する限り、英國品の輸入益減退すべきにより、木邦の勢力強大を加ふべく思はる。晒金巾の輸入額左の如し。

五 大 尺 巾

	大正五年	大正四年	大正三年
	二〇五、八五六 <small>元</small>	一九九、九九一 <small>元</small>	二八五、八一五 <small>元</small>

大尺巾とは支那固有の手織太地木綿にして平織なり。本品はもと上海土布を本邦に於て模造し輸入したるものなるが、價額低廉なりし爲め、支那品は逐年其輸入を減退したるも尙未だ本邦品の大敵たるを失はず。南滿一帶に於ては本邦品八に對する二の割合に過ぎざるも、長春及其以北に於ては其勢力相反し、支那布八に對する本邦品二の割合を示すに過ぎず。輸入額左の如し。

	大正五年	大正四年	大正三年
日	五五、九五三、五〇一 <small>元</small>	六七、〇二四、七七五 <small>元</small>	七七、六二二、三四八 <small>元</small>
支	二〇、六〇一 <small>元</small>	二五、〇一九 <small>元</small>	二二、六三三 <small>元</small>

本品は一般支那人の衣服、蒲團其の他需要頗る廣汎にして、一年を通じ賣行數量大なる變化なしと云ふ。

前述の如く本邦品はもと上海土布を模造せしものなれども、製品の優良なると價格の割安なるとにより、漸次需要擴大し品質亦上海土布の本質を離れて日本獨特の品質を有するに至り、現今に於ては全く別種の賣品たるの觀あり。然も尙北滿洲にては支那土布の賣行多きを以て本邦に於ては特に北滿洲

向として上海土布を模造せんとする傾向あると、一方上海方面の支那當業者にありては、日本大尺巾の南滿洲に於て賣行多大なるを以て、南滿洲向として更に日本大尺巾を模造せんとし、あるの一奇觀を呈するに至れり。

### 六 更 紗

本品は從來多く露西亞より輸入せられ、其染色模様華麗ならざるも染色堅牢なりしを以て、一般に歡迎せられ其輸入額三十萬反に達せるも、戰亂以來供給不足し急激に其の數を減せり。本邦品よりの輸入は大正四年以後のことなるも、露西亞よりの供給なき爲め、最近に於ては本邦品の獨占となれり。輸入額左の如し。

大正五年	大正四年	大正三年
七八、六三七 <sub>反</sub>	七六、一七 <sub>反</sub>	二八、二三四 <sub>反</sub>

### 七 繻 子 類

本品は從來殆んど全部英國製にして、佛伊等より僅かに輸入ありしも言ふに足らず。實に英國の獨占たりしも戰争以來供給充分ならざりし爲、漸く近時本邦品を市場に見るに至りたるも、其品位到底英品に及ばず。需要多きは黒色にして輸入の大部分を占む。幅は二十八吋乃至二十九吋、長さ三十碼なり。輸入額左の如し。

大正五年	大正四年	大正三年
一六、二四六 <sub>反</sub>	一八、三〇〇 <sub>反</sub>	一七、四二〇 <sub>反</sub>

### 八 ポ ブ リ ン

本品の滿洲への輸入は近年のことにして、其額多からざりしも、漸次増加の傾向にありしものなり而して輸入の大部分は英國なりしが、近時本邦品の輸入せらるゝもの漸次増加し、品質に於て到底英品に及ばずと雖も、本邦品割合に好評なり。本品の幅は二十八、九吋長さ三十碼にして、黒染のもの最も多し。輸入額左の如し。

大正五年	大正四年	大正三年
三四、三七五 <sub>反</sub>	三四、七三〇 <sub>反</sub>	一八、一四八 <sub>反</sub>

### 九 ネ

本品又多く英國の輸入に係りしも、近時本邦よりも盛に輸入し、殆んど現今に於ては本邦品の獨占となれり。本品は冬季防寒の爲め使用せられ、需要多きは綾片毛の無地物にして、毛足の長きもの程よし。捺染物は割合少く全體の二割位なり。幅は二十九吋、三十吋、三十二吋、三十六吋等あるも、三十二吋最も賣行き多し。長さは三十碼なり。輸入額左の如し。

大正五年  
九六二五四<sup>反</sup>

大正四年  
九四一七三<sup>反</sup>

大正三年  
六二六五六<sup>反</sup>

### 第三、奉天の織物業（九月十三日） （奉天發信）

生産組織 當地方に於ける機業は、彼の日支交渉以來日貨排斥、國產獎勵の名目の下に、一部に愛國布なる名稱を附し（勿論綿絲は重に日本より輸入したるものを使用し、只之を製織する丈にて、極めて意味不徹底なる日貨排斥、國產獎勵なり）盛に製織を初めたるより、一時に機臺數を増加し、今日に至りたるものにして、多く農家の副業として自家用に供するか、又は一部を販賣するもの其の大部分を占め、專業を營むものは僅少に過ぎず。而して此等副業的のものをも合計せば、奉天附近に於て約三千臺を有すべしと云ふ。然れども織機約百臺以上を有するものは三月、十數臺乃至二十臺を有する機業家らしきもの六、七戸、七、八臺乃至十臺位を有するもの約三十戸に過ぎずして、此等約四十戸（運轉臺數約八百臺）は機業家として衣食し、爾餘のものに至りては農閑を利用して製織する位のものにて言ふに足らず。就中最も大なるは天増利にして三工場を有し、其織機二百十臺職工五百人なり。次で同興泰、義元盛各約百臺の織機を有すと云ふ。之れ等は何れも愛國布を製織し居れり。

生産額 到底正確なる數字を得難きも、奉天附近に於て消費せらるゝ綿糸は一ヶ年五六千俵位なる

を以て、一俵約八十疋を製織すとせば四五萬疋となり、又機臺一臺を以て一日一疋を織るとし、千臺の織機一ヶ年を通じて運轉すとせば三十六萬五千疋となるを以て、先づ一ヶ年の産額四十萬疋内外と概算せば大差なからんか。

織上高 普通職工一日の織上高は、粗布一疋（百尺）、大尺巾二疋乃至三疋（一疋は二十碼）、愛國布中平織六丈、紋織五丈を織ると云ふ。

職工 殆ど全部男子にして、準備工程の一部に稀に女子を用することあるも、其數極めて少なし、寧ろ全くなしと云ふて可なり。職工の雇入は稀に素養あるものを雇入るゝことあるも、普通は徒弟として三年間の年期にて雇入れ、最初は糸繰より製織に至る迄を修得せしむ。而して徒弟の間は一ヶ年十圓或は一ヶ月一圓乃至一圓五十錢を支給す。斯くて一人前となれば其の技倆及織物の種類により、一日二三十錢乃至七、八十錢を給するも、平均三十五錢内外にして、食費は總て雇主の負擔なり。而して労働時間は現在は朝四時より午後七時頃迄なるが、要するに日中のみ労働に従事す。休日は舊正月に於て約半ヶ月、五月八月等の約分に四日間休むもの多し。大規模のものに於ては毎月一日、十五日兩日に休業す。

職工數は何れの工場に於ても機臺數に比し多き感あるが、準備工程より製織に至る迄を通じ、機臺一臺に付平均三人を使用せり。



一織賃 平織愛國布一反三十錢、紋織愛國布四十錢、粗布一疋四十錢、大尺巾は十錢なり。

織機 大部分バツタンの手織機に由るも、前記天増利工場に於ては四、五臺の足踏織機を使用せり又紋織には二百口のジャカードを使用するものもあるも其數多からず。簡單なるものは六枚又は八枚の綜統の轆轤仕掛の足踏に依れり。

原糸買入並製品の販賣 原糸の買入は、稍規模大なるものは自己の計算に於て市中の綿糸商より仕入れ、製品は市中の間屋に賣約するも、小規模のものにありては原糸と製品とを交換しつつあり。

原糸の種類及製品 使用原糸は平織、愛國布は經緯共二十手を用ゐ、又經四十二手緯二十手或は四十二手を經緯とし、或は六十手を緯とし、四十二手を緯とするものあり。又四十二手に代ふるに三十二手を用ふるものあり。要するに愛國布とは粗布及大尺巾を除きたる以外の綿織物の總稱にして、主に燃糸を用ふるもの多し。

粗布は經緯十六手を用ゐ八封度乃至十封度のものなり。大尺巾は經十六手緯十手位のもの多し。

保護獎勵機關 一も見るべきものなく、僅かに貧民子弟の爲めに奉天省立女工傳習所、貧民習藝所あり。外交部奉天交渉署を通じ前者を一覽せるに、同所は六年前の設立に係り育蠶、紡織、縫紐、編物、造花、刺繡の六科よりなり、女子十五歳乃至四十歳のものを入所せしめ、一ヶ年間を以て修業期とし官費を以て支辨するも、修業後半ヶ年間は同所に於て就業するの義務を負はしむ。而して此等生徒及卒業生の製品は別に販賣店を設け廣く販賣しつゝあるが、一ヶ月の賣上高は八九十圓多き時は四五百

圓に上ると云ふ。其收容人員は百名限りなるが、現在迄に既に卒業生七百名(同所長の言ふ所)に達すと云ふ。經費は一ヶ年一萬元なるが、大部分は教師の俸給ならん。

#### 第四、營口の機業

(九月十九日)  
(營口發信)

南滿に於ける唯一の吞吐港たりし營口は、今や安東經由貨物の減税、大連經由貨物の減賃問題等時勢の變化に基く打撃の爲め、昔日の盛況を見る能はざるも、輸出入貿易港として古き歴史を有する丈け從來よりの奥地との取引豫想外に根柢あり。滿洲に於ける土地綿布の製織地として亦一頭地を拔けりされど織物の製産を見るに至りたるは最近五六年來のことにして、稍織物工業の形態を備ふるに至りたるは、彼の日支交渉の難局に際し、日貨排斥に伴ふ國貨提唱、國産獎勵、排外愛國の念一時其極に達し、其後一種の流行傾向を生ずるに至り、此時に際し猫も杓子も國産を呼びたるの時、織布業者は巧に好機を利用し愛國熱狂の思潮に乗じ、茲に僥倖なる發達を遂げたるものなり。されど未だ以て家内工業の域を脱せずして、織機十臺以上を有する工場組織のものは僅かに二十數戸を數ふるに過ぎず。織機も亦手織機を主とし、近時稍足踏織機に依るもの増加せるも未だ力織機に依るものなし。製品は粗布最も多く綿木綿、大尺巾、腿帶子等なり。而して、一二臺を有し全く副業的に製織するものの機臺數は知るに由なきも、前記工場的組織によるものの運轉臺數は約八百にして、之を製品別に分てば

縞物四百六十臺、粗布百四十臺、腿帶子二百臺位なりと云ふ。

製産高は正確を知るを得ざるも、縞物は五十二裁尺内外、即二十碼を以て一反とし、一臺一日一反を織り上ぐべく、粗布は百四裁尺即約四十碼を以て一反として之れ亦一臺一日一反を織り得べく、腿帶子は種類により製額一定せざるも平均一日一打半を製織し得と云ふ。以て上記臺數により總額の一斑を推算し得んか。

職工は十五六歳乃至二十歳前後の男子にして、普通一ヶ月の給料は小洋三圓乃至六圓にして、粗布又は縞物一ヶ月二十五反の織上に對しては單に給料に止まるも、三十五反の織上に對しては別に小洋三圓、四十五反に對しては小洋六圓の加俸をなすと云ふ。而して住居食費は工場主持とす。此外準備工程中の糸繰管巻は徒弟にして、食物を給する外一ヶ月手當として約十圓を支給す。

取引は相當の規模を有するものにおいて自己の計算に於て原絲を仕入れ、製品は市中の間屋に賣約するも、小資本の者は製品と原絲と交換するものあり。尙原絲は自己の計算に於て仕入るゝも、製品は一定の店舗に託して委託販賣をなすものなり。

以上の外前記奉天等と略ぼ異なる所なきを以て之を省略するも、彼等の製品を一瞥するに、一般に其の品位未だ優良なりと云ふべからず、極めて粗笨にして、縞物にありては柄合の如き或は以て彼等の趣向に投じつゝ、あらんも極めて單調なり。されど足踏織機に依るものゝ如き稍製品の一定せるを見るの

みならず、粗笨なる丈け製造の間に多くの誤魔化しなく極めて眞面目に製造せられ、實用的なると、從來の取引關係とを以て、奥地何れの市場に於ても非常の勢を以て發展し、今や蔑視し難き勢力ありて我が販路の幾分を蠶食しつゝあり。製産額又漸次増加の傾向にあり。

賃銀も亦低廉（賃銀は前述の如くなれど、相場下落し賣行悪しき時にありては賃銀を與へず、單に食費のみを以て勞働せしめ得と云ふ。）にして、生産費の如き殆ど云ふに足らざる少額に過ぎざるを以て或は此後此等太物の製品に就ては、本邦品は到底競争し能はざるに至るべきなきや。曾て本邦品が英米品を驅逐して之に代りたると同様の運命に陥ることなきや否や。斷じ得べからずと雖寒心すべきものあり。

### 織物以外の綿絲業

織物の外綿製品中盛なるは靴下の製造なり。本品は大正三年二月頃より起りたるものにして、現今營口市内に於て約三百臺の靴下製造機あり。一日一臺の製造力は平均二打乃至三打に上り、原絲は三十二番二子、四十二番二子及六十番瓦斯絲を用ふ、價格は三十二手を用ゐたるもの卸一打三圓小賣一足三十錢、六十番を用ゐたるもの一打四圓、小賣一足四十錢位なりと云ふ。余の視察せる全盛號工廠に於ては約四十臺の製造機を設備し、一日百二三十打を製造す。同工場に於て使用せる機械は全部日本製（東京高尾製、同川長製、大阪西尾製）にして一臺六十五圓なり。

レース絲 是亦三年前本邦より職工を招聘し、業務を開始せるものにして、現今に於ては公茂行の一ヶ所（外に日本人經營の興信洋行に於ては縫絲を製造す）なるが、一日約二千打を造り上ぐと云ふされど此等原料撚絲は總て本邦より輸入し、之を精練漂白の上マーセライズし、或は染色の上一定の長さにて巻きて箱包となすに過ぎず。價格は一打八十五錢にして、用途は靴及衣服の刺繡、編物等に用ふ。近來小學校に於て此等の刺繡を教ふるに至り婦女子が家庭に於て刺繡を手弄びとなすもの少からず。需要割合に廣汎なりと云ふ。色合は白、黒、赤、黄、青、綠等各種あれど、白及黒色最需要多し。

## 第五、青 島 概 觀

（十月八日）  
（發 信）

青島はもと膠州灣口の一漁村に過ぎざりしもの、獨逸が之れを租借し東洋艦隊の根據地となし、軍事的設備をなすと共に市街の建設に、或は築港に、或は鐵道の敷設に、或は鑛山の採掘に、其他宗教々育等の如き精神的事業にも亦力を注ぎ、東亞に於ける獨逸勢力の策源地たらしめんとして拮据十有六年、巨財を抛ちて經營せるだけありて、其殷盛已に芝罘を凌駕せるものあり。今や戦争の結果擧げて我有に歸す。靜かに獨逸經營の跡を指顧し、我國威の伸張を思ふ時、轉た言外の心強さを感せずんばあらず。只青島に於て獨逸が經營せる工業としては麥酒、煉瓦、製材、石鹼及卵粉の製造所等ありたるも、未だ工業として見るべきもの少なく、將來彼等が如何なる程度の工業迄を經營する意志ありし

か遠き將來は知らず。當時に於ける四圍の狀況より見て、爾かく急速に各種工業を企圖せんよりは、寧ろ獨逸本國の爲めに原料供給の地とし、又製品販賣の咽喉たらしめんと企劃せしもの、如し。勿論保護領内に於ける工業的企劃に對する諸種の利益を保護すべき關稅協約、或は制度を設け（其の重なるものは保護領内に設立せられたる工場は、該工場内に於て使用する加工原料品に對して賦課せられたる關稅額だけを控除して納稅するを得ること、農工業的企業の經營に必要な器具機械其の他工場の附屬物等は凡て之を免稅すること、工業的經營に必要な施設は全く無稅となすこと等之れなり。）諸種の利便を與へたるに拘らず、保護領内に於ける工業上の發展は著しき進歩を見ず、或は寧ろ企畫する迄に至らざりしかと思はる。只麥酒は獨逸人の日常品として多數人の集まれる處必ず之れ無かるべからず。彼等の常用の爲め早くより造られ、而して剩餘は上海漢口に輸出し、本邦品と盛に競争しありしことは、之れ亦周知のことにて、此邊全く獨逸式とも云ふべき也。而して棉及麻の壓搾機械を、青島又は濟南に据付け、之れによりて山東省附近に産する棉花及麻を、成るべく輕便なる方法により青島を経て輸出せしめんとする計畫、養鶏及人工孵化を奨勵し鶏卵を乾粉として輸出する事業、其の他農産品の輸出に便せる、要するに原料品の輸出製品の輸入たる貿易に全力を盡し、工業には餘り力を入れず或はこれからと云ふ處なりしかと思はる。

然るに本邦が占領後秩序漸次回復すると共に、本邦有力なる當業者の當地を視察調査するもの漸く

多く、内外綿株式會社が昨年三月紡績工場の設立工事に着手し、茲に初めて本邦人が企畫せる工業らしき工業を見たる以來各種の事業を開始せるもの或は將に開始せんとしつゝあるもの十有六を數ふるに至れり。尙此外にも會社組織によりて工場の設立を計畫せるもの少からずと云ふ。

内外綿紡績工場は二萬錘のラング式(フラット會社製)を設備するものなるが、時局の爲め機械の輸入意の如くならず、漸く四千錘到着せるを以て、本月末より事業を開始すべく、本年中には六千錘は運轉し得べき見込にして目下機械据付中なり。職工は大部分支那人を使用する見込にて、目下五十名許りを上海工場に送り傳習せしめつゝありと云ふ。同工場は山東棉花の一部に印度棉米棉を混じ、先づ16及20手を重に續ぐ見込の由、動力は全部電氣に依れり。

大日本麥酒株式會社工場の前身は千九百四年七月の創立に係り、資本金四十萬弗の株式組織を以て本社を香港に置き、醸造所を臺東鎮に設け、株主は香港、上海、青島、芝罘、天津等の各地に在留する英米獨佛人とするも、獨逸人最も多數を占め、極力販路の擴張に努めし爲め、成績良好にして毎年六分乃至八分の配當をなしつゝありしが、日獨開戦の爲め大正三年八月以降青島よりの輸出の途全く杜絶し、同年十一月青島攻落以來尙其儘となりしを、大正五年九月十六日大日本麥酒會社の買収する處となり、十二月二十五日を以て愈々醸造を開始し、本年四月より製品を市場に供給するに至れり。罐詰業は別表の外罐詰及粕漬製造所、山口商會支店ありて、何れも牛肉を主とし其他鶏肉、魚肉、

野菜、果物等を原料として製造し、日本及支那の各地は勿論、浦鹽を經由して、遠く露國へ販路を擴張しつゝあり。就中青島罐詰會社は最新式の製造機械を設置し、大いに將來を囑望せられつゝあり。石鹼製造は別表信昌洋行の外、鳴戸洋行あるも未だ完全なる工場なく、従つて充分なる製品を見るに至らざるも、信昌洋行は元獨逸人の工場を借受け、目下盛んに各種の石鹼を製造し、之れが販路の擴張に努めつゝあり。

以上及別表の外、最近德盛洋行は新に製革をなすべく事業を開始し、目下一箇年約二千枚位を製革し得べく設備しつゝあり。

青島主要工業一覽表

(大正六年九月調 總務課營業係)

要目	名稱	組織	設立年月	登記場所	本店所在地	青島名稱	事業種類	總資本額 (金千圓單位)
大日本麥酒株式會社	鈴木絲廠	個人	大正六年三月	青島	同	青島工場	麥酒釀造	11,000
内外綿株式會社	青島製粉株式會社	同上	明治二十年	大阪	同	青島工場	綿絲紡績	5,000
青島製粉株式會社	東洋製油株式會社	同上	大正五年九月	關東	同	青島支店	麥粉製造	500
東洋製油株式會社	油脂工場和合名會社	同上	大正六年四月	東京	同	青島支店	油脂製造	800
油脂工場和合名會社			明治四十二年	青島	同	青島支店	同上	200

青島名	本店所在地	登記場所	設立年月	組織	名稱	開業期	工務着手期	製(千單位)	器(同)	設(金千圓單位)	建(金千圓單位)	工場坪	工場坪	青島經營者	代表者氏名	拂込資本額	總資本額
青島名	本店所在地	青島	大正四年十月	株式會社	青島株式會社	大正六年六月	大正六年四月	一、〇〇〇	二〇	二九	四二五	一、五四三		金子慶治	服部馬次郎	三、〇〇〇	三、〇〇〇
青島名	本店所在地	青島	大正五年三月	同上	山東化學工業株式會社	大正六年九月	大正六年五月	三〇〇	二五	一六	一七一	一、三六二		兒島平吉	兒島平吉	二五〇	五〇〇
青島名	本店所在地	青島	大正六年八月	同上	山東興業株式會社	大正六年十二月	大正六年九月	三、〇〇〇	五〇	八五	一、三四三	二、六三七		津田幾次郎	渡邊柳次郎	一二五	五〇〇
青島名	本店所在地	青島	大正四年七月	個人	信昌洋行	大正六年十二月	大正六年八月	三六、〇〇〇	一五	五〇	二九六	一、〇四七		石橋藤次郎	大倉喜八郎	四、〇〇〇	一〇、〇〇〇
青島名	本店所在地	青島	明治三十七年五月	同上	山東火柴公司	大正六年十二月	大正六年五月	五〇〇	六〇	三〇	五三六	九七一		吉川力	荒井泰治	九〇	九〇

青島名	本店所在地	登記場所	設立年月	組織	名稱	開業期	工務着手期	製(千單位)	器(同)	設(金千圓單位)	建(金千圓單位)	工場坪	工場坪	青島經營者	代表者氏名	拂込資本額	總資本額
青島名	本店所在地	青島	大正五年五月	株式會社	日本株式會社	大正六年五月	大正六年三月	七〇〇	三〇	五〇〇	一、〇五〇	九、六八二		永井照八	馬越恭平	七、五二〇	七、五二〇
青島名	本店所在地	青島	大正六年三月	同上	大連株式會社	大正六年七月	大正六年三月	五〇	七五	九五二	一、五三九		青島支店	鈴木格三郎	三、七五〇	三、七五〇	
青島名	本店所在地	青島	大正六年三月	同上	青島株式會社	大正六年十月	大正六年三月	七、〇〇〇	四〇	六〇	五四六	五、七八六		寺田英三	中屋太右衛門	一、二二五	一、二二五
青島名	本店所在地	青島	大正六年五月	同上	株式會社	大正六年五月	大正六年五月	七、〇〇〇	四〇	六〇	五四六	五、七八六		秋田實之助	秋田實之助	二〇〇	二〇〇
青島名	本店所在地	青島	明治四十四年	同上	大倉組	大正六年七月	大正六年九月	二、五〇〇	三五	三五	七〇〇	一〇、七二〇		東	渡邊勝三郎	二〇〇	二〇〇
青島名	本店所在地	青島	大正六年二月	同上	大星洋行	大正六年七月	大正六年五月	八〇	五〇	五五	六八三	七、一八七		青島出張所	田中穆	三宅駿二	二〇〇

事業種類	罐詰製造	脂肪酸、ケリス	セメント及コ	石鹼製造	燐寸製造
總資本額	銀一〇〇	二五	一、〇〇〇	二〇	五〇
拂込資本額	銀五〇	二五	五〇〇	二〇	五〇
代表者氏名	日野強	佐志雅雄	田中末雄	津下信義	明石惣五郎
青島經營者	同人	磯野清平	山田實史	同人	同人
工場地坪	一	一、二二九	五、〇〇〇	三八四	一、五九一
工場建坪	一	二〇〇	四五〇	一四二	二五三
建築費	家賃	三	一〇	九二	一一
設備費	一四〇	八	五	三	二〇
器械製作地	日	米	日本及米國	獨逸	日
製産年額	七九	一、七〇〇	六〇	三二	一〇
開業期	既設	大正六年六月	大正六年九月	既設	大正六年九月
備考	大正四年十月	大正六年十二月	大正七年二月	大正四年八月	大正六年十月

- 備考
- 一、内地に本店を有する会社に在りては總資本を示す。
  - 二、大日本麥酒會社青島工場は青島麥酒會社(英獨合資)を買収せしものなり。
  - 三、青島鐵詰會社は日支合辦にして開業以來經營振はず。
  - 四、信昌洋行の石鹼工場は獨逸人の經營せるものを賃借す。
  - 五、大星洋行の卵粉工場にては獨逸人技師を僱使す。
  - 六、本表の外會社組織にて工場を計畫する者少からず。

### 第六、山東省の絹紬 (十月八日信)

#### 生産狀況

絹紬は古來山東省の特産品として人口に膾炙せられ輸出重要品の一たり。本省中之が製織の最も盛なるは昌邑にして、棲霞、寧海地方之れに次ぐ。之等地方に於ける工場數、機臺數は左表の如くにして、工場は普通毎年舊正月、前後一ヶ月及夏季一ヶ月間休業するを以て、繰業日數は一ヶ年大約三百日とす。一臺の製織高は幅の大小、地質の厚薄、職工の巧拙、運速等により差異あるも、一日平均半疋にして、一ヶ年平均百五十疋なり。故に各地方を通じ一ヶ年の製織高は、大約九十八萬疋にして、地方別に分類すれば左の如し。

地方	戸數	機臺數	製産額
昌邑地方	六五	四、二九〇	六四三、五〇〇
棲霞地方	五一	九〇〇	一三五、〇〇〇
寧海地方	六五	一、一七〇	一七五、五〇〇
芝罘附近	九	一八〇	二七、〇〇〇
合計	一九〇	六、五四〇	九八一、〇〇〇

之れを一九一一年の機臺數七六四臺（昌邑地方二九八臺、棲霞地方二九二臺、寧海地方一七四臺）總產額約十五萬疋に比すれば著しき發達増加を示せり。之れ全く需要の激増したるに由るものにして、將來益増加せんとするの傾向にあり。

前記の如く山東省に於ける絹綉の生産は、昌邑地方の製織最も盛にして、就中昌邑、柳疇、馬疇、夏店、夏家莊、揚家舖、姜家泊、閻家庵、孫家河灘、棲霞縣下の龍泉湯、庸家泊、殿后、崖子、灌水、央家、鳳凰崖、青山、其重なるものに屬す。而して之等諸地方にありては前記工場の外、各農家に於ても閑散時期に製織に従事するもの多く、其製産高優に二十萬疋を超ゆと云ふ。故に山東省の絹綉全産額は、時に原料糸相場及海外市況に依り差異ありと雖も、大約百萬疋と見て大差なかるべし。

芝罘附近にも前記の如く最近工場の開設を見るに至り、相場昇騰品薄の機會に際し相當の成績を納めつゝあるも、製品品質他產品に比して黒味を帯び糊多く著しく見劣りあり。前記工場の大部分は芝罘を去る百清里或は數百清里以上遠隔の地にあり。之れ工賃水質の關係に依るもの、如し。棲霞、寧海地方は原料糸豊富にして、關東系輸入にも昌邑に比して不便なきも、昌邑地方は全く原料糸の産出なく之を棲霞、寧海或は關東州蓋平、安東縣に仰ぐの不便あるに拘らず著しく發達したるは、水質及製産費の廉なりし爲にして、今後各地の發達するに従ひ經濟關係の變遷と共に、漸次衰微するに至るならんかと云ふ。

前記諸地方の産出絹綉は一般品質により大略左の種類に大別するを得可し。

昌邑物 一般に糊多き品質粗悪なる中幅細綉多し。

山裡物 一名寧海物と稱し、一般に品質上等なる二寬及老寬粗綉多し。

南山物 膠州附近日照、松遠、巨城地方産原糸を以て製織したる中巾洋綉にして品質寧海物に優る。

品質關東絲 原糸の需給

山東絹綉は全部大枠糸（枠の周圍五呎八吋）を用ひ、小枠糸を用ふることなし。原料大枠糸には左の

數種あり。

- 一、關東大枠糸（春糸）
- 一、本地大枠糸（秋糸）
- 一、大框控糸（本山及關東）（伏控糸）

此の外春秋油繭（油爛）襍繭大枠糸あり。

關東大枠糸は安東、蓋平、撫順地方の産出にして、山東産に比して品質悪しく黒黄色を帯び光澤少く、糊は糸量の一二割に及ぶ者あり、精練に際して練減多く製織に際しても毛立著しく、之のみにては製織する能はず、常に他產品と混用す。關東系中撫順附近産は品質稍優等にして、往々山東産に比して遜色なき者あり。之等關東州糸の大部分は龍口經由昌邑其他製織地に輸入せらるゝ者にして、

芝罘經由輸入せらるゝ者は、僅に其五分の一内外なり。税關統計に依る柞蠶絲の輸入額左の如し。

芝罘	一九一四年	一九一五年	一九一六年
龍口	五二六	一九七四	二、一一一
合計	五二六	二、三六六	七、一三九
		四、三六〇	八、二五〇

本表の數字は大部分大柞絲と見て大差なかるべく、龍口は千九百十五年十一月より開關したるものなるも、其以前にありても年々四乃至五千擔の輸入ありたるも正確なる統計なし。

本地大柞絲は牟平、棲霞縣下に於て本省産山繭を以て製絲したる大柞絲なり。同地方に於ける之が製絲は極めて多く、農家の副業的或は四、五十臺の繰糸器を有する極少規模の工場にて製絲するもの、及絹紬工場の有する製絲工場あり。年産額一萬擔内外とす。

品質關東絲に比して優り、淡白色を帯び光澤あり。絲條整一にして強く經絲に用ひらる。就中牟平縣下馮家及孤山地方産を以て、品質最も優秀なるものとす。

控絲とは出殼繭より製絲したるものにして、關東産本産共に數量少なし。共に伏控絲、秋控絲あり。伏控絲は春繭出殼より製絲したるものにして、淡白色を帯び絲質優等なり。秋控絲は秋繭出殼製絲にして伏控絲に比して光澤少く黒色を帯び絲質劣等なり。控絲は製絲困難にして絲條不同、類節毛立多きも

製織精練巧妙なる時は著しく光澤ありて白色を帯び、元來絲質強靱なるを以て、耐久力強く皺折目等の付方少なし。絲價普通品に比して五六十兩高しと云ふ。其他油亂及雜繭絲は、屑繭を以て製絲したるものにして、粗惡品の製織に用ふ。

之等各種の絲は何れも春絲は秋絲に比して色淡くして光澤に富み、絲質優秀なるを以て製織に適應も産額少なし。秋絲は光澤春絲に及ばず且粗硬なるも、産額多く比較的強靱なるを以て之を使用す。又新絲は舊絲に比して絲質強く光澤あり。

製造狀況

製織は從來支那人間に全部手織機を用ふ。柞蠶絲殊に大柞絲は、絹絲の如く絲條類節等整一ならず。製織中類節の表面に表はれたるを補修しつゝ、布面の圓滑を計り且打込を加減するを以て、力織機に不適當なるも、一般に粗惡品には本邦の羽二重の如き力織機を用ふるものありと雖も、多くは皆舊來の手織機と大同小異のものをを用ひ皆手投なり。織方の異なる點は箴打の方法にて、普通内地に於ては箴框は之を織前の反對の方に引かるゝ様なせるに反し、織前の方に引かるゝ様装置せるが故に、手にて箴框を先方に押し遣り、其間に拵を通し終りて手を放つときは、箴框は自己の重量により自然に織地前を打つこととせるなり。而して經絲の絲數は老寬洋紬は上下合せて二千四百本、同粗紬は二千三百八十本、緯絲は二本乃至六本を用ふ。職工の製織能力は技術の巧拙、絹紬の種類、地質の厚薄、絲質の良否等



により差異あるも、普通老紬一疋を二日に仕上ぐ。製織に當り支那人の唱ふる手織と力織機との優劣説を擧ぐれば左の如し。

一日織	上高	手織機	力織機
織上後の光澤	半疋	一疋半	
同 手觸	良	惡	
同 格打	良	惡	
同 長幅	少	多	
同 地質	不定	一定	
	打込緩なるも緊密	打込早きに過ぎ地質粗	

柞蠶絲は抱合十分ならず類節多き爲、製織工程中亂絲整理補修をなしつゝ、布面の圓滑を計らざる可らず。且絲條に精粗ある緯絲を織込むを以て、織方は緩慢なれ共、徐々緊密に格打なき様織上ざる可らず。此點より手織機は適當なるも製織力は殆んど力織機の三分の一に過ぎず。其他光澤手觸は勿論絲質職工の熟不熟等によるべきも、力織機製が長幅の一定以外缺點多きは、恰も本邦に於て輸出羽二重が、力織機に推移せんとせる時代の製品の狀況に髣髴たる者あり。今後尙多大の日子を経るに非ざれば、力織機のみ製品を見るが如きことなかるべし。

職工賃は土地及技術の巧拙に依り異なるも大略左の如し。

- 機織職工一人一疋 八百文乃至一吊文(一疋二日又は三日に織上ぐ)
- 原絲糊付(漿絲)工一人一日 二百文内外
- 繰返(落繰)同 同 百文
- 整理後の糊付(刷扒)同 同 二百乃至三百文
- 緯絲管卷(倣穗)同 同 百五十文
- 精練職工 同 同 三百文乃至四百文

以上の外食費は雇主の負擔にして一日二百文内外なり。

而して老寬洋紬一疋に要する原料絲、本山絲約一斤は價格六兩二匁六分、製織費二兩八匁五分、寧海より芝罘迄の運賃約一分五厘、賣買手數料二分及雜費二匁五分として、原價は九兩三匁七分五厘に對し時價十兩に付、機業家は一疋に付五匁二分五厘の純益を得べき計算なり。目下輸出不振なるも品薄の爲め相場割高なるも、時々變動ありて利益一定せず。

輸出狀況

絹紬の大部分は海外に輸出せらる。昌邑物は戰前地理の關係上青島より海外に輸出せられたるも、日獨戰爭以來同地の商關係薄らぎたる爲め絹物商は一時全く芝罘に移り、戰後秩序回復と共に又一

部青島に移らんとしつゝあり。

本品の需要は逐年増加しつゝあるも、一九一五年には歐米市況の好調に伴ひ、前年に比し一躍二倍の増加を示し、尙在荷薄の爲め需要に應ずる能はざるの盛況を見たり。昨年は各地共山藪不作にして絲質悪しく、且絲價未曾有の昂騰をなしたると、銀價の暴騰、輸出爲替の不利なりしとの爲、商内大に悲觀されたるも、尙全省の輸出は二萬擔以上なりしなり。今最近三ヶ年の輸出額を擧ぐれば左の如し。

芝	一九一四年	一九一五年	一九一六年
青	七、三三八	二〇、二四一	一六、一九九
合	三、二八八	二、二二一	四、六八二
計	一〇、六二六	二二、二六二	二〇、八八一

青島は日獨戦争の爲め一九一四年には一月より六月迄、一九一五年には九月より十二月迄の海關輸出數量なり。

芝罘よりの輸出絹紬は小包便の外、直接海外に輸出せられるもの少く、大部分は上海及香港の中繼港を經由するを以て、精確なる輸出先國別數量は判明せざるも、昨年に於ては大略左の如し。

佛	二〇%	其他諸國	二五%
米國及加奈陀	二〇%	米	二〇%
歐洲	一五%		

英佛兩國は其後漸次船腹缺乏、運賃保険料の高率により著しく減少したり。輸出は四季を通じ行はるゝも、最も盛なるは秋季及冬季にして、九月より十二月及翌年一月より三月頃とす。之れ輸送に一二月を要するを以て、荷物の時は最大の需要時季たる春夏秋を控ゆるを以てなり。

### 第七、山東省の經營 (十月十六日 濟南府發信)

#### 獨逸の山東省經營

山東省に於ける獨逸の經營は、十有七年を費したる割合に經濟的には發展せず。或は寧ろ經濟的經營は失敗にあらざりしやの感あり。只青島のみは内外人の居住に愉快と便宜とを與ふ可く、道路、植林、學校、衛生、水道、郵便、金融機關等其他百般の設備を遺憾なからしめ、又常に内外人を青島に吸収すべき手段方法を實行したるが故に、青島の外觀を一瞥しては何人も獨逸經營の偉大を説くと雖も、足一步青島を出て沿線に出づれば、緋川炭坑、博山の工業等に多少見る可きものなきにあらざるも、殆んど云ふに足るべきものなく、時局前四千人の獨逸人が、本國政府の有力なるバックを持ちつゝ何をなしつゝありたるかと疑はしむ。

#### 本邦人の南滿經營との比較

南滿洲に於ける本邦の經營貧弱なりとの評あるも、彼此を對照せば邦人の努力決して獨逸人に劣ら

ざるを思はしむ。山東が滿洲に比し住民の貧弱なる、衣服、食物に各之を見るに、更に辨髪せる支那人の未だ多き、何れも山東の經濟的に未開にして貧弱なるを證するものにあらずや。工業として數ふ可きもの、硝子、陶器等あるのみ。輸出品として獨逸經營の爲め増加したるもの、落花生、麥稈眞田等あるも、多くは土地を本位とせる農産物にして、此等と雖も滿洲に於ける大豆に比すべくもあらず。

### 本邦人山東經營の得失

獨逸の經營既に斯の如く、山東三千萬の人口あり、五百萬町歩の耕地あり、今後本邦人の努力の効果必ず擧がるべきは、比較的獨逸の努力少かりしだけ、寧ろ幸福ならんかと思はる。されど今後本邦人の發展上遺憾の點少からず。即ち本邦人の經營は常に本邦人本位にして支那人の爲めにせるもの少く、支那人を同化せしめ、本邦人を信頼せしむるに足る努力少き事之なり。

殊に昨年末に於ける山東革命に對し、本邦人の取れる態度は痛く支那官民の感情を害し、今日に至るも尙ほ融和せざるものあり。之に反し歐米人は牧師傳道者にして、爲す處多くは先づ病院を設けて彼等を慈惠し、學校を設けて教育を施し、彼等を善導之れ勸む。濰縣城外の米國人の經營せる一大教會の如き、七千人の信徒を有し、長老は支那人間に全然神の如く崇敬せられ居ると聞く。されば最近英國が苦力募集の爲め收容所を設け、半永久的の住宅を設けたる際の如き、支那人自ら進んで自ら土地を提供せるに反し、山鐵が僅の土地を買収せんが爲め交渉に日を重ね、小生同地へ立寄りし際の如

き、山鐵より特に出派し土地買収の交渉をなしつつあるも、十餘日を費やし未だ解決を見ずとか。彼此支那人の態度に對し本邦人の考ふべきもの少からず。革命當時濰縣より革命軍の徵發せる金額百二十萬圓、家屋の破壊、商品の徵發せらるゝもの二三十萬圓、爾來今日に至る迄之れが回復は勿論、事業に着手するもの少なしと聞く。此點果して然るや否は不明なるも、一時盛大なりし機業も、今は濰縣城内一の就業せるものなし。如斯本邦人に敵意を有するもの少からず。口に日支親善を説くも、之が前途瞭遠なるを思はしむるもの有り。

### 戦後商工戰に對する準備如何

支那に於ては何人も日本の支那に對する態度鮮明せざれば事業を企て得ずと斷言す。之れ實に留意すべき點と信ず。

次に戦後に於ける商工業爭覇戰に付いては、本邦人の歐洲人に比し用意周到に、深く奥地に浸入し歐米人の大まかなるに反し、些細の利益をも吸收し盡さんとする態度は、到底支那人には容れられざるべきも、歐米人との輸贏を争ふに付ては勝算あるべきかと思惟す。

## 第八、山東省の綿織物

(十月十七日  
濟南府發信)

山東省に於ける綿織物業は、革命前に於ては濰縣、濟南附近最も盛に、青州、周村附近之れに次ぎたる

も、革命以來此等機業家は四散し、濰縣のものは多く青州に、周村のものは濟南に出づるに至り、現時に於ては濟南附近最も盛にして、之れが盛衰の狀況は綿絲の需要狀況により一般を推し得べし。近年青島經由山東省に輸入せらるゝ綿絲は約十萬俵にして、之れが分布の狀況を見るに即ち左の如し。(單位噸以下一位)

地方	大正四年	大正五年	大正六年
膠州	二〇	四二六	一月-四月 一三〇
高密	七八二、三	四三〇、五	一九四、四
坊子	〇、一	二五九、八	三五、一
濰縣	二、九三三、五	七四〇、〇	四九二、五
青州	五九五、八	一、二二三、七	三一八、七
張店	—	七八、九	—
周村	一、八二四、三	六八三、五	二八一、一
博山	五七一、一	九一三、〇	四九五、〇
濟南	四、九四四、七	七五二五、七	三、〇一八、七
其他	—	—	—

即ち革命前に於ける綿絲の需要は濟南附近四割五分、濰縣二割五分剩餘が各地に分布せられたるも

現時に於ては大部分濟南附近に需要せらるゝことを知るべし。

生産の狀況は各地方共副業的に二、三臺、多くも五、六臺の手機を以て愛國布、粗布、敷布、浴布、棉袋、豆袋等を製織するも之れが製造織機數、製産高等は何等統計の徵すべきものなく知るに由なし。濟南に於ける機業は最も盛なりと雖も、尙足踏織機二十五臺を以て愛國布を製織せる長豊染織工廠最も大にして、次で岱北織布工廠が足踏織機十二臺を以て、粗布を製織せるもの之れに次ぎ、天津益華染織工廠が足踏織機六臺を以て愛國布を製織せる、何れも重なるものにして此外五、六臺の足踏織機或は手織機を有するもの約十戸あるに過ぎず。以て綿織物業の振はざる一般を推すべし。

此等工場に於ける愛國布は經に四十二手の諸を、緯に二十手若くは十六手を使用するも愛國布の製産は割合に少く、最も多きは十六番手を經緯に使用せる十三封度内外のシートンダにして、次いで多きは十二番手を經緯に使用せる地の厚き棉袋、豆袋なり。尙經十番手緯十六手を使用せる裏地木綿又多少の生産あり。

職工の勞働時間は一日十二時間内外にして、生産高は製品の種類職工の巧拙により一定せざるも、愛國布は九丈乃至十丈、粗布は一疋(百十尺四十碼)を普通一日の織上高とす。職工賃金は工場の規定により各異なるも普通出來高拂にして一日二十錢乃至三十錢を得と云ふ。前記愛國布を製織せる長豊染織工廠に於ては、一日の織上高四丈二尺迄は無給にして、以上一丈四尺(一丈四尺は衣服一着分に當り

之を一料と云ふ)毎に銀十錢を支拂ふと云ふ。但し何れの工場に於ても食費は雇主の負擔なりとす。職工は普通三年の期を定め徒弟として練習せしむるが、三年間無事に勤めたるものは爾後動靜自由なるも、三年以内に他に移轉せんとするものは既に給與せる食費を辨償せしむと云ふ。足踏織機は天津田村洋行製最も多く、之を濟南に於て模造せる濟南三義第一工廠製僅かに使用せらる。一臺の價格約三十弗なり。

以上の外、山東公立工業專門學校及省立工藝局に於て、前者は手機三十臺、織機十四臺、足踏織機一臺、後者は手織機及足踏機合せて二十臺を以て生徒の試作品を販賣しつゝあるも、之は純營利的のものにあらざるを以て茲には之を省略す。

山東省に於ては未だ綿紡績業を經營せるものなきも、最近之れが計畫をなせるもの少からず。即ち山東省に於ける棉花を利用して紡績を企圖せるものに、既に青島に内外綿株式會社(二萬鍾)あり。本月來其の一部運轉を見るべく、支那側に於ては前實業司長溜復の發起の下に、魯豐紗廠を計畫し臨清棉を重に使用すべく、臨清に第一工場を置き其事業成績良好なるに於ては更に第二工場を濟南に、第三工場を濟寧に、第四工場を德州に設置する豫定を以て、既に資本金七八十萬弗の株を募集し、臨清に敷地を買収し、昨年春英國に機械を注文せり。然るに最近の水害は前記臨清にも及ぼし、到底工場設置に不適當なるを認め、急に第一工場を濟南に設置することに決定し、既に敷地を定め機械の到着

を待つて事業を開始せん見込なりと云ふ。而して此濟南に設立すべき工場は、資本金百萬弗一株五拾弗とし、全部を拂込み、一萬六千鍾(英國ヘリンドン會社製)を以て山東直隸の原棉を使用し、十六手乃至二十手を紡がんとすと云ふ。同工場が機械到着迄に何等の故障なく、果して事業を開始するに至るべきや否やは、由來支那工場の特徴として疑問に屬するも、記して後日の経過を見んとす。次に最近本邦合同紡績株式會社が濟南に紡績工場を設立する計畫を立て、既に敷地を買収せりとも聞く。最近合同紡績社長が支那を視察せんとするは此の目的に出づるものならん。

### 第九、支那直隸省に於ける綿紡績業

(十一月五日  
天津發信)

直隸省に於ける織物業は、高陽、饒陽を首とし、天津北京等各地に於て近時其の發達著しく、支那固有の小巾土布のみならず、海外よりの輸入品を模造したる金巾、粗布、綾、愛國布、天竺等あらゆる綿布を盛に製織するに至れり。而して其の織物は各品種に渉るも、之を大體の分類により重なる産地を分てば左の如し。

- 一、主として廣幅物の製織地高陽、饒陽一帶、北京、天津附近
  - 二、主として小巾物(大皇布)を製織する定州、清風店を中心とする京漢鐵路沿線一帶
- 如斯織物業が近時著しく發達するに至りたる由來は、明治三十五六年頃、當時の直隸總督たりし袁

世凱が殖産工業の奨励に力を致し、日本人教師を招きて實習工場を設立し、日本より織機を輸入し、織機法を傳習せしむることに努め、同時に省内各所に大小六十六個の工藝局を設立せしめて織物業を奨励し、別に本邦織機の模造を始めたり。袁世凱退職後實習工場及工藝局は不賑を呈するに至れるも此處に於て養成せられたる職工生徒は、省内各地に於て織物業を開始するに至り、其後彼の利權回收熱の盛なるに連れ、斯業も亦大なる刺激を受け更に急速度の發達をなし、特に國貨提唱國產奨励の動機を得、更に日支交渉以來排日熱旺盛となるの好機を利用し、巧に愛國布の名の下に國民の思潮に乗じ、茲に急激なる進歩發達を遂ぐるに至れり。就中高陽附近一帶の地は地味農作物に適せず、此等地方は常に農業のみにて生計を立つる事困難なるより、最初は副業として織物を製し、僅かに小巾もののみなりしも、外國製綿布に倣ひ大幅の製織に移らんとし、漸次發達の機運にありしもの、前述の僥倖なる機會を得て茲に從來の小幅もの、製織の如きは之を他地方に譲り、専ら大幅もの、製織に従事し其の技亦非常に精妙となり、今日に於ては全然輸入品の代用品として製産するに至り、其の發達の急速なる寧ろ寒心に堪へざるものあり。今此等地方に於ける概要を記述すべし。

天津附近に於ける狀況

生産組織 天津附近の製織物は提花布、愛國布の如き細絲を用る染色したるもの多く、最初より比較的進歩せる製品を出しつゝありしも、近時高陽附近の著しき發達は一籌を之に輸するの感あるも、

尙北支那に於ける機業地として、一方の覇者たるを失はずして、近時益々増加の趨勢にあり。されど其の生産組織は極めて小規模にして、只帆布製織工場か何れも比較的整然たる工場組織による外、工場組織によるもの極めて僅少にして、最大なるもの七十臺を有するに過ぎず。就中都市に於けるものは工場も商舖も殆んど同一の體裁外觀を以て相接して軒を並べ、何れも間口一間半乃至二間位にして、商店なるや工場なるや識別に苦しむが如きもの多く、又其數多からざるも、製造と販賣を兼營するものあり、生産手段に於ても亦分業行はれず、動力を使用し力織機によるものに至りては僅かに帆布工場に於て之を見るのみ。未だ家内工業の域を脱せざるなり。機臺數の如き正確なる統計の徴すべきものなく、其の眞想を知るを得ざるも、支那側に於ける製品取扱者、及原料商の説を綜合すれば、其の機臺數約一萬一千臺に上ると云ひ、之を地方別に分類すれば左の如くなるも、吾人の見る處を以てすれば此約半數以下と見て大差なからんか。地方別戸數及機臺數を擧ぐれば左の如し。

地方	戸數	機臺數
西頭兒	三角地。老水營、聯興里、南北小道子、文昌官西、南頭營、章歇廟西、南大道、橫街子、學務處、小西關	六〇〇
候家後兒		二〇〇
河北兒	新房子、邵家園子、聶公詞	五〇
城內兒		三〇

製産品の種類及製産額 製産品の重なるは提花布、愛國布、各種土布、帆布なり。粗布は經緯十六手を用ひ長さ四十碼を以て一反とし、縞布は經六十手、緯四十二手、又は經四十二手、緯三十二手最も多く、五十六裁尺(約二十一碼)を以て一反とす。帆布は經二十手三合、緯十手二合を用ひ、長さ百碼、重量十オンス物最も多く、最近英佛國行の苦力の外套地等として需要多しと云ふ。

此等製品の製産高は之れ亦到底窺知し能はざるも、帆布は一日一臺力織機百二十碼、足踏織九十碼提花布愛國布は一日一臺一反(二十一碼)、土布は一日一反乃至一反半なるが、之を前記一萬二千臺より見れば、一日約一萬五千反内外の製産高ある譯なるも、斯くては天津港輸入綿絲二十萬俵中の約三分の一の七萬俵が、天津附近に於て消化せられざるべからざる次第なるも、之は事實に於て然かく多量にあらざるを以て、綿絲の消費高より見て、年産額百五十萬反乃至二百萬反にして、多くとも其れ以上には上らざる可きかと思はる。

職工の労働時間及賃銀 職工労働時間は工場により一定せられざるも、朝六時より午後九時乃至十時迄にして、賃銀は之れ亦一定せざるも三年間は單に衣食を給する止まり、爾後日給十二錢内外を支給す。勿論衣食を給せざる賃織によるものは一日二十四五錢を得と云ふ。

職工の休日は一日十五日に休むもの、或は日曜日に休むもの、或は正月盆の前後休むもの等ありて、

工場により區々たり。

使用器具製造方法 使用織機は帆布は、力織機足踏織機相半ばするも、粗布縞布等は足踏織機によるもの多く、格子等の小紋綾崩しはドビー又は轆轤仕掛により八本乃至十本の踏木を使用し、提花布は二百口のジャカードを使用し、ボタンによれり。而して此等の織機は最初は日本より輸入せられたるも、最近殆ど全部支那天津製にして、此等織機製造所の多くは市中に散在し、何れも店舗を構へ販賣に従事し、後方に製造工場を設け、織物製造に必要な織機、管巻、整經機は勿論、箆、綜統杆等一切の用具を製造販賣しつゝあり。只箆、杆、ジャカード類は今尙本邦より之が輸入を受けつゝあり。而して織機の價格は一臺三十五圓位なるも、臺數に應じ相當の割引をなすが故に、十臺位なれば一臺二十五圓乃至三十圓位にて求め得可し。

製品の販賣は市中の間屋に於て原料と交換するもの最も多きも、自己工場内に於て客の來るを待つもの亦少からず。

### 高陽饒陽に於ける狀況

高陽附近は最初は大尺巾の如き土布を製織し、盛に滿洲等に輸出したるも滿洲に於ては日本品に壓倒せられたるを以て、次いで粗布綾木綿の如き生の白木綿を製織したるも、其後漸次發達せることは前既に述べたるが、今日に於ては天津に於ける提花布愛國布の如き細絲を用ふる縞物染色物は勿論、

金巾、細綾木綿の如き輸入品に對抗すへき製品を盛に製出するに至れり。

高陽は保定を去る東南方八十支里(保定より馬車にて一日行程)の所にある一縣城にして、人口二萬を有すと稱せらる。城壁周圍四支里にして、實に北支那に於ける第一の土布集散市場として殷盛を極む。而して此處に集散せらるる綿布は、城内に於て製織せらるるものは殆んど論ずるに足らざるも、高陽を中心とする周圍四十支里に渉る各村に於て製織せるもの、殆んど全部を吸収し、之が集散市場たるを以て、此等附近一帯の産品を總稱して高陽布と云ふ。

此等一帯の機業地の殆んど全部は今回の水害の厄に逢ひ、一時は全く水澤と化し製織を中止せるも前述の如く元來同地方は土地荒蕪にして農業に適せず、昔時副業たりし織物業は今日は却て正業たるの觀ありて、現時非常なる打撃を蒙りたるも、早晚之れが恢復を見るに至る可く、尙水災の狀況に付いては、後段述ぶる所あるを以て、茲には水災前の狀況を基礎として記述せんとす。

前述の如く高陽は附近一帯の綿絲布集散市場たるの關係上、之が従業問屋の數も亦二百軒以上に達し猶引續き増加の兆あり。何れも非常の利潤を得、業務を擴張し其店舗の如きも何れも大規模の新築をなし、市街は殆んど改築せられ昔日の影を止めず。宛然成金の風潮にありたるが、今回の水害にて大なるもの六軒既に破産し、尙破産せんとしつゝあるもの十軒餘ありと云ふも、早晚之が復活を見るに至らんか。

**生産組織** 前述の如く高陽附近は土地に基く生産僅少なりし爲め、最初農家の副業として發展せるものに過ぎざるを以て、其の生産組織の如きも一臺二臺にして、多くも五六臺位を有し、農業の傍ら家族が就業するのみにして別に大工場を有するものなく、管だ饒陽には足踏織機百五十臺を有する工場一箇所ありと云ふ。如斯にして各村何れに至るも投杼の音を聞かざるなく、多くは子女が嬉々として繰絲經絲の糊付仕拵へに従事し、今日に於ては副業と云はんよりは、寧ろ之を主業とするにあらざるやの觀あり。

機臺數は前述の如く主として近郷各村落到に於ける農家の副業なるが故に、一臺二臺或は五臺と各農家に散在せるもの到底正確なる數字を得ん事至難にして、或者は二萬四五千臺と云ひ、或者は一萬二千臺と云ひ、又或者は約八千臺位ならんと云ふも、綿絲消費高等より推定するときは極めて少數の小巾織機を除き、大幅織物は高陽附近を通じて一萬二三千臺を下らざるもの、如し。

織機は今尙ボタン式手機によるもの少からざるも、足踏織機又少からず。四五年前迄は本邦より輸入したるも、今日に於ては殆んど同地に於て模造し、一臺三十五圓内外なり。提花布、綿緞子等はジャガードを用ゆ。之れ亦其數少からず。

製産品の種類及製産高 生産品の種類は實に多種多様に涉り、綿イタリヤン、ベネシヤン、ポフリン、キャラコ等細絲の優良品を除き殆んど發達し能はざるものなく、其の品質の如き亦種々雜多にし



て殆んど一定せずと雖も、日本綿布中の太物の製品に對しては敢て遜色を有せず。其の數量の如きは之れ亦た到底窺知し能はざるも、各方面の談話を綜合し綿絲消費高等より想定するに、年額二百五十萬乃至三百萬反に上るもの、如し。其の製品中最も多きは粗布にして、全額の四割を占め、次で多きは天竺の二割五分、縞物の二割、綾木綿一割二分、残り二三分が金巾の細綾木綿、綿緞子等なり。

使用原絲及織賃 粗布及綾木綿は經緯十六手を用ひ、天竺は經緯二十手、金巾は經緯に三十二手緯絲に二十、手細綾木綿、提花布、愛國布は經絲に四十二手緯絲に三十二手を用ひ、前記中提花布、愛國布を除き、其他は何れも四十碼を以て一疋とし、後者は約二十一碼を以て一反とす。而して此等は何れも工場にあらざるを以て、原絲を得て之に糊付け仕拵へより織上までなすものなるが、是等の織賃は綿布需要の好否及時季により一定せざるも、大約左の基準なるもの、如し。

粗布	一疋	大洋	七〇
綾木綿	一疋	大洋	七五
天竺木綿	一疋	大洋	八〇
金巾	一疋	大洋	九〇
細綾木綿	一疋	大洋	一〇〇
愛國布	一疋	大洋	六〇

提花布

一反

大洋

九〇

一日の織上げ高は、技術の巧拙熟練如何により一定せず。且つ農業に従事する傍ら製織するものなるが故に、其間甚だしき差異あるも、細綾木綿の如き一日十碼内外にして、一疋を織るに四日を要し綾木綿天竺木綿は一日約十六七八碼、金巾、提花布は一日約十二三碼を普通とするもの、如し。

尙ほ前記は概略の織賃なるも、彼等の多くは重に織上布と材料糸と交換する場合多くして、實際は織賃として決算せず。其品の出來工合を檢査し、其の製品に相當する原糸と交換するものにして、其織賃の如きも勘定に入れ原糸を受取るなり。即ち織屋と綿糸布問屋との間の布と綿糸との交換歩合が織賃となる譯なり。勿論之は普通最も多き場合なるが、問屋より絲の供給を受け賃織をするものも多少あり。

製品の販賣 製品の販賣は高陽城内に於て四九の日、月六回の市日ありて、附近の織物業者は其織上りたる綿布を持ち集まり、城内に於ける問屋も亦一齊に市場に出て、綿布の買入れ及綿絲の販賣をなす。而して其の販賣の方法は布と絲と交換するもの最も多く、次に現金を以て糸を仕入れ、現金にて織物を買うものあり。之は多少綿絲布の相場の高低に興味經驗を有するものにして、比較的資金の豊富なるものに限らる。即ち布を賣るに最高の問屋、絲を仕入れるに最低の問屋を選ぶことを得。更に原絲の仕入時期に對しても臨機の措置を取るを得るなり。次は原絲を借りて賃織をなすものにして、之

は資本乏しく且つ織布事情に對する智識程度の幼稚なるものにして、其の數極めて僅少なり。製産品の分布區域 前述の如くにして取引せられたる織物が需要者に渡るには、大抵の場合需要地の商人自ら來りて購入し去るを常とするも、往々間屋自ら直接需要地に店員を派して販賣に従事するものあるも、之は最近の事にして未だ其數多からず。而して此等綿布の分布區域は、大體左記の如くなりしと云ふ。

地 種 類 割 合

山 西 方 面 三 割 粗巾、綾木綿、天竺、縞物

張 家 口 方 面 二 割 粗布、縞物、綾木綿

直 隸 方 面 二 割 五分 天竺、金巾、細綾木綿、縞物

河 南 方 面 二 割 天竺、金巾、細綾木綿、縞物

其 他 方 面 五 分

水害後の機業地現状及將來 高陽饒陽一帶の機業地は殆んど全部水害の厄に遇ひ、一時は全く水澤と化し、製織を中止せるが、其後稍々減水せると共に弗々織出しを開始したるもの、如く、只水災による交通の困難と綿絲價格の騰落急激なるとの爲め、未だ不振の域を脱する能はざるも、前述の如く高陽饒陽織布の販路は、其の附近及直隸省に限らるゝにあらすして、寧ろ其の主要消費地が遠く蒙古、

甘肅、山西、河南等にあるを以て、直隸省水害が(勿論交通其他多少の影響は免かれずと雖も)遂に販路を閉塞し、斯業の不振を來たすものと斷言し能はず。故に水害機業地の秩序恢復と共に、最早や豐作に望みなき此地方農民をして全力を擧げて織布の製造に向はしむべく、今後に於ける綿織物の製造は益々發展するに至らんか。只今年内に於ける製産は、今日の狀態に於て或は平時の五割の生産を見るに過ぎざらんか。

餘 論

以上は北支那中最も紡績業の盛大なる直隸省の機業の概況を叙述したるが、更に此の際其の發達の經路を綜括して本邦斯業者の參考に供し、其の悔る可らざるを警告し、並に其の覺醒を促す、豈に無用の業ならんや。

屢々叙述せる如く、直隸省中最も機業の盛なる高陽附近は、土地荒蕪にして耕作に適せず、從て農業振はず、織物業の如き最初は農家の副業として發達せるに過ぎずして、其生産機の如きも一臺若くは二臺多くも五六臺位を有するに過ぎずと雖も、原料の供給及製品販賣の機關備はらざるなく、織上げたる製品は検査の後其の價格を決定せらるゝを以て、比較的丁寧親切に製織せられ、且つ自己の見込を以て生産するに非ずして、多くは問屋に於て其の時々需用及流行の變遷を聴取し製織するが故に、年を追ふて發達進歩し今日に至りたるものにして、極めて機を見るに敏にして進取的なり。されば今

日粗布を織るも明日は金巾に變じ、明後日は細綾に變ずる如く、時勢に應じて製品を變化することの迅速なる驚くべきものあり。されば四五年前の状況と、今日の状況とは全く雲泥の差あり。更に其の變遷の経路を具體的に概言すれば、外國綿布の輸入せられざりし時代に於ては、支那棉を以て絲を紡ぎ、幼稚なる織機を以て粗末なる土布を織り、需要に應じ來りたるが、其後外國綿布の漸次輸入増加を見るに至り、次で外國綿絲の輸入となり、從來の土布は其の材料を外國綿絲に仰ぐこととなり、其後外國綿布の増加を見て之を模造し、當時恰も當局者の獎勵と相待つて織機の改良、製織技術の進歩は粗布天竺等の比較的容易にして粗末なるものより次第に發達し、金巾愛國布細綾綿布等に移り、其消費綿絲の如きも十手十六手二十手等より、進んで三十二手四十二手に入り、更に四十二手六十手八十手等のシルケットを混用して極めて精巧なるものを織出すに至れり。而して織機の如き亦三年前大尺布を織り小幅なりしもの、今日は何れも大幅織機に變化せり。本邦の如き小幅織物を大幅に改良するの利害を云爲する事久し。勿論本邦と支那とは服裝上の差異ありて、小幅の如き本邦に於て多年の習慣を打破し能はざるものありて、一概に論じ能はざるも、吾人は支那が容易に之を實行したるを見聞し轉た感慨なき能はず。

如斯製造法及製品の變化の上に進取的なるのみならず、原料絲の如きも由來支那は商標に重きを置き、一たび商標の信用を得るに於ては容易に新商標の蠶食を許さざるも、當地方は一回試用し優良にして廉なるに於ては、舊を棄て、新らしきに就くこと敢て珍とするに足らず。以て其の一斑を窺知し得べし。

以上は現在に於て最も進歩を示したる高陽附近に就いて述べたるものなるが、饒陽の如き亦從來の小巾土布の産出多かりしが、近時粗布、綾、天竺等を専らとし、其他の地方に重に土布製織せらるゝに至り、天津北京に於ては從來より高陽同様の愛國布、金巾等細物の製織盛なり。其他の地方に於ても高陽の如く或は急激ならざらんも、兎に角漸次進歩すべきは敢て疑ひをさしはさむの餘地なきを信ず。

只生産組織に於ては天津の如き比較的纏りたる都市に於ても、尙ほ二三の帆布工場を除き、工場組織によるもの少なく、(支那式工場組織と云へば或は其數多からんも)前述の二三十臺乃至六七十臺を有するものも、住宅の一部に織機を据付け運轉せるに過ぎずして、工場と云はゞ云ひ能はんも、狹隘なる場所に僅に製織器具を詰め込めるのみ。採光は勿論、換氣、防火、防寒、調温の設備の如き到底望む可くもあらざれども、餘りに極端に不潔にして其の工場管理の不秩序なるに比し、寧ろ其の製品の優良にして侮るべからざるものあるに驚く。然れども如斯場所に於て棚を吊り或は機臺の下に座臥睡眠し醒むれば又勞働に従事し、粗末なる飲食、低廉なる賃銀に甘んずる支那勞働者による生産品と、今後本邦品が輸贏を争はんは將來容易にあらざるを思はしむ。否豈當に容易ならざるのみならず、吾人

は海外品の輸入が漸次減少せるの事實を擧げて、大に奮勵せざるを思ふ。北支那に於ける綿絲布の輸入狀況に就ては更に稿を新にして論ずべきも便宜上茲に一言する要あり。

天津港に輸入せらるゝ綿布中、本邦に最も關係多き粗布、綾、細綾、金巾、天竺類の輸入額は大正三年を最高として、爾來減少の傾向にあり。而して此等の減少は重に外國品の減少にして、支那製品は却て輸入を増加しつゝあるを見る。今之を統計により徴せん左の如し。

天津港綿布總輸入表(單位反)

年次	外國製綿布輸入額	支那製綿布輸入額	合 計
一九一〇	二,四九五,一八八	七九,四九一	二,五七四,六七九
一九一一	二,二六六,三九一	三二,〇七五	二,二九八,四六六
一九一二	三,三八五,五七一	五二,九三一	三,四三七,五〇二
一九一三	三,五三八,六六四	一〇四,六〇五	三,六四三,二六九
一九一四	二,八三三,四一五	九九,四二三	二,九三二,八三八
一九一五	二,二二四,一七七	二〇八,七〇〇	二,四三二,八七七

以上の表により天津港綿布總輸入額が漸次減少しつゝある事は、單純には論じ能はざるも、要するに北支那に於ける此等綿布の製産の發達を意味するものなり。(綿絲の輸入額は綿布の輸入減少額に

伴はざるも増加しつゝあり)又斯く總輸入額減少し外國品が減少せるに拘らず、之に反し支那綿布の輸入が増進を示しつゝあるは、他地方に於ける支那綿布業が漸次發達しつゝある事を示すものにあらざるなきか。

勿論以上の總輸入額の減少が本邦品に限りたる次第にあらざるも、大部分を占むるものは本邦品なるが故に、支那織布業の發達によりて、此れと常に競争の位置に立たざるべからざるものは本邦品なり。而かも彼等は前述の如く工賃の低廉に加ふるに、日貨排斥、國貨獎勵或は關稅等によりて有利の地位にありて、之れが競争を輕視すべからざる勢を示しつゝあり。而して如斯太地綿布は支那に於て既に相當發達し、之が輸入亦漸次減少の傾向にあるが故に、吾人の今後進む可きは、細地綿布の優等品の製造にあるも、之等品種は英國其他歐洲品の有るあり。其の販路に侵入せん事之亦容易にあらず。唯歐洲戰亂以來英國品等の輸入減少は、今日に於て殆んど日本品獨占の状態にありと雖も、其品質たるや到底マンチエスター物に比すべくもあらず。之れが對抗は尙前途遼遠なるを遺憾とす。如斯にして本邦品は太物に於て支那品と競争し、細物に於て外國品との競争力充分ならず。雙方より押され今日の狀態をして推移せんか、本邦品の輸入或は今日が全盛期となり終らんかを悞る。而して吾人の更に懸念に堪へざるは、戰後歐洲に於ける經濟狀態は物價騰貴、勞力缺乏、賃銀昇騰租稅增課等の爲め生産費の増加となるべく、支那に輸入すべき商品は勞力豊富、賃銀低廉なる當地に於て製造するを便とし、

技術と資金とを携へ來り支那内地に於て期業を經營することとなり、益々支那の工業をして發展せしむるに至らん事之なり。

されど吾人は斯くて前途を悲觀して止む可きに非ず。歐米品輸入杜絶の今日に於て、充分彼等の販路を根底より覆すべく生産上の研究をなし、本邦人が支那に於て之を經營する利あるものは速に來りて之を爲すの要あるべく、徒に支那の工業を蔑視し、一日の安を愉むは策の得たるものにあらず。吾人の敢て採らざる處なり。

### 北支那に於ける綿絲紡績業

天津を經由し海外に輸出せらるる棉花は、漢口、上海に於ける需要の状況、及交通機關の都合により年々一定せざるも、大約年三十萬俵内外にして、内約十萬俵は日本へ、二十萬俵は米國其他の諸國へ輸出せらる。而して此等棉花の大部分は直隸棉にして、品質硬く色白きも、毛足短く、重に布團用に過ぎざるも、山西陝西棉の出廻り亦少からず。後者は米棉種を移植せるものにして白味あり。毛足長く紡績用に適し、殊に昨年來直隸北河方面に於ても米棉種を移植せるに、山西棉に比し品質良好にして紡績に適し(四十手位迄を紡き得と云ふ)、本年は其收穫五千俵に達せん見込なりしが、早魃の爲め二分作に過ぎざりしも、尙千俵を得べく、如斯紡績用棉花が必要に應じ容易に得能ふに至りたる支那に於ける産業熱の勃興とは、從來紡績工場地として顧みられざりし北支那に於て、之れが企業を計

畫するもの尠からざるに至れり。

青島に於ける内外綿紡績株式會社工場、及び濟南に於ける魯豐紡績等に就ては、曩に概略報告せるを以て、茲には天津附近に於ける状況を概述すべし。

一 直隸模範紡紗廠 本廠は直隸省立工場にして、最初直隸省に多量の棉花の生産あり、且つ綿絲の需要多きを以て、獎勵且つ名の如く模範の意味に於て現工廠長王竹銘(東京高等工業學校卒業生)の建議に基づき、民國四年五月設立せられ、最初一萬五千鍾(英國ハワード式)を以て昨年夏より運轉を開始し、更に今年九月三千五百鍾の増鍾をなし、現時全鍾數五千中約半分を運轉しつゝありて、殘餘は目下据付中なるが早晚全部の運轉を見るに至らん。

資本金は四十萬弗にして、土地、建築物及設備に三十五萬弗を固定し、殘餘五萬弗を流通しつゝありと云ふ。

二 製品は最初十手乃至二十手を製作せる由なるも、目下は十六手のみ紡絲せり。製産率は一鍾一晝夜約百三十匁なり。創業以來の成績は昨年は一割の利益を擧げ、今年は更に綿絲高の影響を受け約二割の利益を擧げ得る見込なりと云ふ。而して此等利益は資金に對する八分は政府の收入となるも、殘餘の處分は廠長の任意なりと云ふ。原料は全部支那棉花にして重に直隸棉を使用し、之れに山西棉を混す。其の割合は直隸棉八分、山西棉二分の割合なり。而して之れが購入は總て現金を以て産地に出張

心買入る」と云ふ。諸人等、山西、山東の諸省より天津に於て爲さず、全部天津より三十支里乃至五十支里位の津浦京奉鐵路附近の村落より來り居り、擧げて寄宿舎に收容せり。職工募集は殆んど困難を感せず。次の如き職工規則を辻々に貼付せる儘にして豫定人員を得たりと云ふ。

## 直隸模範紡紗工徒廠規則

- 一、工徒以年在十三歳以上十五歳以下心靈手敏身體強健者爲合格必須取其保結方准入廠
  - 二、工徒入廠後給與伙食試看習藝二月如果資質可教即令其在廠學習除伙食外每月給月費大洋二角
  - 三、工徒習藝期限以二年半爲滿須服從本廠之命令遵守一切之規則違者記過記過三次即行斥革在此期間內倘無故告退或犯規被革者應追繳歷年伙食月費以示懲戒
  - 四、工徒在習藝期限內除本廠規定之假期及婚喪大故外諸假時酌控月費若干醫藥等費由本廠負擔半額
  - 五、工徒習藝期滿後按技藝品行之如何升充機工漸至工匠酌給工資如經本廠許可就他廠工匠或機工時由本廠發給證書以資證明
- 而して前記規則にある如く、二ヶ月は試験をなし、此期間内は衣食を給するの外一ヶ月二十錢を與ふ。

斯くて試験を終り職工として可なりと認めたるものは、漸次給料を上せつゝあり。目下職工給料は月三十錢乃至六圓位にして、六圓を支給せられ居るものは、創業以來既に二年半を経過せる中の最優等工にして、此の二年半位勤績せるもの、五分の四は尙月二弗位なりと云ふ。勿論工場としては此等給料以外、衣服食物より理髮、風呂或は醫藥等總べて支給するを以て、諸掛及俸給を加算すれば平均職工一人の費用は六弗二十錢なりと云ふ。募集費用を要せず、給料如斯低廉にして、本邦職工に比し勞銀の廉なる特に注目し値す。

職工の能率は創業後日尙殘く十分に明かならざるも、敢て本邦人と多く徑庭なきもの、如く、普通リングカード錘を一臺四人、粗紡機一臺二人、練條機一臺三人、カード五臺を一人にて受持ち居れり。工場は一階建の全然日本式に則り、鋸式の工場なるも、湿度調節の設備なく、夏時は平均百匁位に生産率減すと云ふ。

生産費は一俵二十五兩平均なりと云ふ。生産費高きに失するも其内容を詳細に知るを得ざりき。荷造包装は全部日本式に則りつゝありて、製品の販賣は未だ製産額多からざるを以て全部顧客の來るを待ちて賣るも、賣行良好にして、一週間前に現金を持ち來り製品を渡しつゝありと云ふ。前記流通資本少なきも之等の金を利用し得るを以て、頗る都合よしと云ひ居れり。製品価格は本邦の藍魚の相場を標準とし、藍魚より常に六兩安く賣りつゝあり。

二 裕元紡織有限公司(附裕享紡織有限公司) 民國四年日貨排斥の餘憤、國貨愛用熱の盛んになりし結果、新に天津に紡織工場の設立を計畫せられたるものに裕元、裕享の兩紡績あり。前者は資本金二百五十萬元、後者は資本金百五十萬元なり。何れも農商務の認可を経て規定により保息(資本に對する八分の補給利子)を給與せらるゝものなり。

而して裕元紡織公司是前記資本二百五十萬元中、第一回拂込八十萬元を以て事業を開始すべく、米國サコ、ロウエル會社に二萬五千錘を注文し、既に工場の建築を了へ、紡機亦据付を終りたるも運轉資金に窮し、事業を開始するに至らざりしか、本年五月大倉組及日本棉花株式會社より八十萬元を借款し、全部の經營を日本人に委任し、内容日支合辦に似たる形式に於て、最近マネジャア及技術者を鐘紡より招き、着々事業を進捗せしめつゝあり。されど最初支那人經營者に於て本事業に關する經驗者なかりし爲め全部工場の設計を米國人に任せ機械注文の如き又之を委任し、原働機を英國に注文せる爲め之が到着遅延し、最近漸やく之れが据付に従事しつゝあるを以て、之が完成を待つて運轉を開始すべく多分明年一月末に至らば製品を見るに至らん乎。

工場の設計前配の如く米國人の設計になり、工場の一部は二階建にして、本邦紡績工場に比し狹隘の感あり。作業上幾多の不便を免れざるべく、且本邦に於て未だ使用を見ざる米國式なるを以て、作業上幾多の困難に遭遇せんも、之が經營の任にある日本人は何れも多年鐘紡に於て充分の經驗を有し、

又之が成果を擧ぐ可く非常なる熱誠を以て従事しつゝあり。且つ前記直隸模範紡紗廠が既に相當の成績を擧げつゝあるに徴するも、必ず良成績を得んこと敢て疑ふの餘地を存せず。而して吾人は本工場及内外綿青島工場の成績如何により、從來支那紡績業が多く楊子江沿岸に發達し、氣候寒暑の差激しく、工業用水に乏しく、物資の供給に不便多く、上海附近に於けるが如く訓練ある多數の職工を容易に得能ふや如何等、工業地としての要素に缺ぐる處尠からず、又幾多未知數多き北支那に於ける紡績工業經營の難局を知るを得べきなり。

同工場運轉の曉には、支那棉花を使用し、十四手乃至二十手の範圍に於て、十六手平均の紡績を紡ぐ豫定なりと云ふ。尙本工場は名の示す如く將來織物を兼營する見込なるも、幾何の設備をなし如何にすべきやは、今日に於て未だ之が計畫立ち居らずと云ふ。

次に前記裕享紡織公司是最初棉花の産地たる石家庄に工場を設立する計畫を以て、紡機一萬五千錘を英國ヘザリントン會社に注文せるも、時局の爲め機械の到着見込たゞす、爲に事業進捗せず。今日に於ては機械の到着を待つて裕元紡織公司に合併の上、天津に於て事業を開始せん見込なりと云ふ。

三 華新紡織公司 前記裕享に前後し計畫せられたるものに、天津華新紡績公司あり。資本は政府より百萬元、民間より五十萬元を募集し、同じく米國サコ、ロウエル式二萬五千錘を以て天津に工場敷地をトし、既に機械は到着せるも、未だ倉庫の一部分を建設せるに過ぎずして、之亦資金缺乏の爲め

進捗せず。最近中日興業會社等より資金の融通を得んとしつゝあるも、未だ成立するに至らず。今日に於ては果して何時事業を開始するに至るべきや不明なり。

以上の外北支那に於ける紡績工場としては、河南省彰德に於ける廣益紗廠三萬二千錠あり。同工場は最初五萬錠の會社なりしが、大正二年頃火災の爲め減錠し目下二萬七千五百錠を運轉し、原料は山西棉四分河南棉六分を用ひ、十手十四手を紡げり。同工場は全部支那人の經營に係り、火災等の爲め負債多く、會社の内部殊に會計紊亂し、常に經營難に追はれ、今日に於ては一日十手四十俵十四手二十俵を紡ぐに過ぎずして、幾度か賣却を傳へられたるも、未だ適當の經營者なく今日に及べり。

北支那の紡績業に附隨し、忘る可からざるは手紡績絲なり。之は清風店附近一帶に産する土布が、經絲に輸入十番手を用ひ、緯絲に手紡績を用ゆるものにして、其の量は明かならざるも、此等地方に消費せらるゝ土布經絲用十番手の年額は二萬俵を下らず。故に其の量たるや僅少にあらざる推して知るを得べし。

工業用水の不足、電力の供給の不調、土産原料の乏しき等、種種の困難に當りては、工場は其の生産を減じ、或は閉鎖せざるを得ず。又、支那の工業は、未だ發達の途程に在りて、其の進歩は漸進的なり。故に其の生産は、漸進的に増進せざるを得ず。又、支那の工業は、未だ發達の途程に在りて、其の進歩は漸進的なり。故に其の生産は、漸進的に増進せざるを得ず。

### 一、英領加奈陀

#### 第一、加奈陀機械工業概観 (大正七年一月五日在紐育發信)

臨時産業調査局 三 輪 震 一  
技師 三 輪 震 一

「カナダ」に於ける工作機械製造者は、主として「オンタリオ州中「オンタリオ湖」の西部及び北部、即ち「ハミルトン」「トロント」方面に集り居り候。此の種の製造者中に「ジョン、バートラム」親子會社(The John Bertram & Sons Co.)、及び「カナヂアン、マシネリー、ローボームン」(Canadian Machinery Corporation)を最著名なるものとし、其精良なる工作機械を製作する事、米國第一流の會社に劣る所無之候。加之「バートラム」社は、米國第一流の大型工作機械製造者たる「ナイルス、ビーメン、ボンド」(Niles Bentment Pond Co)の下請け會社として従業する事此所に年ありて、優等なる「ナイルス」型の「レース」「プレートナー」「スロッチング・マシン」等は續々製作せられ、以て「カナダ」に於ける工作機械製造者のために、大に氣を吐くもの有之可くと存じ候。

其二、三の彈丸工場も視察仕候處、皆Pneumatic Chuckを使用し居り候。目下「カナダ」に於ては男職工の不足を補ふため、兵器工場に限りて女工の使用を許し居るを以て、之等の工場に於ては女工は



Band Conveyor には無之候。Traveling Chain Block の下部に Band を付けしものにて、嘗て「ホーン」商會が我々を金春館に招きて、Niles Bement Pond Co. の八吋砲彈製造の活動寫眞を見せたる時、御留意ありし装置に候、易く六吋彈丸(目下盛に製造中なるは英國の六吋及び米國の七十五耗にて候)を 鍍盤まで運び、此 Pneumatic Chuck に装入し、空氣弁をひねる事により、砲彈は最易く其中心に固定せられ候。此の Pneumatic Chuck の如き、目下「カナダ」の工場に於て、盛に製造致せられ居候。此他一般の機械工業は皆米國又は英國の指導を受け、甚だ進歩せるもの少なからず候。然れ共需要の莫大ならざる關係上、同一の製品を製造する工場の數は餘り多からず。從て「カナダ」全體としての生産額は極めて多大ならずと雖、個々の工場を見る時は、其規模其製造額の極めて大なるもの有之候。

今「カナダ」に於ける諸工場を通覽すれば、之れを次の二種に區別する事を得可く候。

- (一)、「カナダ」に本社を有し、「カナダ」に於て其製造工場を具へ、其製品は單に「カナダ」に於ける需要を滿すの外、或は米國に、或は濠洲に、或は東洋に其製品を輸出するもの。
- (二)、米國に本社、本工場を有し、唯其「カナダ」方面の需要に對し輸入税を避けんがため、其分工場を「カナダ」に設け、「カナダ」に於ける需要のみを充すを目的とし、米國に於ける本社より特別の命令あるに非ざれば其製品を「カナダ」以外の市場に供給し得ざるもの。

第一種に屬する工場は多く「カナダ」に於て獨特の發達をなしたるものにして、第二種は既に米國に於て充分發達したる工業を新に「カナダ」に移植したるものに候。此第二種に屬するものに英國を本社とするものも有之候。「アームストロング」「ピカース」等之れに屬し候へ共、其數余り多からずと存じ候。

「カナダ」に於ける兵器工業を見るに、英本國の方針が其經濟事情により、漸次米國に砲彈の注文を發する事多く、之れに於て最近英國との契約品を完納したる砲彈工場は、米國政府より其佛式七十五耗砲彈の注文獲得に努力し、既に約五百萬弗を算するの契約を得たりと申し居候。而して此際政府の軍需局 (Imperial Ammunition Board) の方針を見るに、「カナダ」の工場への注成品としては被服、靴等を主となし、以て戦後直に其製品の需要に頓挫を見る事なき品を撰び、戦後彈丸工場の被る如き恐慌を避けしめんと計畫し居る様に見え候。從てある工場に於ては、其彈丸製造用壓搾機等を最近米國工業者に賣り渡したる例を聞き申し候。

更に戦後に於ける一般工場の態度に付き、其支配人又は社長マネージャーの意見を尋ね候に、彼等は目下戦時中は職工不足と材料不足とにより生産額も少なく、其捌路を憂へざれ共、平和の復せらるゝや、職工の戦地より歸來する事と、材料の豊富に得らるゝ事とを豫想し、併て米國より多大の製品の侵入す可きを慮り、一向濠洲東洋に自己の製品の捌路を見出さんと考へ居るを看取仕り候。

第一、歐洲化學工業一端 (大正六年十二月着)

臨時産業調査局 技師 吉田信一

1. 「ナイトロゼンプロタクツ、エンド、カーバイド」會社の

硝酸製造装置の見積

「ナイトロゼンプロタクツ、エンド、カーバイド」會社(Nitrogen products and Carbide Company)は「オストワルト」式硝酸及硝酸「アムモニア」製造法の特許を得たる各國(「ライラント」及「ウエストリア」を除く)に於ける製造權を所有せるものにして、千九百十三年五月の設立に係り、其資本金は二百萬磅(内拂込八十萬五千三百五十磅)なり。而して目下瑞典の「アルビー」(Alby)及諾威のオツタ(Odda)に石炭窒素製造工場を有する「ナイトロゼン、フアーチライザーズ」會社(Nitrogen Fertilisers, Limited)の株券全部(資本金二十二萬磅)を所有し、尙「アイスランド」に一ヶ所、諾威に三ヶ所の水力權を有し、倫敦市外なる「ダゲンハム」(Dagenham)、「マンチエスター」、「蘇格蘭、及愛耳蘭等に硝酸製工場を有し、又佛蘭西及米國等に對しては製造權を讓渡せりと云ふ。

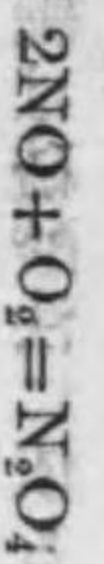
日本に對しても製造權讓渡の希望を有し、曾て交渉を試みたることありしも成立するに至らず。代理權は三井物産の手にありと云ふ。

製造法の概要

本法は既に知らるゝが如く「アムモニア」を酸化するものにして、「アムモニア」に空氣を混じ白金觸媒を通過せしめ、溫度及通過速度を適當に調節すれば



なる反應は殆んど定量的に進行し、九十五「パーセント」の得率を擧ぐることも必ずしも困難ならず。其際發生する反應熱は、之を瓦斯の豫熱に利用す。使用せる觸媒は別に損失を生ずることなく、「アムモニア」中に炭酸瓦斯或は二酸化炭素を混するも影響を來さず。但し觸媒は漸次に脆弱となり、碎くるを以て時々再製の要あり。觸媒を通過せる瓦斯は之を冷却装置に導きて約四十五度に冷却すれば



なる反應を生ずるを以て之を吸収塔に送り、塔の上部より稀薄なる硝酸を落下せしむれば、瓦斯は水に作用して



なる反應に依り硝酸を生ず。生成せる硝酸の濃度は、塔の耐酸度に依りて異なるべきも、一般に五十三「パーセント」硝酸を得ること難からず。塔の耐酸力良好なるに於ては、六十「パーセント」のものを得べし。

硝酸の濃縮は硫酸法に依るものにして、九十六「パーセント」の濃硝酸と爲すを得べし。

#### 製造装置の概要

一、「アムモニア」發生装置 原料たる「アムモニア」は、如何なる方法に依りて得たるものにも使用するを得べく、硫酸「アムモニア」を原料とする場合は、消石灰と共に鍋中に於て直火を以て熱し、最後の痕跡は蒸氣を通じて逐出す如くせり。「アムモニア」液を使用する場合は、蒸溜釜中に於て直接蒸氣を通じて熱するものにして、「アムモニア」液は之を豫熱し、操作は連続的に行はる。石灰窒素を原料とする場合は、「オートクレーブ」中に於て蒸氣を以て熱し分解を行はしむるものにして、作業は連続的ならず。

二、「アムモニア」乾燥装置 發生せる「アムモニア」瓦斯は、「コンデンサー」に依り、水分を凝縮せしむるを要す。凝縮せる水は多少の「アムモニア」を含むを以て、再び蒸溜釜に返して「アムモニア」を回収するものとする。之に依りて瓦斯中の水分三乃至五「パーセント」となる。

三、「アムモニア」瓦斯槽 此瓦斯槽は普通の構造にして、壓力調節の作用を爲すものなるも、「オイ

ルシール」にせざるべからず。

四、觸媒装置 瓦斯槽より來る「アムモニア」は、「ヴァルグ」を経て混合装置に入り空氣と混合す。空氣は唧筒に依り、塵埃爐過機を通過し來り、「アムモニア」に混す。混合せる瓦斯は、更に「スクリーン」「バツフル」等を通過し、十分に混合したる後、觸媒装置に於て酸化せらる。酸化瓦斯は「アルミニウム」管にて陶器製の冷却装置に導かる。

五、吸収塔 此装置は耐酸煉瓦を以て造り、内部には耐酸物を充し、上部よりは稀薄なる酸又は水を流下し、瓦斯は下部より上昇せしむるものにして、何等複雑なるものにあらずるも、全装置中最も精緻なる部分にして、煉瓦の耐酸が十分にして、且繼き目を出來得る丈け薄からしむ爲、其形狀は甚だ正確ならしむるを要す。茲に生成せる硝酸の濃度は、約五十三「パーセント」にして、極微量の「アムモニア」を含有するも、低級酸化窒素を含まず。

六、濃縮装置 此部分は硝酸蒸溜装置及硫酸煮詰装置より成り、「カスケード」式にして何等特殊のものにあらず。

#### 工場建設費及硝酸製造費

建設費及製造費は、規模の如何に依り一噸當りの價額に多少の相違あるべきも、茲に年額八千噸の濃硝酸製造の場合を擧ぐれば左の如し。製造費は年三千五百噸の場合までは、略次に示せるものと同

様なりと稱せらる(愛耳蘭工場の最初の計畫は、年三千噸の趣なるを以て、此程度にても大差なきものと思考せらる)。

(イ) 工場建設費

(一) 建物

動力室及蒸氣發生室

七〇〇

オートクレーヴ

八〇〇

觸媒室及實驗室

一、五〇〇

硫酸煮詰室

二、〇〇〇

硝酸濃縮室

二、〇〇〇

計

七、〇〇〇

(二) 動力

汽罐、過熱装置、コムプレッサー、發電機二臺(各百五十キロワット)真空唧筒、コンデンサー等

九、〇〇〇

計

九、〇〇〇

(三) オートクレーヴ

九、〇〇〇

オートクレーヴ五個

二、〇〇〇

グナルヴ、パイプ、アムモニア乾燥装置瓦斯槽等

六、八〇〇

計

八、八〇〇

(四) 吸収塔

吸収塔二十一個(リバプール迄の運賃及組立費を含む)

一九、九〇〇

吸収塔の小舎

三、七〇〇

陶器部分

五、〇〇〇

冷却装置

二、〇〇〇

計

三〇、六〇〇

(五) 觸媒

觸媒装置(取付費共)

九、〇〇〇

白金十五キロ(五割の豫備を含む)

五、〇〇〇

計

一四、〇〇〇

(六) 酸煮詰費

カスケード硫酸煮詰装置十三組(各十噸、附屬品共)

一〇、〇〇〇